令和５年度版『ひろがる言葉 小学国語　一下』年間指導計画・評価計画（案）

教育出版 2020年5月

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第１学年及び第２学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。
(3) 言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	2	しを　よもう あめの　うた	□定型から生まれるリズムや響き，オノマトペからのイメージの広がりをとおして詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1・2	1．雨（の音）について交流し合う。 2．斉読したり，一人読みをしたり，音読を繰り返す。 3．二連の，雨が当たった物と，そこから響いてくる音のイメージを話し合う。 4．自分だったら，どんな音をイメージするか発表し合う。 5．オノマトペの部分や当たる対象（「やね」「つち」「かわ」「はな」）を換えて，自分たちの「あめの　うた」の詩を作り，発表し合う。	○音読を繰り返し，音読を楽しむ。ペアやグループ，全体など組み合わせを工夫する。 ○言葉の楽しさとともに，どんな様子かを思い浮かべながら音読させる。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて，学習の見通しをもって音読しようとしている。		詩
10	6 （書く6）	見つけたよ，いきものの ひみつ	■生き物とふれ合ったことや見聞きしたことを思い出して書く。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。	1 2・3 4・5 6	○学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** 1．生き物とふれ合ったことや見聞きしたことから，伝えたい生き物を決める。 **組み立てよう** 2．よく思い出して，メモに書く。 **書こう** 3．メモに書いたことから，伝えたいことを選び，書く。 ○学習を振り返る。	○生活科と関連させて生き物を観察・飼育させたり，高学年に協力を仰ぎ，学校で飼育している生き物と触れ合ったりする経験をさせておきたい。 ○生き物とふれ合ったことや見聞きしたことなどを想起させる。 ○P９上段の観点「様子」「動き」「思ったこと」を確認し，マークをつけてメモに書く。マークは実態に合わせ，オリジナルのマークを示してもよい。この学習以降，または他教科の学習でも統一したマークを使用し，定着させたい。 ○メモに「短い文で」書くことが重要。長い文で書いてしまう児童も見受けられるが，徐々に短く書くことにも慣らしていきたい。 ○メモに書いたことの全てを書く必要のないことをおさえ，いちばん伝えたい「ひみつ」を中心に書くよう指導する。 ○めあてにそって，振り返られるようにする。	◎【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け，学習の見通しをもって文章を書こうとしている。		漢字／伝える／メモ／様子／伝えたいこと

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10 ～ 11	15 （書く10）	一　かかれて　いる　こと を　たしかめよう	□■自動車の「やくわり」と「つくり」に気をつけて読み，乗り物のことを紹介する文章を書く。						
10	5	はたらく　じどう車	□「やくわり」と「つくり」に気をつけて，はたらく自動車について説明した文章を読む。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れること。　⇒知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒知技(1)ク △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。　⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。　⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。　⇒思判表C(2)ア	1 2～5	○単元について話し合い学習の計画を立てる。 **確かめよう** １．書かれていることの大体をつかむ。 出てくる自動車の名前やその自動車のことで知っていること，もっと知りたいことを発表し合う。 **考えよう** ２．はたらく自動車の特徴をノートにまとめる。 （1）それぞれどんな「やくわり」があるか。 （2）「やくわり」に合わせた「つくり」はどんなか。 それ以外の乗り物はどうか，興味を高めておく。 **深めよう** ３．それぞれの自動車の「やくわり」と「つくり」のつながりを説明する。 （1）ノートにまとめたことをもとに，はたらく自動車の「やくわり」と「つくり」について，友達に説明する。 （2）説明を聞いて，よかった点などを伝え合う。 ○学習を振り返る。	○単元名やリード文から学習の見通しをもつ。 ○写真と文を対応させながら読む最初の段階として，それぞれの自動車の写真を見ながら，知っていることや，もっと知りたいことを発言させるとよいだろう。その際，自動車の「やくわり」や「つくり」についての気づきを板書で整理するとよいだろう。 ○どの自動車も「やくわり」と「つくり」が書かれていることに気づかせ，表にまとめる。 ○本文には「やくわり」「つくり」の言葉は使われていないので，「バス」の段落で「やくわり」と「つくり」に対応する文と意味を明確にしておくことが必要。 ○表のまとめ方は教科書を参考にしながら，身近な言葉で書かせる。（前単元で学習したカードの書き方を生かす） ○このような「やくわり」があるので，このような「つくり」になっている，という話し方ができるように指導するとよいだろう。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉え，学習の見通しをもって分かったことを説明しようとしている。	なにに　ついて　かいてあるか，かんがえる	漢字／文／説明する／比べる／作者

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10 ～ 11	10 （書く10）	「のりものカード」でしらせよう	■乗り物について，カードを用いて順序にそって簡単な構成の説明の文章を書く。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆生活科など：読み上げてまちがいを見つける方法は，生活科などでも応用できる。	6・7	○「がくしゅうの　すすめかた」を読んで，見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** ４．いろいろな乗り物の中から，知らせたい乗り物を決める。	○「はたらく　じどう車」の学習と関連させて，乗り物に関する図鑑や資料を身近なところに置き，興味・関心を高めておく。 ○「やくわり」と「つくり」をもとにまとめることを知らせ，乗り物を決める際の着眼点の一つにする。	◎【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） 【態度】進んで事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，学習の見通しをもって「のりものカード」を書こうとしている。	ぶんしょうを　かく	漢字／メモ／文章
				8・9	**組み立てよう（重点）** ５．「やくわり」と「つくり」をメモに書く。 （1）図鑑などの資料を読み，「やくわり」と「つくり」を調べる。 （2）乗り物名，「やくわり」「つくり」を短くメモに書く。 （3）「ですから」を使って「やくわり」と「つくり」の関係をつなぐ。 （4）メモを友達と読み合う。	○箇条書きにつながるように，短い言葉でメモを書かせるようにする。 ○目次を利用し必要なところを探して読むなど，調べ方について考えさせる。 ○対話をさせるときは，目的（選んだ乗り物の役割とつくりが対応しているか確かめる）を明確にする。 ○前後，左右など相手を工夫し，何度か紹介する機会を設定するとよい。友達に話してよかったという思いをもてるようにする。 ○対話のめあてを段階を追って示すようにする。失敗を恐れず話すこと，役割とつくりが対応しているか気をつけて聞くこと，相手のよさを生かして話すことなど実態に合わせて工夫する。			
				10～12	**書こう** ６．メモをもとに「のりものカード」を書く。	○P22の下段に書かれている「のりものの名前」「やくわり」「つくり」を参考にする。 ○絵を描きたい児童には，乗り物の様子がわかるように簡単な絵をつけてもよいこととする。			
				13	**読み返そう** ７．「のりものカード」を声に出して読む。	○書き終わったら，自分で声に出して読んでみることで，句読点は正しく書けているか，字のまちがいがないか確かめさせる。巻末付録『ぶんしょうをよみかえす　とき』も参考にさせたい。 ○まちがいを訂正した部分を確かめながら，丁寧な文字で清書をさせる。			
				14・15	**伝え合おう** ８．友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○文章を読み合い，友達の作品のよさを見つけて伝える。 ○意欲がもてるよう，友達の作品を読んだらサインをする，シールを貼るなど交流の跡が視覚的にわかるようにしてもよい。 ○学習の成果として，全員が互いの作品を読めるよう，掲示する。 ○めあてにそって，振り返られるようにする。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	5 (話す聞く 5)	**えを　見て　おはなししよう**	◇絵を見て話題を見つけ，友達と話したり，友達の話を受けて答えたりする。 △音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなぐこと。　⇒思判表Ａ(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1	○教材名を読んで学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** １．みんなで話し合って，それぞれのうさぎに名前をつける。 ・提示された絵を見て，場面の設定や状況をつかみ，話題を見つけて対話する。 ２．好きなうさぎになって，自己紹介をし合う。 ・話題にしたいことを選んでカードに書く。	○家族構成や状況，予想できること，人物の性格など絵から読みとらせ，対話する。 ○板書に挿絵の拡大したものを提示する。 ○カードに書くときは，大事なことをメモ形式で書く。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，話の中で使っているとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） 【態度】進んで話題を決め，学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。		話し合う／自己紹介／言葉
				2・3	３．それぞれのうさぎの言葉を考えて話す。 ・二人組を作り，カードをもとに対話する。	○ペアの交流から，相手を変えていろいろな人と対話できるようにする。尋ねたことを，絵の中から探して答えたり，絵の人物がこの後どうするかを互いに考えて話し合ったりする。 ○カードに書いてないことも，進んで話すようになれるとよい。			
				4・5	○学習を振り返り，感想を書いたり伝え合ったりする。	○全体交流で，話したり聞いたりして，学習の自己評価をさせる。			
11	2	**かん字の　ひろば　①** 日づけと　よう日	△日付と曜日を表す漢字を正しく読む。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．今日は，何月何日かを確かめ，日付の読み方を考える。 ２．カレンダーから曜日の漢字を集め，読み方について話し合う。	○日付と曜日を表す言葉や漢字を使った書き方を知るという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○声に出して読んだり，ノートに書いたりして日付の読み方を理解できるようにする。 ○上巻P122「かぞえよう」で学習した「ひとつ」「ふたつ」「みっつ」などの読み方と，日付の読み方を見比べ話し合う。 ○日付を使って短い文を作り，発表し合う。 ○曜日を漢字で記載しているカレンダーをもとに，曜日の漢字を集め，読み方を理解できるようにする。 ○日曜日から土曜日までのひとまとまりの七日間を「１週間」と呼ぶことを確認する。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字を読み，学習課題に沿って音読しようとしている。		日付／曜日／漢字
				2	３．日付や曜日の読み方に慣れる。 ４．「日づけのうた」と「よう日のうた」を楽しく唱える。 ○学習を振り返る。	○「１年間」を12に分けた，その一つ一つを「１か月」と呼ぶことを確認する。 ○カレンダーをもとに，「大の月」「小の月」を確かめる。 ○誕生日や学校行事・年中行事などに関係する月日を集め，短い文を作り，発表し合う。 ○日付や曜日の歌を楽しく唱えながら，語句の意味やまとまりに気づくことができるようにする。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	16(書く10)	二　しゃしんと　文から，だれが　なにを　したかをたしかめよう	□■写真と文から誰が何をしたかを読み，写真から言葉を想像してお話を書く。						
11	10 （書く4）	うみへの　ながい　たび	□白くまの様子を考えながら声に出して読み，写真と文から，誰が何をしたかを確かめる。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｄ生命の尊さ　生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。	1 2・3 4～6 7 8～10	○単元とびらを読み，写真と文から誰が何をしたかを確かめながら，『うみへの　ながい　たび』を読むことを確認する。 **確かめよう** １．「ながいたび」は，どのような旅なのか考えながら読む。 （1）何枚の写真があるか確認する。 （2）それぞれの写真で，誰が何をしているところかを話し合う。 **考えよう** ２．できごとの「じゅんじょ」を確かめながら読み，場面ごとの登場人物の様子を具体的に想像する。 （1）P33の写真とP35の写真を比べて，違いを見つける。 （2）母さんぐまが，白くまの兄弟を産んでから，P35の写真のように育つまでにどのくらいの時間がたっているのか確認する。 ※時を表す言葉を見つけて，ノートに書きながら，話の「順序」を確認する。 **深めよう** ３．いちばん好きな写真を選んで，友達に紹介する。 **広げよう** ４．母さんぐまや子ぐまになったつもりで，言葉を考え，発表する。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，写真を見て，お話を想像させる。 ○教師の範読を聞いたり，それぞれが音読の練習をしたりして，教材文に読み慣れる。 ○難語句や，漢字の学習をさせる。 ○P33の子ぐまはまだ幼く，目をまんまるに見開いて，初めての外の世界を眺めている様子だが，P35は生まれてから百日はたって，長い旅に出られるほどに成長していることに気づかせる。 ○「ここがだいじ」を参考にし，「とき」をあらわす言葉に気をつけて読みながら，できごとの「じゅんじょ」を確認する。 ・「ふゆのあいだじゅう，うまれてからずっと」穴の中にいた。 ・「うまれたときは，りすくらいの大きさだった。」 ・「ふたりがうまれてから，もう百日はたつね。」 ・母さんぐまは，二人を産むために，海から「百日ちかくもあるいてやってきて，ふかいあなをほった。ふたりをうんだ。ふたりをそだてた。」 ・また百日近くも歩いて海に戻る。 ・「二年半ばかりがすぎ」もう一人前。 ○場面ごとの母さんぐま，子ぐまの様子を具体的に想像する。 ○選んだ写真から想像できることを考えさせ，どうしてその写真を選んだのか，訳を話すことができるようにする。 ○動作化したり，写真にふきだしで言葉を書いたりして，母さんぐまや子ぐまの思いを想像させる。 ○どのように話したらよいかも，考えさせる。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し，学習の見通しをもって考えた言葉を発表しようとしている。	した　ことを　かんがえる	文／漢字／順序／話し合う／比べる／（　）／訳／「　」／言葉／発表／様子／したこと／お話／作

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	6 (書く6)	きこえて　きたよ，こんなことば	■写真をもとに，ふきだしの中の言葉を考えて，お話を書く。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	11	○P52～55を読み，学習活動を理解して見通しをもつ。	○全員で同じ写真で取り組んでもよいが，P55の写真などを利用して，写真を選択できるようにしたり，学習過程の途中から選択可能にしたりするなど，児童が主体的に取り組めるよう実態に合わせて学習活動の展開を工夫する。	◎【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】進んで想像したことから書くことを見付け，今までの学習を生かして簡単なお話を書こうとしている。	おはなしを　かんがえる	言葉／読み返す／「　」
				12・13	**決めよう・集めよう（重点）** ５．写真を見て，気づいたことを出し合ったり，想像したことを話したりする。 **組み立てよう** ６．写真を見て，心に浮かんだ言葉や想像した言葉をふきだしに書く。	○写真に写っている事物から想像させたり，事物についての既有知識や経験から想像させたりして，豊かに発想させたい。 ○写真をよく見て心の中に浮かんだ言葉を書いてみる，写真に写っている事物に呼びかけてみて心の中に聞こえてきた言葉を書いてみる，言葉が浮かんだ児童に発表させて共有するなど，楽しみながら広げたい。 ○想像できない児童には，パペットやペープサートなどを利用してごっこ遊びなどさせて，会話の一つを書かせるなどのてだてを工夫したい。			
				14・15	**（組み立てを考えて）書こう・読み返そう** ７・８．ふきだしをもとに，お話を考え，読み返す。	○ふきだしの言葉をもとに前後を想像させる。 ○ふきだしの言葉は，必ず文章に取り入れ，かぎ（「　」）の表記や「……と言いました。」との対応を理解させるようにする。 ○「始め」「中」「終わり」の「中」を充実させて書かせるように学習の重点を意識する（児童に意識させることは想定していない）。 ○「始め」には，第二単元『うみへの　ながい　たび』の既習事項を生かし，「いつ」「どこで」「誰が」「何を」をおさえ，簡単に書かせるようにする。 ○「終わり」が書けない児童には，話をまとめるような簡単な例文を幾つか用意しておき，適宜使わせるなどしてもよい。			
				16	**伝え合おう** ９．友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○よく書けているところやおもしろいところなどを伝え合うようにする。一言感想を付箋紙に書いて貼れるようにしたり，保護者から感想をもらったりしたりするなどの工夫をしたい。 ○ふきだしの言葉の有無を比べるなどして，会話を入れる効果（話が生き生きと伝わってくるなど）にも気づかせたい。 ○めあてにそって，振り返られるようにする。			
11	3	天に　のぼった　おけやさん	△古くから伝わっている話を，興味をもって聞き，好きなところを音読する。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。　⇒◎知技(3)ア □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆生活科:地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ，興味をもつ。 ☆道徳：Ｃ伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度　我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。	1	○学習の見通しをもつ。 １．昔話について，簡単に知る。 ２．絵を見て，順序を考えながら，教師の音読を聞く。 ３．絵を手がかりにお話の順序を確かめる。	○昔から語り継がれてきたお話を昔話ということ，人々に親しまれてきたからこそ伝えられているのだということを知らせる。 ○P56・57の挿絵を手がかりにしながら，どんな話なのか，話の展開を予想させる。 ○教師は，付録（Ｐ144～147）の文章を児童に向かって読む。児童には，挿絵を指で押さえたりするなどさせながら，難語句などは，絵と照応させるなど，児童にわかりやすいように話をする。ただし，詳細に説明する必要はない。お話の概要がつかめる程度でよい。 ○挿絵を手がかりにしながら，話の順序を確認させ，おもしろかったところを発表させる。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き，学習の見通しをもっておもしろかったところを発表しようとしている。		文／お話／漢字
				2・3	４　おもしろかったところを発表する。 ○学習を振り返る。	○絵を手がかりにお話の順序を確かめ，おもしろかった場面を紹介し合う。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	2	かたかな	△片仮名の書き方や使い方に慣れ，正しく使う。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1 2	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．P58を参考に，片仮名で書く言葉を発表したり，自分でも仲間ごとに言葉を集め，ノートに書いたりする。 ２．まちがえやすい字形の片仮名を，書き順や形に気をつけて書く練習をする。 ３．片仮名の濁音と半濁音，長音や拗音の言葉を読んだり書いたりする。 ○学習したことを振り返る。	○教材冒頭の会話文によって，日常の言語生活との関連を意識づける。 ○教材の例文のように，身近な言葉の中に片仮名で書くものがあることに気づかせる。また，ほかにもどのようなものがあるか自分たちであげさせることにより，片仮名をより身近に感じて学習することができるようにする。 ○似た字形の片仮名を正しく書き分けることが重要である。まちがえずに書くために，書き順や字形やはらいの方向などを，確認しながら覚えさせるように指導することを心がけたい。 ○片仮名の濁音と半濁音，長音や拗音の読み方や書き方を教師が示しながら指導をする。 ○自分で自由に探す際に，拗音（「チャ・チュ・チョ」など）で書く場合，発音させながら書かせることが効果的である。読み方と書き方が一致させるように指導することを心がけたい。 ○書かせる際には，ノートのます目を上手に利用し，片仮名の形や拗音・長音を書く位置などにも気をつけさせる。	◎【知識・技能】片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に片仮名を読み，見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。		片仮名／言葉／漢字／小さく／書く片仮名／伸ばす音
12	2	かん字の　ひろば　② かん字の　よみかた	△漢字には，使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1 2	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「山のぼり」「ふじ山」を声に出して読み，「山」の読み方の違いを考える。 ２．「日」に，いろいろな読み方があることを理解する。 ３．「山」「日」を使った言葉を集め，それぞれにどんな読み方があるかを確かめ，話し合う。 ４．P61の設問を考え，それぞれの漢字の読み方を確かめるとともに，他にも読み方が幾つかある漢字を探し出す。 ○学習したことを振り返る。	○漢字には，読み方が一つだけではないものがあることを理解する学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「山」のように，他の言葉や漢字とのつながりで読み方が変わることがあることに気づくことができるようにする。 ○「日」に，いろいろな読み方があることに気づくことができるようにする。 ○集めた言葉を使って短い文を作り，発表し合うようにする。 ○「竹」「糸」「左」「人」「生」のそれぞれの読み方を確かめる。 ○他の言葉や漢字とのつながりで漢字の読み方が，変わる例を既習漢字から探し出し，短い文を作り，発表し合うようにする。 ○P169「一上で　学んだ　かん字」，P164「かん字を　学ぼう」を参考にするとよい。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで漢字を読み，今までの学習を生かして使い方によって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。		漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	4 （書く4）	こころ　ぽかぽか　手がみを　かこう	■相手を決めて，気持ちが伝わるように手紙を書く。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■日記や手紙を書くなど，思ったことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)イ	1	○学習の進め方を理解し，見通しをもつ。手紙を書くことに興味をもつ。	○できるだけ手紙に返事がもらえるように，相手方に協力を呼びかけたり，保護者にお願いしたりするなど下準備をしておく。 ○手紙をもらった経験や，「手紙」が出てくる絵本などを手がかりにし，手紙の特性やをもらったときの嬉しさなどに目を向けさせる。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章を読み返す習慣を付けているとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】粘り強く文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正し，学習の見通しをもって手紙を書こうとしている。		気持ち／手紙／漢字／読み返す
				2	**決めよう・集めよう** １．伝えたいことや，相手を決める。	○学習例として本単元では，１年生の世話をしてくれた６年生を想定して展開している。児童の実態に合わせ，相手を決められるよう考えたい。 ○相手に伝えたい「気持ち」，それに関係する「できごと」を書くようにさせる。 ○既習事項を活用する。 ・「できごと」を書くときに「いつ」「どこで」「誰が」「何を」（P50）を明確にする。 ・書きたいことをメモしたり，マークを使ったりする（P9）。			
				3	**書こう・読み返そう** ２．手紙を書いて，読み返す。	○書き終わったら，まず自分で声に出して読んでみる。推敲するポイントのチェック表などを用意し，自分で気づかせるようにする。句読点は正しく書けているか，字のまちがいがないか確かめさせる。 ○次に友達どうしで，読んだり見せたりして互いに推敲し合ってもよい。巻末付録『ぶんしょうを　よみかえす　とき』も参考にさせたい。			
				4	**伝え合おう** ３．手紙を渡す。 ○手紙のよさに気づかせ，学習を振り返る。	○学級内で手紙を渡した場合は，返事を書かせるようにする。 ○学習を振り返り，手紙のよさ（気持ちを伝えられる，手元に残る，普段会えない人にも伝えられる，もらったときに嬉しくなるなど）に気づかせるようにする。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	10	三　ばめんの　ようすを　くらべて　よもう	□人物の動きや場面の様子の楽しさを読み，読書の世界を広げる。						
12	5	スイミー	□どのようなお話か考えながら読み，おもしろかったところを紹介する。 △読書に親しみ，いろいろな本があることを知ること。　⇒◎知技(3)エ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｄ生命の尊さ　生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。	1 2・3 4 5	○単元とびらを読み，場面の様子を比べながら『スイミー』を読むことを確認する。 **確かめよう** 1.スイミーにどんなできごとがあったのか，考えながら読む。 （1）お話に，誰が出てきたか，出てきた順番に確かめる。 （2）心に残ったことを話し合う。 **考えよう** ２．スイミーは，始めと終わりでどのように変わったか話し合う。 **深めよう** ３．スイミーはどうして変わったのか，場面の様子に気をつけながら読み，訳を考える。 **広げよう** ４．好きな場面を選んで，スイミーになったつもりで，言葉を考える。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○挿絵を参考にしながら，誰が出てきたか，出てきた順番に確認する。 ○心に残ったことと，その理由を友達と共有し，もっと詳しく読みたいという気持ちを高める。 ○スイミーの気持ちがわかる叙述に着目しながら，スイミーの変化を読み取る。（悲しい・寂しい→元気・勇気がある） ・にげたのはスイミーだけ。 ・スイミーはおよいだ，くらいうみのそこを。 ・こわかった，さびしかった，とてもかなしかった。 ・おもしろいものを見るたびに，スイミーはだんだん元気をとりもどした。 ・「みんなであそぼう。おもしろいものがいっぱいだよ。」（自分から声をかけられるようになっている。） ・スイミーはさけんだ　／スイミーはおしえた　／ ○「おもしろいものを見るたびに，スイミーはだんだん元気をとりもどした。」という叙述から，さまざまな生き物を見るうちに元気になっていったことをおさえる。 ○小さな魚の兄弟達のことをうんと考えたことで，勇気のある魚になることができた。大きい魚から逃げず，追い出すことができた。 ○挿絵を参考にしながらスイミーの気持ちを想像し，スイミーの言葉をノートに書かせ，学級全体で共有する。 ○同じ場面を選んだ友達でも，さまざまな感情をもったり，感情を表すのに，さまざまな言葉で表現することができることに気づかせる。	◎【知識・技能】読書に親しみ，いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し，学習課題に沿って考えた言葉を発表しようとしている。	はじめと　おわりを　くらべて　よむ	訳／文／漢字／始め／終わり／お話／場面／比べる／言葉／発表
12	5	「おはなしどうぶつえん」を　つくって，本を　しょうかいしよう	□動物の出てくる本を読んで，友達に紹介する。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △読書に親しみ，いろいろな本があることを知ること。　⇒◎知技(3)エ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ □学校図書館などを利用し，図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み，分かったことなどを説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ	6・7 8 9・10	○「おはなしどうぶつえん」を作り，動物の出てくるお話を紹介するという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 ５．動物の出てくる本を探して，読む。 ６．紹介カードを書き，動物ごとに貼り，「おはなしどうぶつえん」を作る。 ７．「おはなしどうぶつえん」を開き，本の紹介をする。 （1）好きな場面や心に残ったことを発表し合う。 （2）紹介された本を読み，「おきゃくさまカード」を貼る。	○「おはなしどうぶつえん」の概要を知らせ，読書への意欲を喚起する。 ○紹介する本は動物図鑑や科学読み物ではなく，お話の本にする。 ○表紙の絵や挿絵，題名などを手がかりに動物の出てくる本を探させる。 ○あらかじめ，教師が模造紙に動物園の図を描いた台紙を用意しておく。児童に動物の絵も描かせて貼ると，楽しい掲示物ができる。 ○紹介カードを動物ごとに分類して貼らせる。本の中に複数の動物が出てくる場合は，どちらに貼ってもよい。 ○動物園のガイドになって本を紹介したり，お客になって紹介を聞いたりさせる。 ○紹介された本を読む時間も十分に確保し，さまざまな本を読むようにさせる。読んだら，「おきゃくさまカード」を貼らせる。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し，今までの学習を生かして「おはなしどうぶつえん」を作り，本を紹介しようとしている。		作者／カード

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	1	しを　たのしもう ゆき	△言葉が生み出すイメージの広がりや，音読をとおして，詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1	１．雪について，知っていることを発表する。 ２．各自音読を繰り返し，作品に対する感想を発表する。 ３．連ごとにイメージを発表し合う。 ４．「ゆき」の様子を思い浮かべながら自由に音読し，発表し合う。	○今までの雪との経験から，雪を見たり，雪遊びをしたりしたことなどを自由に発表させる。 ○繰り返し音読して言葉のリズムをつかませる。 ○初雪から春への季節の変化を確かめる。気温の変化については，説明してもよい。 ○「きゅっきゅ」「のしのし」「ずんずん」のオノマトペの部分をどのように音読するか，状況が感じられるようにそれぞれに工夫させたい。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて，学習の見通しをもって音読しようとしている。		詩／言葉／想像する

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	14 (書く5)	四　ぶんしょうと　えを　あわせて　よもう	□文章と絵の対応に気をつけながら読み，いろいろな身ぶりが表すことを説明する文章を書く。						
		みぶりで　つたえる	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れること。　⇒知技(1)キ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。　⇒思判表Ｃ(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア ☆総合的な学習の時間・生活科など：日常生活の中で使う身ぶりについて振り返り，気持ちを相手に伝える際に役立てる。	1 2 3～5 6・7 8～12 13・14	○単元名やリード文から学習の見通しをもつ。身ぶりや手ぶりのことで知っていることや，本文の中に書かれているものの中で，自分が行ったことのあるジェスチャーについての話をする。 **確かめよう** １．書かれていることの大体を確かめる。 （1）挿絵に番号をつける。 （2）どの文がどの絵のことを説明しているのか，確かめる。 **考えよう** ２．文章と絵から話していることを想像する。 （1）P95までの絵にふきだしをつけて，どんなことを伝えようとしているかを書く。 （2）書いたことを友達と読み合う。 深めよう ３．日常生活の中にある身ぶり手ぶりについて考える。 ・日常生活の中で，どんな気持ちのときにどんな身ぶりをしているか，経験を話し合う。 広げよう ４．身ぶりについて考え，説明する文章を書く。 （1）日常生活の中にある身ぶり手ぶりを説明する文章を，絵を交えて書く。 （2）友達と，書いたものを読み合う。 ５．言葉のはたらきと身ぶりのはたらきを比べて，考えたことを話し合う。 ○学習を振り返る	○文章と絵の対応に気をつけながら，身ぶりについて説明する文章を書くという学習の流れを意識づけ，意欲を高める。 ○文章と絵の対応を明確にするために，絵と文章の対応する部分を線で囲むなどして確認するとよい。 ○絵に対応する表現をおさえ，人物の気持ちを確認する。 ○ふきだしを作って人物の気持ちを書き込む際は，教科書の表現を抜き出すだけでなく，さまざまな表現を認めてよい。例えば，「静かにしよう」「静かにするんだよ」「しいっ，静かに」など。 ○身ぶりを使うと伝えたいことをはっきり表せるようになることを理解させる。身ぶりが伝える内容だけでなく，伝える効果についても考えることができるようにする。 ○日常生活での経験を話し合う中で，身ぶりで表せることと表せないことがあることに気づかせる。 ○身ぶり手ぶりを説明する文章を書く際，「どんな場面で」「どんな身ぶりをすると」「どんな気持ちを表すか」をおさえるようにする。ただし，この区別をあまり厳密にすると，難しすぎる課題になるので注意する。 ○「せりふ」→「身ぶりが表すこと」→「身ぶりを使うことのよさ」と展開する文章のひな形を黒板に貼り，それに倣って書くことができるようにする。 ○身ぶりとその身ぶりで伝わる意味を表などにまとめ，学習を振り返るようにする。 ○学習感想を書くことをとおして各自の考えをはっきりさせ，読み合って，考えを深めさせるようにする。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて，学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。	ぶんしょうと　えを　あわせて　よむ	伝える／身ぶり／文／言葉／気持ち／説明／文章／反対の意味の言葉

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	1	文を　つくろう	△主語と述語の関係に気をつけながら，いろいろな文を作る。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒◎知技(1)カ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1	○冒頭の会話文を通して，文作りにおいて主語と述語の対応が重要だということを知る。 １．P102に描かれた事柄を，「だれ（なに）がどうしています」の文型にあてはめながら文を作り，発表する。 ○学習したことを振り返る。	○主語と述語を明示することで文意が明確になることを意識させる。 ○絵を見て何が描かれているか考えさせ，それを文型にあてはめて文にすることを意識させる。 ○わかりやすく伝えるためには，「だれ（なに）が」「どうしている」を明確にすることが大切であることに気づかせる。 ○うまく作れた児童の文を取り上げて，文型との対応や主語と述語の照応を確認したうえで，他の児童に発表させてもよい。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】進んで文の中における主語と述語との関係に気付こうとし，学習課題に沿って簡単な文を作ろうとしている。		文／伝える／漢字
1	2	**かん字の　ひろば　③** かわる　よみかた	△漢字には，使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．P104上段の文を声に出して読み，「一台」と「一軒」の読み方を比べ違いを考える。 ２．P105上段の設問を考え，それぞれの言葉の読み方を確かめ，話し合う。	○使い方によって漢字の読み方が変わることがあることを理解する学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「一軒・一個・六個・十個」のように助数詞が変わると，「いち」が「いっ」となるように数詞の読み方が促音化するものがあることに気づくことができるようにする。 ○他の言葉や漢字とのつながりによっては，数詞や助数詞の読み方が変わることに気づくことができるようにする。 「一：いち→いっ」 「百：ひゃく→びゃく・ぴゃく」 「本：ほん→ぼん・ぽん」など。 ○上巻P122『かぞえよう』で学習した「足」「匹」「冊」などの助数詞の中から，「一足・三足」や「一匹・三匹」などのようにつながりによっては，読み方が変わるものを探してみる。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで漢字を読み，今までの学習を生かして使い方によって読み方が変わる漢字を知ろうとしている。		漢字／言葉
				2	３．P105下段の設問を考え，それぞれの言葉の読み方を確かめ，それらの言葉を使って短い文を作り，発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○同じ漢字でも，単独で示される場合と，他の言葉と組み合わさった場合とでは，読み方が変化するものを，声に出したり，繰り返し読んだりすることによって言葉のリズムとして覚え，以後の日常生活に応用できるようにする。 ○読み方の変化が多岐にわたるため，読み方が変わるものがあることに気づかせることに主眼をおく。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1～ 2	8 (話す聞く 8)	五　きいた　ことを　正しく　つたえよう	◇学校で働く人に，知りたいことを尋ねて，聞いたことをメモをもとにクラスのみんなに知らせる。						
		学校の　ことを　つたえあおう	△音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れること。　⇒知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒◎思判表Ａ(1)エ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア	1・2	○単元名やリード文を読み，学校のことをみんなに伝えるという学習のねらいと流れをつかむ。 **決めよう・集めよう** １．話を聞く相手と，聞きたいことを考える。 ・先生や学校で働いている人のことを思い出し，話を聞きたい相手や聞きたいことについて考える。	○教科書を参考に，学校のことについていろいろなかたに話を聞いて，クラスのみんなに伝えるという学習の流れをつかませ，意欲を高める。 ○学校の絵地図などを用意して，1学期（前期）に行った学校探検を思い出させ，学校で働いている人たちがどこにいるか，行ったり，見たりした経験を思い起こさせる。	◎【知識・技能】姿勢や口形，発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ）	はなしを　きく みんなの　まえで　はなす	伝える／質問／メモ／お話／理由／様子／発表／気持ち
				3・4	**組み立てよう** ２．友達と話し合い，聞きに行く練習をする。 ・P106・107の「１・２」を読み，聞きたい相手と聞きたいことを決め，「ここがだいじ」を参考に，一緒に聞きに行く友達と，聞くことを分担したり，相手に応じた言葉づかいを考えて練習したりする。	○職員室・保健室・特別教室・校長室・事務室・用務主事室・給食室など，そこにいる大人が，どんなかたで，どんなことをしているか想起させる。 ○行き先を決めて分担させ，一緒に行く友達どうしで2・3人のグループを作り，どんなことを聞いてくるか話し合わせ，質問ごとに分担するようにさせる。 ○グループで，入室の仕方や初めの挨拶などを確かめ，更に個別の質問の順番等を確認し，言葉づかいなどに気をつけて繰り返し練習して，アドバイスさせ合う。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） 【態度】進んで伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫し，今までの学習を生かして聞いたことを伝えようとしている。		
				5	**話そう・聞こう（重点）** ３．聞いたことを友達に伝える。 （1）P108の(1)を読み，聞いたことをあとでメモとして作ることを心にとめて，実際に聞きに行く。	○ここでは，聞きながらメモを取るのではなく，あとで思い出して書くことに留意して，話してもらったことをきちんと聞き取ってくるようにさせたい。			
				6・7	（2）聞いたことを思い出しながら協力してメモを作る。 （3）メモをもとにクラスのみんなに話すことを確かめ，話す順番を決めて練習する。 （4）全員の前で，声の大きさや話す速さに気をつけて発表する。 **伝え合おう** ４．感想を伝え合う。	○聞いてきたことを思い出して，大事なことを書いて確かめ合わせ，みんなに話すことをはっきりさせて発表の練習をし合うように促す。 ○全員の前で，声の大きさや話す速さに気をつけて発表させ，質問や感想を述べ合うようにする。 ○「どきどきしたこと」「うれしかったこと」などを話し合わせ，グループで相互評価したり，自分の聞き方や伝え方を振り返ったりさせながら，全体に紹介し合うようにしたい。			
				8	○学習全体を振り返り，上手になったことを確かめる。				

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	3	ことばで　つたえよう	△目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し，言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1	○「言葉」について学ぶという学習内容を理解して，学習の見通しをもつ。 １．P110の絵を参考に，自分が食べたものを思い出し，自分の経験をもとにすることを理解する。 ２．自分の描いた絵から食べ物の様子を思い出し，なるべく詳しく言葉で説明を書く。	○自分が食べた物を言葉で言い表すことにより，感覚を伴った自分の言葉で表現することに気づかせる。 ○説明したいものの絵を描きながら，絵に描いたものはどのように表現すればいいのか，色や味など表現したいものはなんなのかを焦点をはっきりさせるように声をかける。 ○絵を見ながら，食べたときのことを思い出して，そのものの説明の言葉をなるべく詳しく書かせるようにする。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【態度】進んで，言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし，学習課題に沿って言葉で表そうしている。		言葉／漢字／伝える／様子／クイズ
				2	３．書いた説明の文を見て，色や形などの見えるものの説明と味や食感などの見えないものの説明を分け，二種類の言葉の違いを考える。 ４．自分が描いた絵を見せながら食べたものの様子を発表し，伝える。	○説明の文を読ませて，色や形など絵に描いてあることからわかりやすいものと，味や食感など絵を見ただけではわかりにくいものがあることに気づかせる。 ○二種類の言葉をうまく使いながら，聞いている人に伝わるように発表をするよう促す。			
				3	５．好きな食べ物などを思い浮かべ，問題を作る。 ６．絵に描けないものでも言葉では伝えることのできるおもしろさに気づき，いろいろなものを表現することに挑戦する。 ○学習したことを振り返る。	○自分が好きな食べ物を選ぶことで，想起しやすく，楽しく表現できるようにする。 ○問題を作りながら，絵には描けなくても感覚を思い出しながら表現できる言葉のおもしろさに気づかせ，いろいろなものを表現したいという気持ちを引き出す。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	8 (書く8)	六　つたえたい　ことを おもい出して　かこう	■経験したことや見たことを思い出し，わかりやすい文章を書く。						
		おもい出の　アルバム	△長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1	○「学習の進め方」を読み，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．伝える相手を決め，伝えたいことを一つ選ぶ。	○１年間の思い出が振り返られるように工夫する。 ・１年間の主な学習や行事などの題名を掲示する。 ・写真等を見られるようにしておく。 ○「いつ」「どこで」「誰が」「何をしたか」という聞く観点を示して，範読を聞かせる。 ○学級の実態に合わせ，書く目的を確認し，伝える相手を決める。	◎【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）	おもい出して　かく	伝える／メモ／文章／読み返す／文／「　」
			■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ	2〜5	**組み立てよう** ２．思い出したことを，メモに書く。	○自分がこれまでにしたことや見たことを想起させ，書きたいと思うことをメモに書かせる。 ○題材選びは大切である。写真を見ながら会話したり，ペアで題材を相談させたりして書きたいことを見つけさせる。見つけられない児童には，丁寧に個別指導する。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ）		
			■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ	6・7	**書こう・読み返そう（重点）** ３・４．メモをもとに文章を書き，読み返す。	○１年間の学習したことを活用して書けるよう既習事項（P9メモの活用。P21・22対話による推敲。P22，63推敲）を想起させる。推敲については，P162も参照させる。 ○自分の書いたメモの内容と順序で，文章が書けるか，考えさせる。書けないと判断した場合は，メモを増やしたり題材を変えたりさせる。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章を読み返す習慣を付けているとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ）		
			■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	8	**伝え合おう（重点）** ５．文章を読み合う。 （1）友達同士で読み合う。 （2）伝えたい相手に読んでもらう。 ○学習を振り返る。	○友達の文章のよさに着目させ，感想を伝える。付箋紙に書かせて残すようにしてもよい。あらかじめ，内容面や記述面のよさついて，観点を示しておくとよい。次の学習につながるよう，何人かの文章を取り上げ，文章のよい点を共有するようにさせる。 ○友達以外の相手を設定したときは，相手に読んでもらい，できる限り感想をもらえるようはたらきかける。 ○相手からもらった感想をもとに，自分の文章を振り返らせる。次への展望や意欲へつなげたい。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に文章に対する感想を伝え合い，学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	3	**かん字の　ひろば　④** にて　いる　かん字	△形の似た漢字を正しく読んだり，書いたりする。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。	○形の似ている漢字を正しく使い分け，書くことができるようにするという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字を読み，学習課題に沿って形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。		似ている漢字／漢字
					１．「人」と「入」の形の似ているところ，違うところを考える。	○文例を声に出して読み，「人」「入」を使った言葉を集めて，発表する。 ○筆順を確認し，字形の類似点と相違点を見つけ出し，「なぜ違うのか」などと探究心を刺激しながら指導を進めるようにする。			
					２．「木」と「水」，「字」と「学」，「右」と「石」の似ているところと違うところを話し合い，字形に気をつけて，正しく書く。	○「木」と「水」，「字」と「学」，「右」と「石」など，概形が似ている漢字の異同に注意を向け，筆順に従って正しく書くことができるようにする。			
				2	３．字形の一部に同じ部分が含まれている漢字があることに気づき，仲間集めをする。	○「大－犬」「中－虫」「王－玉」など，点画の有無で，別の漢字となることがあることを確かめる。 ○これまで学習した漢字の中から，「田」「木」「目」「口」が含まれている漢字を集め，それらを使って短い文を作る。 ○巻末P164『かん字を　学ぼう』を参考にして，ゲーム感覚で仲間集めをしてもよい。			
					４．「十」と「七」，「力」と「九」，「上」と「土」，「山」と「出」，「本」と「文」，「月」と「目」の似ているところと違うところを確かめ，字形に気をつけて，正しく書く。	○似ている漢字の異同に注意を向け，筆順に従って正しく書くことができるようにする。			
				3	５．漢字の足し算・引き算の問題に取り組む。	○自分たちも，漢字の足し算・引き算の問題を作り，発表し合うとよい。 （例）「一＋土」「夕＋口」「出－山」など。			
					６．「もののかたちからできたかん字」の問題に取り組む。	○上巻P105『かん字の　はじまり』を参考に，「山」「月」「木」などをもとに，同様の問題を作り，発表し合うとよい。			
					○学習したことを振り返る。				
2	1	しりとりで　あそぼう	**△「なかまのことば」だけでつないでいく「しりとり遊び」のあることを知り，実際に活動してみる。** △音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付くこと。　⇒◎知技(3)イ	1	１．しりとりのルールを確認する。	○「しりとり遊び」を経験していたとしても，簡単なルールを確認しておく。「ん」で終わる単語を選択すると，あとへは続かないというルールで，グループで「しりとり遊び」をする。	◎【知識・技能】音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【態度】進んで音節と文字との関係に気付こうとし，今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。		しりとり／言葉
					２．絵を見ながらしりとりの言葉を確かめ，それぞれなんの仲間かを発表し合う。	○教科書の挿絵で示されたしりとりの例から，仲間の言葉でつないでいく決まりになっていることに気づく。 ○挿絵のそれぞれが，なんの仲間のグループになっているかを確かめ合う。			
					３．なんの仲間でしりとり遊びをするかを決め，グループでしりとり遊びを楽しむ。	○違う仲間の言葉でしりとり遊びをしたり，グループで言葉の仲間を決めたりして，しりとり遊びを楽しむ。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2～ 3	15 (書く5)	七　ようすを　おもいうかべながら　よもう	□様子を思い浮かべて読み，登場人物に手紙を書く。						
		お手がみ	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒知技(1)ク ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■日記や手紙を書くなど，思ったことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)イ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｂ友情，信頼　友達と仲よくし，助け合うこと。	1 2～6 7～10 11～15	○単元名やリード文から学習の見通しをもつ。 **確かめよう** 1．がまくんやかえるくんの行動を整理して，お話のあらすじをつかむ。 (1)挿絵を参考に，お話の順序を確認する。 (2)物語の概要をつかんでから，心に残ったところを話し合う。 **考えよう** 2．二人の変化を読み取る。 (1)始めと終わりで手紙を待つ場面の挿絵の違いを比べる。 (2)始めと終わりで手紙を待つ場面がどのように変わったのか，訳も含めて考える。 **深めよう** 3．このお話の好きなところと訳を話す。 **広げよう** 4．登場人物の一人に宛てて手紙を書き，友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○登場人物のしたことを整理する。 ○整理したものをもとにして，友達にお話を話すことにより，あらすじをつかませる。 (順序ばらばらの挿絵を並べかえながら確認してもよい。) ○物語の概要をつかんでから心に残ったことを伝え合う。 ○手紙を待つ場面の挿絵を，始めと終わりの２種類用意し，その時の登場人物の心情をふきだしに書かせ，比べることで変化を読み取らせてもよい。 ○「ここがだいじ」を確認してから，考えさせる。 ○人によって好きな場面と理由が異なり，このお話のさまざまな場面に素敵なところがあるということに気づかせる。 ○話の中の登場人物になりきって，がまくん，かえるくん，かたつむりくんの誰かに宛てて手紙を書いても，読者から登場人物の誰かへの手紙でもよい。 ○手紙を書く活動をとおして，物語の世界に入り込んで楽しめるようにさせたい。 ○友達と手紙を読み合い，感じたことを共有させ，人によって感じ方も，表現の仕方もさまざまであることに気づかせる。 ○友達の手紙に返事を書いてもよい。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し，学習課題に沿って登場人物に宛てて手紙を書こうとしている。	ようすを　おもいうかべる	手紙／文／訳／漢字／気持ち／お話／順序／比べ
3	2 (話す聞く1，書く1)	こくごの　がくしゅう　これまで　これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表Ａ(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1・2	1．どんな言葉を学んできたのか思い出す。 2．思い出したことをみんなで交流し，共有する。 3．２年生でどんな学習をしたいか希望を出し合う。	○可能なら，上巻の教科書も用意し，上・下巻を合わせて振り返ることができるようにする。挿絵のふきだしや「この本で学ぶこと」を参考にする。 ○学習のノート，作成物，プリント類（ポートフォリオ）などがあれば，利用する。 ○楽しかったこと，できるようになったことをグループで話し合い，たくさん思い出してメモさせる。 ○単元名や教材名だけでなく，印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。 ○２年生になって，「できるようになりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など，共有した思い出したことに対応させて，いろいろな観点で自由に出し合う。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】進んで話題を決め，今までの学習を生かして思い出したことや２年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。		言葉

令和５年度版『ひろがる言葉 小学国語　二下』年間指導計画・評価計画（案）

教育出版 2020年5月

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第１学年及び第２学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。
(3) 言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	－	二年生で学ぶこと							
10	11 （話す聞く3）	一　じゅんじょや様子に気をつけて読もう	□さけの成長について，季節や場所，さけの様子の移り変わりを考えながら，内容の大体を読む。						
		さけが大きくなるまで	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア ☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめたり，調べたことを発表したりする。	1	○学習に見通しをもつ。 **確かめよう** １．さけについて知っていることや，写真を見て考えたことを話し合う。 （1）おもしろいと思ったこと，不思議に思ったことの二つの視点で感じたことを短い文で書く。 （2）書いた事柄をクラス全体で交流する。 （3）今後の学習の流れを確かめる。	○まず，さけについて知っていることを話し合い，次に，題名も手がかりに加えて話し合うことで，文章を読む際の課題意識を高めておく。 ○さけの成長の様子を表す言葉の順序に気をつけて，さけが大きくなる様子を説明するという学習の流れを確認する。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ）	時・場所・大きさや様子をせつめいする	漢字／様子／様子を表す言葉／文章／説明する／発表／順序を表す言葉／言葉／文／順序
				2〜5	**考えよう** ２．さけが大きくなる様子を，時・場所・大きさや様子を表す言葉に気をつけ，まとめる。 （1）「時」「場所」「大きさや様子」が書かれた言葉にサイドラインを引く。 （2）サイドラインを手がかりにして，表にまとめる。 （3）全体で交流し，まとめたことの確認をする。	○さけの成長を追いながら，いつ（時）どこで（場所）どんな（大きさや様子）の視点で，ワークシートにまとめる。 ○学習の手引きを参考にして，文章の中の大事な言葉や文を書き抜くようにする。 ○ここでワークシートを用いるのは，3の活動で，さけが大きくなる様子を説明する際，配置された教科書の写真を用いて，世代が繋がっていく様子を伝えられるようにするためである。 ○ここでさけの成長をまとめたワークシートは，説明原稿を作るもとにしてもよいし，より進んだ段階では，原稿を読まずに，ワークシートをメモ代わりに用いて話すようにしてもよい。 ○時や大きさの変化を表す言葉をおさえる。短冊に言葉を書いておき，視覚的に見やすくしておくなどして，的確におさえるとよいだろう。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し，学習課題に沿ってさけが大きくなる様子を説明しようとしている。		
				6〜8	**深めよう** ３．写真を使って，さけが大きくなる様子を説明する。 （1）教科書の順に，川を上る写真から説明を行う。 （2）説明の感想を友達どうしで伝え合う。 （3）説明の仕方がわかりやすかったか，振り返る。	○続きを考えることで，子どもだったさけが再び冒頭の部分「秋になるころから……」の内容に戻っていることをおさえる。実際に続きの説明文を3文程度，書かせてもよいだろう。 ○「言葉」の設問を参考にして，一枚の写真の中での事柄の順序や写真と写真の間にある事柄の順序を表すようにする。			
					（4）卵の写真から説明を行う。	○教科書の例文に続けて説明するようにし，時や様子の変化を表す言葉に気をつけながら，文章を考えることを意識させるようにする。 ○「海を泳ぐさけ」の写真から説明させてもよい。			
				9・10	**広げよう** ４．さけが大きくなる様子について，わかったことや考えたことをノートに書いて，発表し合う。 （1）本で調べたことをノートに書く。 （2）書いたことを友達どうしで発表する。	○「本を読もう」に掲載した本を参考にするとよいだろう。 ○調べ学習が中心の単元ではないため，読んでみて，おもしろいと思ったことを紹介する程度でよい。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
				11	(3) 発表についての感想を交流する。 〇学習を振り返る。	〇「時・場所・大きさや様子をあらわす言葉に気をつけて，さけが大きくなる様子を読むこと」や，「じゅんじょに気をつけて，さけが大きくなる様子をせつめいすること」ができたかを，発表をしたときのできぐあいから自己評価させるとよい。時や場所，大きさや様子を表す言葉を用いたか，が指標となる。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10 ～ 11	10 （書く 10）	二　様子をよく見て，くわしく書こう	■見つけた物をよく見て，様子が伝わるように詳しく文章を書く。						
		おもしろいもの，見つけたよ	△身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったものから選ぶこともできる。	1 2 3～6 7～8 9 10	○「学習の進め方」を読んで，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．見つけたものから，書くことを決める。 **組み立てよう** ２．見つけたものの様子をメモに書き，まとまりごとに並べる。 **書こう（重点）** ３．文章を書く。 **読み返そう** ４．書いた文章を，声に出して読み返す。 **伝え合おう（重点）** ５．友達と文章を読み合う。 ○学習を振り返る。	○生活科と関連させるなど工夫したい。 ○メモをもとにして，観察記録文を書くというおおまかな学習の流れを確認させる。観察記録文自体は既習のものであるが，ここでは，メモを同じ観点でまとめる，矢印の使用，同じ大きさのものを提示するなど思考のてだてを重点的に学習させる。 ○見つけたものの様子を短い言葉でメモに書く。形，大きさ，色など観点となる言葉を書かせておく。 ○「はじめ」「中」「おわり」を示した構成表の上にメモを置き，まとまり（観点）を考えさせる。適宜，並べ替えさせ再考させる。 ○最終的には，メモを固定させ実際に枠で囲ませるようにする。思考の跡を視覚化し，意識させる。 ○例文を読み，「大事な言い方」に着目させる。観察対象の大きさを数値と共に同じ大きさのものを提示してイメージしやすくしたり，矢印を用いて大きさの向きを表したりしていることに気づかせる。今後も使える思考のてだてとしておさえたい。 ○書くときにもまとまりに気をつけて書くようにさせる。 ○声を出して読むことで，推敲を習慣とし，誤字脱字などに自分で気づかせるようにする。 ○まとまりごとにわかりやすく書いているか，同じぐらいの大きさなどイメージしやすいものを提示できているかなど，互いによいところを見つけ，感想を伝える。 ○めあてにそって，学習を振り返る。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使って いるとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】進んで文章に対する感想を伝え合い，学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。	様子がつたわるように書く	始め／メモ／様子／中／終わり／文章／読み返す／比べる
11	2	**しを読もう** てんとうむし 木	□言葉のリズムや響きを楽しみながら，イメージの自由な広がりをとおして詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1・2	１．『てんとうむし』を音読し，気がついたことを発表し合う。 ２．『木』の音読をとおして，どのような木か，大きさや形などを想像し合う。 ３．二つの詩のうち，気に入ったほうの詩を音読し合う。	○どんなに小さな生き物でも，どんなに大きな生き物でも，生きとし生けるもの全て，「いのちをいっこもっている」。その事実を確かめたい。 ○それぞれの「いのち」に違いがあるのか。二年生なりに考えさせる。 ○自分の好きな木について考えさせてもよい。 ○「てんとうむし」や「ぼく」になったつもりで，読み方を工夫して音読する。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，言葉には意味によ る語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて，学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。		詩

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	12	三　だれが，どのようにかわったかを考えて読もう	**□△登場人物のしたことや言ったこと，場面の様子を読み，読書の世界を広げる。**						
11	7	ないた赤おに	□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら，『ないた赤おに』を読み，心に残ったことを話し合う。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｂ友情，信頼　友達と仲よくし，助け合うこと。	1・2 3・4 5～7	○学習に見通しをもつ。 **確かめよう** １．主な登場人物とできごとを確かめる。 **考えよう** ２．赤おにが変わったところがあるか，人間たちや青おにとの関わりから考える。 **深めよう** ３．赤おにと青おにを，それぞれどのような鬼だと思うか。 **広げよう** ４．このお話を読んで，心に残ったところとその訳を紹介し合う。 ○学習を振り返る。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○通読して最初の感想を交流してもよい。 ○新出漢字や難語句を確認させる。 ○場面ごとに，登場人物とできごとを簡単に整理して，ノートにまとめる。 ○赤おにの心の変化ではなく， ・「赤おにの人間たちとの関わり」 ・「赤おにと青おにの関わり」 がそれぞれ，どう変わったのかを確認する。 ○赤おにと人間たちの関係が変化したきっかけや，赤おにと青おにの関係が変化したきっかけをおさえる。 ※「ここが大事」を読み，きっかけをおさえながら確認していく。 ○「たしかめよう」で作成した表（場面ごとの登場人物・できごとをまとめた表）を生かしながら，それぞれのしたことに着目させ，どんな人柄であるのかを考えさせていく。 ○心に残ったところとその訳を，ノートに書く。 ○書いたことを友達と紹介し合い，このお話の魅力は，さまざまであり，その魅力を表現する言葉もさまざまであることに気づかせる。※知技の語彙の指導とも関連させる。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像し，学習課題に沿って心に残ったところを文章にまとめようとしている。	**登場人物がどのようにかわったのかを考える**	文／漢字／片仮名／訳／言葉／登場人物／お話／場面
11	5	「お話びじゅつかん」を作ろう	△自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △読書に親しみ，いろいろな本があることを知ること。　⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ □学校図書館などを利用し，図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み，分かったことなどを説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ	8・9 10・11 12	○本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介するという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 ５．読みたい本を探して読み，心に残ったことやその訳をメモする。 ６．「お話びじゅつかん」の作品を作る。 （1）紹介したい本を選び，心に残ったところを絵に描く。 （2）作品に題名を工夫してつけ，展示する。 ７．「お話びじゅつかん」の作品の前で，本を紹介し合う。 **○学習を振り返る**	○「お話びじゅつかん」の概要を知らせ，学習の見通しをもたせる。 ○巻末の『２年生で読みたい本』を参考にさせたり，教師や学校司書が本の紹介を行ったりし，いろいろな本に興味を広げていけるようにする。 ○読んだ本の題名，作者，心に残ったところやその訳をメモさせる。 ○たくさんの本を読ませ，その中から作品にする本を選ばせる。 ○本にある絵をまねるのではなく，想像を膨らませて描かせる。 ○作品の題名は，絵にした場面の様子を表す言葉や主人公に呼び掛ける言葉などを考えさせ，工夫してつけさせる。 ○展示の際には，「昔話コーナー」「鬼の出てくる話」などテーマごとにコーナーを作ってもよい。 ○展示した作品の前で，お話のあらすじ，おもしろいところや心に残ったところなどをポスターセッションのように紹介し合う。質問して答え，更に感想や質問をつなげるなど言葉のキャッチボールを意識させたい。 ○説明者と質問者が，相互に役割を交代しながら行う。 ○機会があれば他学級の児童や保護者にも紹介する機会を作る。 ○友達が紹介した本を読むように薦め，読書の日常化を図りたい。	◎【知識・技能】読書に親しみ，いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に読書に親しみ，学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。		お話／カード／題名／作者／質問／漢字／説明／昔話／訳

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	8 （話す聞く8）	四　しつもんしたり答えたりして，話し合おう	◇話し合いでクラスで行う遊びを決め，「クラスお楽しみ会」を開く。						
		「クラスお楽しみ会」をひらこう	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなぐこと。　⇒◎思判表Ａ(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1 2～5 6・7 8	○単元名や教材名を読んで「クラスお楽しみ会」を開くことを知り，クラス遊びの内容を決める話し合いについての流れを捉える。 **決めよう・集めよう** １．やりたい遊びを考える。 **組み立てよう** ２．考えた遊びとその理由をカードに書く。 **話そう・聞こう（重点）** ３．話し合いを行い，クラスに伝える。 （1）カードを使って，互いに質問したり答えたりする。 ・発言のまとめ方を知り，グループのカードを分類し，似た遊びをまとめる。 （2）グループの話し合いをクラスに伝える。 **伝え合おう** ４．感想を伝え合う。 ○手順にそって話し合いが進められたか，また，話し合いの時にわかりやすく理由を話したり，わからないことを確かめたり，質問したりできたかなど，学習を振り返る。	○「クラスお楽しみ会」のイメージをもたせ，教科書の手順や気をつけることをもとに，自分たちでクラス遊びの内容を決め，「クラスお楽しみ会」を開く意欲をもたせる。 ○「クラスお楽しみ会」のおおまかな流れは以下の案がある。 ①　始めの言葉 ②　外遊び①「　　」②「　　」 ③　室内遊び①「　　」②「　　」 ④　先生のお話 ⑤　終わりの言葉 ＊遊びの種類や数は，学級の実態に合わせて調整するものとする。 ○全体を読んで手順を把握したら，P50下部の「学習のすすめ方」で確かめさせ，ノートに学習計画をまとめ，単元の見通しをもたせるようにする。その際，特別活動の時間などの活用を意識させ，話し合いののち，準備をして実際に「クラスお楽しみ会」を実施する計画も加えさせるようにして，ゴールイメージを形成したい。 ○したい遊びが，遊びの種類ごとに分けられることに気づかせる。 ○手順にそって，教科書本文で内容や留意点を確認し，グループで話し合いを進めるようにする。 1．カードに書き出す。 2．質問し合う。 3．カードを遊びの種類ごとに分けて，整理する。 4．出し物を決定する。 5．振り返りをする。 ○何を基にして分ければいいのかは，2年生に考えさせるのは難しい場合がある。「投げる遊び」「おに遊び」「昔遊び」など，教師が基準を示してもよいだろう。 ○「ドッジボール」と「フリスビー」で「ドッジビー」など，カードとカードを合わせた遊びがあるか，生活経験の中から思い出させるとよい。 ○ルールがはっきりしているか，勝敗がはっきりするものか，などを確認する。 ○クラス遊びを決めるまでの話し合いの全体を振り返り，協調的な話す・聞くの態度が大切なことを感じ取らせるようにする。 ○特別活動の時間等を使って，「クラスお楽しみ会」を開く。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつないでいる。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａオ） 【態度】積極的に互いの話に関心を持ち，今までの学習を生かして少人数で話し合おうとしている。	考えがつたわるように話し合う	カード／理由／質問／伝える

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	5 （書く 5）	みじかい言葉で	■心が動いたことを短い言葉で書く。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	1	○P54・55を読み，学習活動を理解して見通しをもつ。	○リズムを楽しみながら読んだり，様子を思いうかべながら読んだりして短い言葉で表現するよさや面白さを味わわせる。上の学年の創作詩につながる教材である。自分の気持ちが素直に伝わる言葉を探させたい。 ○学級文庫など身近なところに詩の本を配置し，興味・関心をもちやすくする。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら，学習の見通しをもって心が動いたことを短い言葉で書こうとしている。		したこと
				2	１．教科書の詩を読み，作者は何を感じて心が動いたのか，それをどのように書いたのかを話し合う。	○教科書にある三つの詩を比べさせ，お気に入りの詩とその理由を交流することで，それぞれの表現の特徴やおもしろさに気づかせたい。 ・「まっかな太陽」：繰り返し。 ・「ピアノ」：音を表す言葉の面白さ。 ・「かたつむりになったら」：なりきり。			
				3・4	**書こう・読み返そう（重点）** ２．心が動いたことを短い言葉で書く。 (1) 気づいたことや，その時の気持ちを，短い言葉で書く。 (2) 友達と交換して作品を読み合い，自分が書いた言葉を読み返し，更にに取り入れたい表現などがあれば書きかえる。	○見たこと，したこと，感じたことを思い出させてから（日記などを利用して思い出させてもよい），教科書にある詩をヒントにして，短い言葉に工夫させていくとよいだろう。 ○書けない児童には，なりきりの詩を使ったり，見立て遊びを使ったりするとよい。授業者も一緒になって楽しみ，そのやりとりが詩になることを経験させる。 ・なりきり：T「○○になって一言，どうぞ！」C「……。」 ・見立て遊び：事物を見て，T「何に見える？」C「○○にみえる」T「○○で何をする。」C「……する。」節をつけて尋ねると児童ものりやすい。遊び感覚で多作できる。			
				5	**伝え合おう** ３．クラスの友達と読み合い，感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	○友達の作品のよいところを見つけて，感想を伝え合う。具体的には，繰り返しのリズム，音を表す言葉のおもしろさ，なりきりや見立てのおもしろさ，題名の工夫などである。 ○付箋紙などに感想を書いて渡すと，更に興味・関心をもちやすい。 ○めあてにそって学習を振り返る。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	2	**漢字の広場　④** 漢字のつかい方と読み方	△漢字の使い方や読み方，意味などを考えて漢字を正しく使う。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「生」という漢字のいろいろな使い方を考える。 ２．P56上段の設問をもとに「生」の読み方について，話し合う。 ３．「後」「行」「通」の読み方と，それぞれの意味の違いを考え，話し合う。	○いろいろな使い方と読み方がある漢字について知るという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○これまでに学習した用例を思い起こすとよい。 ・生きものクイズを作ろう。 ・たまごからさけの赤ちゃんが生まれます。 ・生活科の町たんけん。 ○P56上段の例文を声に出して読み，読み仮名をふって，漢字の読み方の違いを確かめ，それぞれの意味の違いを考えるようにする。 ○同じ漢字でも，言葉によって違う読み方をするものがあることに興味がもてるようにする。 ○複数の読み方がある漢字について，ほかの言葉や漢字とのつながりを考え，使い方・読み方・意味などに着目して読むということをおさえる。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み，学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。		送り仮名／言葉／文
				2	４．送り仮名によって読み方が変わる漢字をもとに，「おくりがな」の役割を考える。 ５．P57下段の設問をもとに，読み方によって送り仮名が変わることを理解する。 ６．複数の読み方がある漢字を集めて，短文を作り，発表し合う。	○「おくりがな」という語と，その意味，役割を理解できるようにする。 ○「出る・出す」「回る・回す」「売れる・売る」などは，助詞に着目し，動詞とつなげて考えることもできる。 ○送り仮名の決まりについて，機械的に覚えるのではなく，おおまかなイメージがもてるようにする。 ○読み方の違い，送り仮名の違いに気づくことができるようにし，なぜそのようになったか意識できるようにする。 ○P158『二上までに学んだ漢字』を参考に，たくさんの読み方がある漢字がほかにもあるか探し，語例を考え，それをもとに短文作りに取り組むとよい。			
12	2 （書く2）	**漢字の広場　④** 一年生で学んだ漢字　③	△絵を見て想像したことをもとに，１年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ	3・4	７．絵の中の言葉の読み方を確認する。 ８．教科書の絵と言葉を参考に，絵に描かれている様子から想像できる短文を作り，語と語の続き方に注意して文を書く。 ９．主語と述語のつながりに気をつけて，絵の中の言葉を使って２文以上が続くように書き，発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵に描かれたことと，言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。 ○絵の中には，「目・耳・手・足」「上・下」など互いに意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。 ○語と語の続き方を考えて，主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。 ○文と文の続き方に注意しながら，続きの文を書く。 （例）女の子は，テーブルの上にノートをひろげ，文を書いています。そして，男の子は，手や足をうごかし，体そうをしています。 ○漢字の使い方と読み方について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き，学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。		漢字／言葉／様子／文

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	19 （書く 10）	五　わかりやすくせつめいするための，くふうをたしかめよう	□■説明の順序を正しく捉えながら読み，おもちゃの作り方を説明する。						
12	12 （書く 3）	「しかけ絵本」を作ろう	□説明の順序に気をつけながら，「しかけ絵本」の仕組みや作り方を書いた文章を読む。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア ☆生活科・図工：順序に気をつけて作業の手順を説明する文章を書く。	1	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．「しかけ絵本」の作り方を写真から確かめる。 (1) 用意する材料と道具は何か。 (2) どんな順序で作るのか。	○説明の順序に気をつけて，おもちゃの作り方を説明するという学習の流れを確認する。 ○しかけ絵本や手作りおもちゃについての本を学級に設置するなど，調べる活動を進めるよう示唆する。	【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え，学習課題に沿って「しかけ絵本」を作ろうとしている。	じゅんじょをしめす書き方をつかう	漢字／お話／順序／文章／話し合う／図／順序を示す書き方／説明
				2・3	**考えよう** ２．「しかけ絵本」ができるまでにすることと気をつけることを表にまとめる。 (1) 「じゅんじょ」「どうする」「気をつけること」を表す言葉を見つける。	○「一・二・三……」の表記や見出しがゴシック体で強調してあることを手がかりに，説明する文章の構成に気づかせるようにする。 ○P61の写真と対応させて材料を確かめるとともに，P60の写真をもとに，どのようなものができあがるのか，見通しをもたせておく。			
				4・5	(2) 「しかけ絵本」を作る順序や作り方を文章から確かめ，表にまとめる。 (3) 「用意するざいりょう」を読んで，書いてある内容を読み取り，実際に用意して確かめる。	○P60～64の写真や「一・二……」の番号に気をつけながら，「しかけ絵本」の作り方を確かめる。 ○項目ごとにどのような内容が書かれているのか，整理してワークシートにまとめる。			
				6・7	(4) 順序に気をつけて，写真や文章を照応しながら「しかけ絵本」を作る。 ①動物の表情や，食べるものが何か，を想像する。 ②表紙，仕掛け，背表紙を作る。	○どのように作るのか，作り方の大事なところをノートに書き出すとともに，どのようにしてはいけないのか（例えば，しかけの切り込み部分が小さくてはいけないなど）についても考えさせるとよい。 ○実際に，「「しかけ絵本」」を作らせる。児童の実態に応じて，二人で組みになり一つの作品を作るようにし，どのような動物が，どのような状況で，どのような食べ物を食べて，どのような結末を迎えたかを想像させてもよい。			
				8・9	**深めよう** ３.本文は，「しかけ絵本」の作り方をわかりやすく伝えるために，どのような工夫がされているか，考えたことを話し合う。 (1) これまでの説明文との違いについて，気がついたことをノートに書く。 (2) 友達どうしで，気がついたことを交流する。	○書かれ方を考えさせると，記号や項目等を分けて書いている表記上のことと，完成した「しかけ絵本」を提示してから材料・作り方……と書かれている，内容のことに分かれるだろう。表記上のことから始め，しだいに内容について扱うとよい。 ○説明する文章をもとに，「しかけ絵本」を作った経験をとおして，「ここが大事」の内容を確認し，自分で説明する文章を作るという次の活動につなげる。			
				10・11	**広げよう** ４．「しかけ絵本」のお話を考え、紹介する。 ＊どのような動物や生き物が登場するのか。 ＊どのような表情をするのか。 ＊仕掛けには，どのような動きがあるのか。 以上，３点を紹介の時に発表する。	○それぞれの項目ごとに，順序立てた説明ができているかどうかを評価する。 ○「食べる前」「食べている時」「食べ終わった時」のように，3ページごとの表情を具体的にイメージさせるとよいだろう。 ○仕掛けの動きについては，教科書の挿絵を始めとする，さまざまなしかけ絵本の例を参考にさせるとよいだろう。			
				12	○学習を振り返る。	○自分の「しかけ絵本」のお話を考えて書くために，付録になっているキットを使用するとよいだろう。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	7 （書く 7）	おもちゃのせつめい書を書こう	■おもちゃの作り方や遊び方の順序を考えて，説明書を書く。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったおもちゃから選ぶこともできる。	13 14･15 16・17 18・19	○「学習の進め方」を読み，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** ５．おもちゃの作り方や遊び方を思い出し，メモに書く。 **組み立てよう** ６．説明書の組み立てを考える。 **書こう・読み返そう（重点）** ７・８．説明書を書き，読み返す。 **伝え合おう** ９．友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○『「しかけ絵本」を作ろう』の学習で学んだことを確かめ合い，それを生かして更に楽しい学習に発展するよう期待をもたせたい。 ○図工や生活科などと関連づけて，取り上げるおもちゃを選んでもよい。国語科では，作ったおもちゃの作り方の手順を説明し，伝えることをおさえる。 ○ペアで意見を交換しながら，説明書に書くことを整理する。おもちゃを作った際に気をつけたこと，遊ぶときのポイントなど，作ったからこそわかる事柄についても書くことを確かめさせたい。 ○メモに書かなかった事柄は，組み立て表に直接書き足してもよい。 ○説明する順序を考え，誤りのないように書くことをおさえる。P69「ここが大事」の順序を示す書き方（番号）を全体で確認し，順序立てて書かせる。 ○作り方だけでなく遊び方まで書かせることで，相手意識が生まれやすくなる。読む人を意識しながら，書いている本人も楽しんで書く学習になるとよい。 ○１年生を招く生活科などの活動に発展させるためにも，順序を考えて書けたか，作る際の注意点を思い出して書けたかなどをしっかりと確認させる。 ○めあてにそって学習を振り返る。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章を読み返す習慣を付けているとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】粘り強く語と語や文と文との続き方に注意し，学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。	せつめい書を書く	伝える／メモ／説明書／組み立て／始め／言葉／中／終わり／読み返す／説明／順序を示す書き方
1	2	しを読もう せかいじゅうの海が	□音読をとおして言葉のリズムや響きを楽しむとともに，無限に広がる想像の世界を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1・2	１．繰り返し音読し，初発の感想を発表する。 ２．１～４連それぞれで，その大きさをイメージする。 ３．５連の大きさをイメージする。 ４．音読を工夫して発表し合う。 ５．「どんなに大きな……だろな。」から想像し，絵に描いたり思ったことを書いたりする。 ６．できあがったものを紹介し，感想を発表し合う。	○各連の「大きな」のイメージを自由に交流させたい。ただの「大きな」ではない。「せかいじゅう」という形容がある。イメージは広がるだろう。 ○終連のイメージは，更に際限がない。音読を楽しみながら，イメージの自由な飛翔を楽しみたい。 ○想像を楽しむために「○○」に入る言葉を出し合い，様子やしたいことをを話し合わせる。(例：虫，鉛筆，ケーキなど) ○上段に絵を描き，下段に考えたフレーズや思ったことを書くような構成にするとよい。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し，学習の見通しをもって想像したことを発表しようとしている。		詩

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	11 （話す聞く3）	六　場面や人物の様子をくわしく読もう	□様子を詳しく読んで，読み方を工夫して音読発表会を開く。						
		かさこじぞう	△身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。　⇒知技(3)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｃ伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度　我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。	1・2 3・4 5・6 7・8 9～11	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．『かさこじぞう』の音読発表会を開くために，教材文を読んでいくことを確認する。 （1）主な登場人物を確認する。 （2）主なできごとと，何が変わったのかを確認する。 **考えよう** ２．登場人物の気持ちを考えながら詳しく読む。 （1）じぞうさまは，なぜ，いろいろなものをじいさまとばあさまの家に持っていったのでしょう。 （2）じいさまとばあさまは，どのような人物だと思うか。わかるところを見つけて紹介し合う。 **深めよう** ３．いちばん好きな場面とその訳を紹介する。 **広げよう** ４．音読発表会の準備をする。 ・グループで好きな場面を音読劇にする。どこを，どのように工夫して読むのか相談する。 ５．音読発表会をする。 ・音読発表会を行い，他のグループの発表のよいところをノートに書いて伝え合う。 ○学習を振り返る。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○音読発表会を目あてにして教材文を読んでいくことを確認させる。 ○新出漢字や難語句などを確認させる。 ○登場人物には，じいさま・ばあさま・語り手・村人・じぞうさまが出てくることを確かめる。 ○「たしかめよう」で作成した主なできごとの表でじいさまのしたことを確認したり，その時にじいさまが言っていた言葉を教科書にサイドラインを引いて確認したりすることをとおして，考えさせる。 ○じいさまとばあさまのしたことや言った言葉に着目しながら人柄をおさえる。 ○いちばん好きな場面とその訳を，ノートに書く。 ○好きな場面を選んだ人どうしで集まり，その場面のよさを伝え合い，その場面のよさを改めて考えてもよい。 ○好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組み，思ったことを交流してもよい。 ○書いたことを友達と紹介し合い，このお話の魅力は，さまざまであり，その魅力を表現する言葉もさまざまであることに気づかせる。 ※知技の語彙の指導とも関連させる。 ○「ここが大事」を読み，音読の工夫についておさえる。 ○登場人物の行動から性格を想像していくことで，声量や間の取り方など，音読の際の根拠となることをおさえるとよい。 例：じいさま……じぞうさまを見つけたときの「おお，お気のどくにな。さぞつめたかろうのう。」とあるから，優しい性格が伝わるようにゆっくり読むとよい。 ○実際に声を出しながら，音読の工夫をさせる。役を取り替えたり，あるいは一人のせりふを複数で読むなど，それぞれの学級の実態に合わせて，さまざまな分担の仕方を工夫する。 ○２年生にとって，どこを工夫していたかを瞬時に聞き取るのは難しいことが多い。そこで，発表者はあらかじめ，どこを工夫して音読するのかを発表する。 ○読み方の工夫をしていた点に注意を向けさせて，それを肯定的に受け止めるような視点から感想文が書けるように促す。また，感想の交流もそうした点が積極的に取り上げられるとよい。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像し，学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。	**場面や人物の様子がわかるように読む**	**文／漢字／登場人物／お話／場面／訳／語り手／発表／様子／言葉／音読**

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	3	むかしのあそび	△日本に古くから伝承されている昔遊び（正月遊び）を知り，実際に遊ぶことをとおしてその魅力を知る。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。　⇒知技(3)ア △長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付くこと。　⇒◎知技(3)イ	1 2 3	○昔から伝わるお正月の遊びについて知るという見通しをもつ。 １．正月に見られる「羽根つき」「たこ揚げ」「すごろく」「かるた」「こま回し」などについての簡単な由来を知り，実際に体験し，言語文化に親しむ。 ２．地域のかるたについて由来を調べ，実際に体験をとおして言葉の豊かさに気づく。 ３．グループでかるたを作成する。 ○学習を振り返る。	○正月になると目にするものをあげ，これらをなぜ目にするのだろうか，と問うことで課題意識がもてるだろう。 ○前時と同様に，これらの遊びをなぜするのだろうか，と問うことで課題意識をもちながら遊ぶことができるだろう。	◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付き，学習の見通しをもってかるたを楽しもうとしている。		漢字
1	4 （話す聞く4）	むかしのあそびをせつめいしよう	◇昔の遊びについて，遊び方を調べて説明する。 △音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア	1 2・3 4	○昔の遊びから一つ選んで，遊び方を調べて友達に説明するという学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．説明する遊びを決め，遊び方を調べる。 （1）新しく知った昔の遊びから説明する遊びを選ぶ。 （2）遊び方を調べる。 **組み立てよう（重点）** ２．説明のメモを書き，話す練習をする。 （1）同じ遊びを選んだ人どうしで遊び方を確かめながら，説明のためのメモを書く。 （2）メモをもとに，遊び方について順序に気をつけて説明する練習をする。 **話そう・聞こう** ３．遊び方を説明する。 ○学習を振り返る。	○生活科の学習と関連させ，昔の遊びを思い出させる。一つの遊び道具でも多くの遊び方があることに気づかせ，友達がまだ知らない遊び方を知らせたいという意欲を喚起する。 ○地域のかたや家族に遊び方をきいたり，図書館で調べたりする時間を設ける。 ○P99を読み，遊び方を短い言葉で書くメモと，説明の文章を読み比べ，説明するときには順序を表す言葉があるとわかりやすいことを確認する。 ○遊びながら手順をメモするようにする。 ○P99を読み，説明するときには「はじめの言葉」と「おわりの言葉」があるとわかりやすいことを確認する。 ○自分とは違う遊びを選んだ人に説明するようにする。聞き手は，よくわからないことを質問して確かめるようにする。 ○聞いた後で遊ぶ場を設定することにより，順序よく説明することのよさを実感できるようにする。	◎【知識・技能】姿勢や口形，発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え，今までの学習を生かして昔の遊びの遊び方を説明しようとしている。		順序を表す言葉／メモ／説明／言葉／漢字／始め／中／終わり／順序
2	3	主語とじゅつ語	△文を読んで，主語と述語の対応を考え，正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒◎知技(1)カ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1 2 3	○冒頭の会話文をとおして，文作りにおいて主語と述語の対応が重要だということを知る。 １．省略されている主語を考えることをとおして，主語を明示することの重要性に気づく。 ２．教科書を読みながら，①～③の例文の形を確認していく。 ３．①～③の例文と同じ形の文を作る。 ○学習したことを振り返る。	○主語を明示することで文意が明確になることを意識させる。 ○冒頭の会話文を読んで，何が来たと言っているのか考えさせ，主語を補った文を発表させる。 ○主語が明示されることで文意が明確になることに気づかせる。 ○①～③の例文の形を確認しながら，「だれが」「何が」を表す言葉が主語，「どうする」「どんなだ」「なんだ」を表す言葉が述語であることを理解させる。 ○主語は「だれは（も）」などの形になることもあり，また，過去の事柄を表す際は述語が「どうした」などの形になることを理解させる。 ○文脈による変化にも対応できるように教科書には示されていない例文を示すのもよい。 ○①～③の例文と同じ形の文を，まずは口頭で幾つかずつ発表させる。 ○文の作り方がわかってきたところで，それぞれがノートに書くようにさせる。 ○作成した文を文型ごとに発表させて確認する。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】積極的に文の中における主語と述語との関係に気付き，学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。		主語／述語／言葉／文

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	2	**漢字の広場　⑤** 同じ読み方の漢字	△同じ読み方の漢字を集め，漢字を正しく使う。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。	○同じ読み方の漢字を正しく使うことができるようにするという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み，学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。		同じ読み方の漢字／文／漢字／言葉
					１．P102上段の設問について考える。	○同じ「コウ」という読み方でも，「学校」「公園」「交番」「工場」のように意味や使い方によって，それぞれ適切な漢字を使うということを確認できるとよい。 ○同じ「チョウ」と読む「長」と「鳥」との意味の違いに目を向けるようにする。			
					２．同じ読み方をする漢字を集めて文を作り，友達と読み合い，それぞれの漢字の意味や使い方の違いについて話し合う。	○字音の面で共通する漢字の仲間集めとして，ゲーム感覚で取り組み，同音の漢字に関心が向けられるようにする。 ○ただ単に同音の漢字を並べるのではなく，語句や文などの用例をもとに，それぞれの意味の違いを考えられるようにすることが重要である。			
				2	３．P103の「か」「とう」「し」と読む漢字を集めて語句を作り，発表し合う。	○「か」「とう」「し」と読む漢字をそれぞれ集めるようにする。 ・「か」下，火，花，科，夏，家，歌 ・「とう」刀，冬，当，東，答，頭 ・「し」子，四，糸，止，市，思，紙 ○あてはめてできた言葉について，意味を確認し，それをもとに短文を作り，発表し合い，聞き合い，その言葉の使い方が正しいかどうか確認できるとよい。			
					４．同じ読み方をする漢字を集めて問題を作り，解答し合う。	○巻末『漢字を学ぼう』を参考に，同音の漢字を集めて同様の問題を作るようにし，交流する。			
					○学習したことを振り返る。	○同じ読み方の漢字を正しく使うことができるように，日常の言語生活でも注意していくよう意識づける。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	13 （書く 13）	七　じゅんじょに気をつけて書こう	■したことや身のまわりのできごとの中から書くことを見つけ，思い出して，順序を考えて書く。						
		こんなことができるようになったよ	△長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れること。　⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1 2 3～5 6～10 11～13	○「学習の進め方」を読んで，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．できごとを思い出して，書くことを決める。 （1）これまでのできごとの中から心に強く残っていることを発表し合い，文章に書く題材について考える。 （2）文章に書きたい題材を一つ選び，何を書くのかを詳しく思い出して，メモに書き出す。 **組み立てよう** ２．文章の組み立てを考える。 **書こう・読み返そう（重点）** ３・４．メモの順序にそって，文章を書き，読み返す。 （1）文章を書く。 （2）書いた文章を読み返す。 **伝え合おう（重点）** ５．できあがった文章を読み合い，感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	○P104下段の「学習の進め方」に従って，学習の目的やおおまかな流れをつかませる。 ○書く目的を明確にさせ，読んでもらう相手を想定する。 ○特別なできごとでなくても，心を動かされたこと，心に残っていることから題材が広がっていくことをおさえさせる。 ○上巻で学習した『つづけて　みよう　――日記――』をきっかけに，一年間，各自が書いてきた日記があれば，そこから話題を探すようにする。 ○思い出した内容一つ一つをメモに書かせる。 ○したことや見たこと，話したことや聞いたこと，感じたことや考えたことを書き加えさせる。 ○順番を考えたら，メモに番号を振らせる。 ○メモの内容にこだわるのではなく，書くことをどんどん膨らませてもよいことを指示する。 ○「がんばったたこあげ」を読み，直すとよい点を探し直す。訂正するときの記号なども伝えてよい。更に，表現のよい点について話し合わせたい。したことだけではなく，見たこと，話したり聞いたりしたこと，感じたことや考えたことなどが詳しく書かれていることをおさえる。 ○読み返す際のポイントは，P106・107 を参照する。 ○付箋紙に感想を書きこみ，友達の作品に貼るなどの活動をして，感想を残せるとよいだろう。 ○めあてにそって学習を振り返る。	◎【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章を読み返す習慣を付けているとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりし，学習の見通しをもって文章を書	思い出して，じゅんじょを考えて書く	順序／日記／漢字／組み立て／組み立て表／始め／メモ／文章／したこと／中／終わり／読み返す／小さく書く字／点／丸／かぎ／会話／場面／原稿用紙の使い方／伝える

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	3	音や様子をあらわす言葉	△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し，文の中で使う。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ	1	○言葉には，音や様子を表すことができるものがあることを理解し，学習活動に対する見通しをもつ。 １．「音をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 ２．「様子をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。	○教材冒頭の会話文を読み，音や様子を表す言葉を用いて文を書いてみたいという意欲をもたせる。 ○P110下段を読み，まずは「音をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ，板書等を活用して整理していく。 ○P110下段を読み，次に「様子をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ，板書等を活用して整理していく。 ○一般的に，擬声（音）語は片仮名で，擬態語は平仮名で表記されることを確認し，おさえておく。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使って いるとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。		言葉／片仮名／様子／文
				2	３．濁音の有無によって，「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 ４．単純形と反復形によって，「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。	○P111の一つめの設問をクラス全体で考え，清音と濁音の違いによって受ける印象に違うものがあることに気づかせる。 ○教科書にあげられた例以外に，どのようなものがあるか各自で考え，全体で共有を図る。 ○P111の二つめの設問をクラス全体で考え，単純形と反復形の違いによって受ける印象の違うものがあることに気づかせる。 ○教科書にあげられた例以外に，どのようなものがあるか各自で考え，全体で共有を図る。			
				3	５．音や様子を表す言葉を使って文を書く。 ○学習したことを振り返る。	○前時までに学習したことの確認を行う。 ○ワークシートや板書などを活用し，学習者に「音や様子をあらわす言葉」を幾つか提示し，それぞれの言葉から受ける印象を大切にして，文を作らせる。 ○教科書の既習ページやワークシートなどから，「音や様子をあらわす言葉」を含まない文章を提示し，どのような言葉をどこに入れることができるか，各自で考えて書きかえさせる。 ○P111下段を読み，「音や様子をあらわす言葉」は，表現をより具体的でわかりやすいものにしてくれるものだということを理解させる。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	2	**漢字の広場　⑥** 組み合わせてできている漢字	△同じ部分をもつ漢字を集め，漢字を正しく使う。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「明」という漢字の分け方を考える。 ２．漢字の中には，左右・上下・内外などに分けられるものがあることを確かめ，漢字の組み立て方には一定のきまりがあることを理解する。 ３．「心・田」などの漢字を組み合わせてできる漢字を考え，話し合う。 ４．「心・田」などと同じような問題を作り，解答し合う。	○組み合わせてできている漢字について知るという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○漢字には，幾つかの意味ある部分や既習漢字に分けることができるものがあることが気づくことができるようにする。 ○二つに分けられない漢字には，どんなものがあるかも考えるようにする。 （例）山，木，日，月，人，田，車，上，下など。 ○P112では，組み合わせがわかりやすいように，いずれも既習の単体の漢字どうしの組み合わせでできている漢字を示している。 ○漢字の組み立て方と筆順の関係にも目を向けるようにする。 ・左から右へ：「切」など。 ・上から下へ：「答」など。 ○「心」「田」をカードに書き，左右，上下，内外などに組み合わせて，考えるようにするとよい。同様に「生」「日」「売」「言」「会」「糸」などもカードにしてやってみる。 ○漢字の組み合わせの基本的なパターンを把握できるようにし，今後，学習する際の視点を示し，漢字学習への興味・関心を高めるようにする。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み，学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。		組み合わせてできている漢字／漢字
				2	５．熟語を手がかりに，「言」の部分をもつ漢字を探し，発表する。 ６．「日」「土」「田」など，同じ部分（構成要素）をもつ漢字を集めて問題を作り，発表する。	○漢字はいろいろな形が複合して構成されているものが多くあり，部分を部分として認識することが，学習の効率化を図り，意欲を増すことにつながる。 ○「会話・会計」と二通りの解答が想定される。また，解答は既習漢字を対象とすることが基本であり，望ましい。しかし，ときに「試算・誤算」「国論・国訓・国設」などのような解答がみられる場合がある。その際は，多くの児童にとって意味がわかるものだけに限定したい。 ○同じ部分をもつ漢字とそれを使った言葉を集めて交流することをとおして，語彙の拡充につながるよう留意する。			
	2 （書く2）	**漢字の広場　⑥** 一年生で学んだ漢字　④	△絵を見て想像したことをもとに，１年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像	3・4	７．絵の中の言葉の読み方を確認する。 ８．教科書の絵と言葉を参考に，絵に描かれている様子から想像できる短文を作り，語と語の続き方に注意して文を書く。 ９．男の子と女の子の目に映ったものを，主語と述語のつながりに気をつけて，２文以上が続くように書き，発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵に描かれたことと，言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。 ○絵の中には，「森・林」「草・花」など互いに意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。 ○語と語との続き方を考えて，まとまりのある一文となるようにする。 ○文と文の続き方に注意しながら，続きの文を書く。 （例）赤いやねの家が町にあります。その家の前に青い色の車がとまっています ○組み合わせてできている漢字について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き，学習の見通しをもって文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2～3	16 （書く4）	八　場面の様子や登場人物の行動に気をつけて読もう	**□お話の順序に気をつけて読み，あらすじをまとめて紹介する。**						
		アレクサンダとぜんまいねずみ	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｂ友情，信頼　友達と仲よくし，助け合うこと。	1	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。全文をを読み，初発の感想を交流したり，語句の確認をしたりする。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○単元末には，あらすじをまとめて身近な人に紹介するために，物語を詳しく読むことを確認させる。 ○難語句や特別な表現についての解説や「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。 ○新出漢字の確認をする。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ）	**あらすじをまとめる**	**文／訳／漢字／々／登場人物／物語／始め／終わり／発表／あらすじ／お話／言葉／片仮名／作**
				2・3	**確かめよう** １．あらすじをまとめて身近な人に紹介するために，お話を詳しく読む。 （1）登場人物や主なできごとを確かめる。 ・登場人物の特徴を整理する。 ・場面ごとにアレクサンダのしたことや話したことなどを確かめる。 （2）物語の始めと終わりで，何が変わったかを話し合う。	○挿絵を参考にしながら，登場人物と主なできごとを確認する。 ○ノートに登場人物の特徴をまとめる。 ○挿絵も参考にしながら，話の順序を確かめるために，誰が出てきて，それぞれがどのような行動をし，最後にどのように話が終わったのかを確かめさせる。 ○始めと終わりで登場人物で変わった人はいるか，どのように変わったのか，なぜ変わったのか確認する。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ）		
				4～11	**考えよう** ２．場面ごとの登場人物の気持ちを詳しく読む。 （1）アレクサンダは，いつ自分の考えを変えたのか，話し合う。 （2）アレクサンダは，なぜ考えを変えたのか，話し合う。	○挿絵にふきだしを書いて，場面ごとの登場人物の気持ちもおさえさせたい。 ○「ぼくは……」のあと，なぜ言いかけてやめたのかを考えさせることで，いつ考えを変えたのか確認することもできる。言い始めた時はどういう気持ちだったのか，やめて，そして突然言ったのはなぜか考えさせたい。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもち，学習課題に沿って文章にまとめようとしている。		
				12・13	**深めよう** ３．アレクサンダが考えを変えたことについて，自分の考えを発表し合う。	○「考えよう」で挿絵にふきだしを書いたものを見返し，アレクサンダが，これまでウイリーとしてきた会話やできごとがアレクサンダの頭の中を駆け巡っただろうことをおさえるとよい。			
				14～16	**広げよう** ４．このお話を誰に紹介するのかを決め，あらすじと自分が興味・関心をもったところをまとめて書き，それをもとに紹介し合う。 ○学習を振り返る。	○「たしかめよう」でまとめた，主なできごとを参考にしながら，あらすじが紹介できるとよい。 ○P131「広げよう」の例文を紹介しながら，どのような構成で書くとよいかおさえる。 ○「広げよう」の例文が，４段落構成で書かれているので，授業でも，今日は１段落めを全員書く，次は２段落め……というように全体の足並みを揃えて，書いていくとよい。途中，友達と交流したり相談したりしながら書かせる。 ○一度書いた文章を友達と読み合い，思ったことを伝えてもらい，書いた文章を推敲し，清書するという流れも考えられる。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
3	2 （話す聞く1,書く1）	国語の学習　これまで　これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒◎思判表Ａ(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1 2	１．一年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり，出し合ったりする。 ２．１．で出し合ったことをもとしにて，三年生の国語で学びたいことを出し合う。	○上・下巻の教科書，学習のノート，作成物，プリント類（ポートフォリオ）などを合わせて振り返ることができるようにする。挿絵やふきだしを参考にする。単元名や教材名だけでなく，印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。 ○学んできたことを書き出したりして，グループや学級全体で発表し合う。 ○三年生になって「できるようなりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など，１．で出たことに対応させていろいろな観点で自由に発表し合う。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】進んで経験したことから書くことを見付け，今までの学習を生かして思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。		

令和５年度版『ひろがる言葉 小学国語　三下』年間指導計画・評価計画（案）

教育出版　2020年5月

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第3学年及び第4学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるよう にする。
(3)言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	ー	三年生で学ぶこと							
10 ～ 11	16 （話す聞く9，書く2）	一　絵文字の特長をとらえよう	◇□身のまわりのさまざまな絵文字がどんなことを表しているかなどについて話し合い，絵文字に対する興味や関心を高める。						
10	2 （話す聞く2）	世界の人につたわるように	◇身のまわりの絵（絵文字）を友達と紹介し合う。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒◎思判表Ａ(1)ア ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒思判表Ａ(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	1 2	○単元名とリード文を読み，絵文字について考えるという学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** １．身のまわりにある絵文字を発表する。 ２．教科書に示されたそれぞれの絵文字が，何（どんな競技）やどんな意味を表しているのかを考える。 ３．身のまわりにある絵文字について，見つけたり，思い出したりして，その意味や形の工夫について友達と話し合う。 ○学習を振り返る。	○絵文字についての興味・関心を喚起する。 ○文字による説明がなくても，伝えたいことがわかることや外国の人たちにもわかるようにデザインされていることをおさえる。 ○なぜ，より多くの人たちに伝わるように工夫されているのかを考えさせるようにする。 ○絵文字が特別な場所にあるものではなく，身近なところにたくさんあることに気づかせるようにする。 ○教科書に示されている絵文字にもふれながら，なぜそのデザインにしたのかを児童なりに考えられるようにする。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） 【態度】進んで集めた材料を比較したり分類したりして，学習の見通しをもって，グループで話し合おうとしている。		漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
	7 （書く2）	くらしと絵文字	□段落のつながりに気をつけて文章を読み，絵文字を説明する文章を書く。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書こうとすることの中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。 ⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら，考えと理由，事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ	3	○単元名とリード文を読み，段落のつながりに気をつけて教材文を読んで絵文字を説明する文章を書くという学習の見通しをもつ。 **確かめよう** ４．書かれていることの大体を確かめる。 （1）筆者は，絵文字とはどのようなものだと言っているのか，本文から確かめる。 （2）「くらしと絵文字」を三つの大きなまとまりに分けて捉える。	○p.6のリード文やp.14の前文から，段落のつながりに気をつけて，絵文字がたくさん使われる訳や絵文字がこれからどうなっていくのかを読むことを知らせ，最終的には身のまわりにある絵文字を説明する文章を書くという単元の見通しを伝える。 ○絵文字が私たちの生活と深く結びついていることを感じさせたい。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	だんらくとだんらくのつながり	文／漢字／言葉／理由／情報／場面／役割／筆者／文章／要点／段落／始め／説明する文章／中／終わり／主語／述語／比べる
				4～6	**考えよう** ５．暮らしと絵文字との関わりについて，段落のつながりに気をつけて要点をまとめる。 （1）絵文字の三つの特長をまとめる。 （2）これからの暮らしの中での絵文字の役割をまとめる。 （3）(2)をもとに，絵文字の役割が便利になる場面のことを具体的に想像する。	○「ここが大事」に示されている「段落と段落のつながり」を意識して読ませたい。 ①～③段落：絵文字を説明しているまとまり。 ④～⑫段落：特長が示され，次の段落で具体例をあげる構成。三つの特長がわかりやすく書かれている点をおさえたい。 ⑬～⑮段落：国際化の時代にあり，世界中の人々がより交流を深めるために絵文字は発展・進化する。 ○児童には段落番号をつけさせ，どの段落からどの段落までが大きなまとまりかを話し合わせる。 ○「３」の「身のまわりにある絵文字の説明」という学習活動のために，単元の早い段階で，身のまわりにある絵文字を見つけておくことや，p.19にある参考図書などを用意し，児童が説明したい絵文字を見つけやすい環境を整えておく。 ○三つの特長をノートに書き抜き，二人組やグループで確かめるようにする。 ○次時までに説明したい絵文字を選んでおくよう伝える。	【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ）		
				7・8	**深めよう** ６．身のまわりで見つけた絵文字を説明する文章を書く。 （1）その絵文字を見つけた場所や，意味を書く。p.15に例示された絵文字が，文章に書かれた三つの特長のどれにあてはまるか考える。 （2）「始め・中・終わり」の三つの段落構成で，身のまわりにある絵文字や本から見つけた絵文字を説明する文章を書く。 （3）考えたことや感想を書き，文全体を読み直す。	○p.17に「これは，三つの特長の，第一の特長です」とあるが，なぜ，第一の特長にあてはまるのか，文章中の言葉を用いて説明させる。 ○ここでは「始め・中・終わり」の三つの段落構成を詳しく学ぶのではなく，写真と文を結びつけて，段落のつながりを読解することが中心となるところである。p.17の例に従い，「見つけた絵文字の紹介」→「見つけた絵文字の特長」→「考えたことや感想」という構成をおさえれば十分である。	【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，身のまわりの絵文字について説明する文章を書こうとしている。		
				9	**広げよう** ７．身のまわりにある絵文字を説明する。 （1）書いた文章を友達と読み合う。 （2）感想を話し合う。 （3）学習全体を振り返る。	○絵文字が特別な場所にあるものではなく，身近なところにたくさんあることに気づかせるようにする。 ○友達が見つけた絵文字の説明が，三つの特長のどれかをおさえていることに気づかせ，感想を話し合うときの視点にさせる。 ○p.19「ふり返ろう」の観点に基づいて振り返らせる。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10 ～ 11	7 （話す聞く 7）	絵文字で表そう	◇司会や記録などの役割を決めて，保健室を表す絵文字についてグループですすんで話し合う。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手を意識して，話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら，話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心が伝わるように，場面を意識して言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。 ⇒思判表Ａ(1)エ ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒◎思判表Ａ(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	10	○単元名とリード文を読み，保健室についての話し合いの例をもとに学習の見通しをもつ。 (1) これまで行ってきた話し合いの際の進め方や役割分担を想起する。 (2)「学習の進め方」と照応させながら，保健室の例をもとに学習の全体の流れをつかむ。	○クラスの係活動をよりよくするために，めあてに向かって役割を決めて話し合う意識を高めるようにする。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめている。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ａオ） 【態度】積極的に目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たし，学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。	役わりをきめて話し合う	漢字／記録／司会／発言者／話し合い／役割／意見／提案文／質問／理由／賛成／反対／意見／伝える／様子／共通点／記録係／日付／議題
				11	**決めよう・集めよう** ８．絵文字にする場所を決める。	○司会・提案・記録などの役割をはっきりさせることにより，話題からそれないで効果的な話し合いができることを教材の保健室の例をもとに理解させるようにする。			
				12	**組み立てよう** ９．役割を決めて，話し合いの進め方を確かめる。 (1)「８」の流れを確かめ，話し合いの内容，記録係のノート例をあわせて読み，春田さんのグループのメンバーの役割や立場を理解する。	○話し合いの例は単に読み流すのではなく，役割演技などを意識させ，繰り返しロールプレイなどを行い，p. 24～27の頭注にある話し手や聞き手の意識のふきだし，脚注の話し合いのポイントなどを参考に，それぞれの発言の役割を考えさせるようにする。			
				13・14	**話そう・聞こう（重点）** 10．グループで話し合う。 (1) グループの友達と役割を交替して話し合いを繰り返し，それぞれの役割や立場で話し合いを進めるポイントを確かめる。 (2) どのようにすれば上手なグループの話し合いになるのか確かめ，役割をはっきりさせて話し合う。	○場所ごとのグループに分かれ，議題を明確にするためのアンケートなどの準備の話し合いをする。			
				15・16	**伝え合おう** 11．話し合いの感想を伝え合う。 (1) グループごとに話し合いで決まったことを全体の場で報告し合い，それぞれの役割がきちんと果たせたかを振り返る。 ○自分の役割や友達の役割について振り返り，これからに生かせることを書き留める。	○議題を明確にしたら話し合いの役割を決め，役割に応じた準備をさせて，実際に話し合いをする。 ○話し合いで決まったことをクラスで報告させる。 ○グループでの役割を踏まえた相互評価，自分の役割に応じた自己評価をさせ，全体で共有するようにしたい。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	4 （話す聞く2）	気持ちをつたえる話し方・聞き方	△言葉にはいろいろな意味がこめられることを知り，気持ちが伝わる話し方・聞き方について考える。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	1	○気持ちを伝えるための話し方・聞き方について学習することを理解して，学習の見通しをもつ。 １．「言葉」と「話し方・聞き方」について学ぶという学習内容を理解する。 ２．いろいろな気持ちをこめて「ケロケロ」と言い合い，言葉にこめられた意味（気持ち）を考える。 ３．自分が考えたほかの気持ちを友達に「ケロケロ」で表し，何を伝えようとしているのか「あてっこゲーム」をし，伝えたいことをどう表現すればいいのか，何を工夫すれば伝わるのかについて話し合う。	○話したり，聞いたりするときの気持ちや態度にどのように気をつければよいかなどの話し合いをとおして，言葉について理解するという学習の見通しをもたせる。 ○言葉（音声）には気持ちをこめることができるし，話すときの表情や身ぶり・態度にも気持ちがこめられることを理解させる。 ○自分で考えたものが相手にスムーズに伝えられるように，どのような工夫をすればいいか考えさせることで，意欲的に課題に取り組ませる。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） 【態度】進んで，言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし，見通しをもって，気持ちを伝えるための話し方・聞き方について考えようとしている。		気持ち／漢字／場面／言葉／話し手／聞き手
				2	４．気持ちの伝え方（伝わり方）を確かめ，どのようにすれば相手の気持ちを傷つけずに自分の意思を伝えられるのかを知る。	○どのように話せば，相手の気分を損なうことなく伝えられるかということについて考えさせる。 ○話すときの声の調子（大きさ・速さなど）や表情・視線について体感させるとよい。			
				3	５． （1）聞くほうは何に注意して聞けばいいのか考える。 （2）聞き方を変えることで，相手の話しやすさがどう変わるかについて考える。	○聞き手の立場になって，聞き方によって話しやすさがどのように変わるのかを確かめさせる。 ○聞き手が聞き取りやすくなるような話し方について話し合う。			
				4	６．気持ちの伝え方や聞き方，言葉以外の表情・態度などについて考える。 ７．言葉にこめられる気持ちについて考える。 ○学習を振り返る。	○自分の気持ちを正しく，わかりやすく伝えるためにはどのようにしたらよいかを考えさせる。 ○身ぶりなど耳からの情報以外のものも，コミュニケーションの一部として注意深く考えさせる。 ○言葉の性質やおもしろさ，人と話すときの話し方（気持ちのこめ方など）について，常に意識できるようにはたらきかける。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	2	漢字の広場　④ へんとつくり	△へん，つくりなどの漢字の構成についての知識を得て，漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 ２．p.31を概観し，左右の組み合わせからなる漢字の左側の部分を「へん」，右側の部分を「つくり」と呼ぶことを知る。 ３．p.30の下段の設問に取り組み，気づいたことを話し合う。	○「へん」と「つくり」について知るという学習課題を確かめ，漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○カードは，どれも，ある漢字の右半分，左半分のものであることに気づけるようにする。 ○組み合わせてできる漢字を確かめる。 「校」「顔」「読」 ○漢字には，左右二つの部分に分けられるものがあることを確認する。 ○板書や掲示する文字については，へんとつくりとで色分けして示すと理解しやすい。 ○教師は，本教材がp.80『漢字の組み立て』とセットになっていることを踏まえておく。 ○定着に向けて，本教材と『漢字の組み立て』に掲げられている程度の「偏旁冠脚垂繞構」とその呼び名・字例・語例を順次，教室に掲示していくとよい。 ○どれも「へん」に「言」があることを確認する。 ○「ごんべん」という名称を知る。 ○「読書」「音読」「会話」などの語例をもとに，「ごんべん」は，何に関係ある漢字かを話し合う。	◎【知技】漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】進んで，漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し，学習の見通しをもって，漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。		つくり／へん／カード／漢字／話し合う／言葉
				2	４．「きへん」「にんべん」「てへん」の名称を知り，字例，語例などをもとに，それらの意味を考え，話し合う。 ５．「おおがい」「ちから」の名称と字例や語例を理解する。 ６．これまでに学習した漢字の中から，同じ「へん」や「つくり」がある字を探し，発表し合う。	○字形によって呼び名がつけられている。「にんべん」「てへん」は，もとの漢字が「へん」の部分になるときの字形だということをおさえるようにする。 ○字例や語例をもとに，それぞれのへんは，主に何に関係ある漢字かを話し合うとよい。 ○意味に関係なく，字形をめやすとして「へん」とされる字も中にはあるので，おおまかに捉えることにとどめる。 ○字例や語例をもとに，それぞれの「つくり」は，主に何に関係のある漢字かを話し合ってもよい。 ○「へん・つくり」などの構成要素は，既習の単体の漢字であることが多い。それらの画数・筆順・読み方・意味などを想起できるようにし，関連づけて学習できるとよい。 ○偏旁冠脚の呼び名は，習慣的なものであって，一つに定まっていないものもある。辞典によって違うものがあることを踏まえておきたい。			
	2 （書く2）	漢字の広場　④ 二年生で学んだ漢字　④	△絵を見て想像したことをもとに，２年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	７．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ８．「わたしは，絵をかいたり，はさみで紙を切ったりすることがすきです。」を参考にして絵の中の言葉を使って，絵に描かれている様子を文に書く。 ９．絵の中の言葉や漢字を使って，自分の教室の様子を，主語をはっきりさせて文に書く。 10．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして発表し合う。	○絵の中にある２年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる教室の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように、伝えたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ○二文以上書く場合には，「なぜなら」「その理由は」などの接続の語を提示すると，よりわかりやすくなる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
					○学習を振り返る。	○「へん」と「つくり」について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。			
11	8 （書く2）	二　登場人物の気持ちをそうぞうしながら読もう	□会話や行動に注意して，豆太やじさまの気持ちの変化を想像し，物語のおもしろいところを紹介する。						
		モチモチの木	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書こうとすることの中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒思判表Ｂ(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて，感想や考えを持つこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，自分と登場人物を比べて考え，勇気についての見方を深める。	1 2〜4 5・6 7・8	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．初発の感想を書く。 (1) 主な登場人物を確かめ，その中の中心人物は誰かを考えてノートなどにメモする。 (2) 豆太を臆病だと言っているのは誰かを考える。また，じさまは豆太をどのような子だと思っているか想像して，仲間と話し合う。 **考えよう** ２．会話や行動をとおして，豆太の気持ちの移り変わりを考える。 (1) 場面ごとに，豆太の会話や行動を書き抜き，その時の豆太について思ったことを表のようにノートにまとめ，発表し合う。 **深めよう** ３．中心人物である豆太は変わったのかどうかを改めて考えて話し合う。 **広げよう** ４．この物語のおもしろいところをノートに書いて紹介し合う。 ○学習を振り返る。	○登場人物の行動と気持ちの移り変わりを読み，物語のおもしろいところを紹介し合うという単元の見通しをもたせる。 ○豆太の会話や行動は，場面によってはひとまとまりの行動として取り上げてもよい。その場合は，叙述を省略して引用する。 ○「４」の場面では，麓へ駆け降りる豆太の行動が，気持ちに関わる表現（「ここが大事」）として表されていることに着目させる。ここでの豆太の行動が，「豆太の変容」についての着目点にもなる。 ○「思ったこと」は，叙述や豆太の前後の行動をとおして，その理由をはっきりさせるようにする。また，話し合いによって修正してもよい。 ○夜に一人でせっちんに行けない豆太が，物語の最後にも描かれていることから，「本当に豆太は変わったのか」という問いが生まれてくる。変わったと思うかどうか，理由とあわせて話し合うようにする。 ○おもしろいと思った場面や言葉をメモし，そこから何をおもしろいと思ったのかを具体的に書くようにする。 ○また，心に残った人物の行動や言葉を根拠にして，自分の考えを整理するようにさせる。 ○読み合うとき，友達の文章で共感したり，新たに気づいたりした箇所には，傍線を引くなどする。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって物語のおもしろいところを紹介しようとしている。	気持ちにかかわるひょうげん	文／漢字／訳／物語／語り手／気持ち／中心人物／登場人物／話し合う／場面の移り変わり／場面／主人公／会話／会話文／始め／終わり／理由／言葉／作

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	6 （書く3）	「おすすめ図書カード」を作ろう	△自ら作品を選び，自分で課題を決めて読書をする。 △「おすすめ図書カード」を作り，本を紹介し合い，さまざまな本を読む。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して，読書の幅を広げ合う。	1・2 3〜5 6	○自分の紹介したい本で「おすすめ図書カード」を書くという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 １．紹介したい物語を探して，読む。 （1）「おすすめ図書カード」に書く事柄を確かめる。 （2）本を読む。 ２．本を選び，「おすすめ図書カード」を書く。 ３．友達の書いた「おすすめ図書カード」を見て，読みたい本を本を読み，ひと言感想を書き合う。	○カード作りが目的ではない。日頃よく読んでいる本でカードを作るのではなく，斎藤隆介の作品や巻末「本を読もう」に紹介されている本などさまざまな本を新たに読ませたい。 ○読みながら，気に入った場面をメモさせておく。 ○本のよさが伝わる書き方を考えさせる。『モチモチの木』での学習を想起させ，主人公の行動や気持ちの変化，おもしろいと思った場面などに着目させ，まとめさせる。 ○「カード」の色や形，書き方などは，友達が読みたくなるように工夫させる。 ○紹介する本と「おすすめ図書カード」を一緒に展示し，「おすすめ図書コーナー」を作る。 ○おすすめ度は☆の数で評価させ，ひと言感想はよかったところや気に入ったところを書かせる。 ○友達からの本の紹介は効果的であるので，たくさんの本を読ませたい。また，自分が紹介した本を読んでもらえることも励みになる。 ○本教材以外でも時間を工夫し，継続的に読書に取りませていきたい。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，学習の見通しをもって，「おすすめ図書カード」で本を紹介し合おうとしている。		物語／漢字／文章／主人公／始め／終わり／場面／会話／性格／推薦／題名／情報／目次／カード
12	1	こそあど言葉	△指示語のはたらきを理解し，適切に使う。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ	1	○冒頭の会話文を通して，こそあど言葉について知る。 １．教科書を読んで，こそあど言葉のはたらきや形について知る。 ２．絵を見て空所に入るこそあど言葉を考える。 ３．教科書を読んで，こそあど言葉が話や文章の言葉や事柄を指すことを理解する。 ○学習を振り返る。	○「こそあど言葉」という名称の理由を説明したり，児童に尋ねたりしてもよい。 ○こそあど言葉の一覧表を見ながら，指し示す事柄や相手との関係によってさまざまな形になることに気づかせる。 ○空所にこそあど言葉を入れながら，その言葉が何を指しているかや，話し手と聞き手との距離によって使い分けられていることを理解させる。 ○こそあど言葉が文章中のどの言葉，どの部分を指し示しているのか考えさせる。 ○こそあど言葉に現場指示と文脈指示の二つのはたらきがあることに気づかせる。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】進んで指示する語句の役割を理解し，学習課題に沿って，指示する語句を適切に使おうとしている。		こそあど言葉／言葉／話し手／聞き手／様子／漢字／文章／気持ち

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	5 （書く5）	はっとしたことを詩に書こう	■身近なこと，想像したことをもとに，表現を工夫して詩を書く。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章の間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	1 2・3 4・5	○教材名と二編の詩を読んで，学習のめあてを捉え，見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．4月から書きためている「発見ノート」やこれまでに書いた日記などをもとに，心が動いた瞬間について振り返る。 **組み立てよう** ２．二編の詩を読んで，書き表し方の工夫や表現の優れているところを見つけ，詩の書き表し方について理解を深める。 **書こう・読み返そう（重点）** ３．自分のまわりに目を向けて，はっとして何かを見つめ直したことをもとに詩を書く。 **伝え合おう** ４．書いた詩について交流する。 ○題材の選び方や心の動きの表現の仕方など，今回の学習で学んだことを記録する。	○身近なできごとや周りの人との関わりの中で，はっとして何かを見つめ直したことを詩に書く学習であることをおさえる。 ○四月に書き始めた「発見ノート」から，話題・題材を探させてもよい。なお，「発見ノート」は，第五単元の『強く心にのこっていることを』で活用できるように設定している。できるだけ続けさせたい。 ○「心の動き」「題名の工夫」「たとえ」「繰り返し」「リズム」などについて読み取らせる。 ○「学校のこと」「家庭のこと」「友達のこと」「観察したり経験したりしたこと」などから，強く心に残ったことを想起して，詩の題材を見つけさせる。 ○「なぜ，はっとしたのか」を明確に意識させて書かせるようにしたい。 ○それぞれの詩のよさについて話し合う。 ○「伝え合おう」で交流したお互いの詩のよさを，今後も生かせるように記録させる。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，文章の中で使っているとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に書き表し方を工夫し，学習の見通しをもって詩を書こうとしている。	詩を書く	詩／漢字／詩を書く／たとえる／題名／繰り返す／言葉
12	4 （書く1）	ことわざ・慣用句	△ことわざや慣用句の意味を知り，ふだんの生活の中で使うことができるように，カードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。　⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり，我が国の伝統や文化に目を向けたりする。	1 2 3 4	１．教材文を読んで，知っていることわざや慣用句について話し合う。 ２．ことわざや慣用句の意味を，辞典を使って調べる。 ３．調べた意味をカードに書き，互いに交流する。 ４．ことわざや慣用句を集めて，カードにまとめる。 ５．作った文を発表し，交流する。	○「ことわざ」と「慣用句」という用語を知り，それらがどのように生活の中で使われてきたのかを考えさせる。 ○「国語辞典」や「ことわざ・慣用句辞典」のような辞典を使って，その用法を調べる。 ※現在では，いわゆる差別表現に相当する用法があることに留意する必要がある。 ○使いやすい大きさのカードを用意しておき，友達どうしで読み合う。または，教室の壁面に掲示するなどして，さまざまなことわざと慣用句があることに目を向けさせる。 ○ことわざや慣用句使われる場面を考えて，場面や目的に合ったことわざを使って文を作る。 ○使いたいことわざや慣用句の意味を辞典で調べさせる。 ○使う場面を考え，状況のわかる短文や対話例を作らせるなど工夫したい。 ○ことわざや慣用句が正しい使われ方をしているか，友達やグループ内で確かめ合ったり，助言し合ったりするよう促す。 ○ことわざや慣用句の意味を確認させたり，自分たちが考えた場面に適した使われ方になっているかどうか，確かめる。 ○クラスやグループで，最もおもしろい文を選んでもよい。 ○ことわざや慣用句の意味をあてさせるクイズをしたり，日常でそのことわざや慣用句を使ったらカードにシールを貼ったりするなどの活動に広げてもよい。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に，長い間使われてきたことわざや慣用句の意味を知り，学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。		慣用句／ことわざ／漢字／場面／気持ち／文／伝える／スピーチ

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	2	詩を楽しもう 夕日がせなかをおしてくる	□音読したり，イメージを広げたりして，詩の世界を楽しむ。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。　⇒◎知技(1)ク	1	1．『夕日がせなかをおしてくる』 （1）様子がよく伝わるように，工夫して音読し合う。	○その日，一日をたっぷりと楽しんだ満足感と，夕日の力強さを音読に表したい。 ○各連の後半四行を，「太陽」と「ぼくら」に分かれて呼びかけ合うことも考えられる。 ○二連の四行めを，「ぼくらも負けずに……」と読まないように留意する。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】進んで，情景について具体的に想像し，学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。		詩／様子／音読
		いちばんぼし	△幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	2	2．『いちばんぼし』 （1）『いちばんぼし』を読んで，想像したことを発表し合う。	○「いちばんぼし」を見つけたり探したりした経験を話し合い，星や空の様子を想像して，実際に「いちばんぼし探し」をしてみるよう促したい。 ○「宇宙の目」と目が合ったら，どんなことを話しかけてくるか，どんな挨拶をするかなど，自由に想像させるようにする。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	7 （話す聞く7）	三　調べて発表しよう	◇町の行事について調べ，図や写真，表など，資料を選んで発表する。						
		町の行事について発表しよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。 ⇒思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1 2 3・4 5～7	○教科書の文章を読み，町の行事について調べたり，資料を整理して発表したりする学習活動のあらましを知る。 ・「学習の進め方」と本文とを照応させながら活動の流れを確かめ，学習計画を立てる。 **決めよう・集めよう** １．調べたいことを決めて，詳しく調べる。 （1）自分たちの町の行事を思い出したり，調べたりして，教科書の文章やグループの話し合い例をもとに，詳しく調べる内容を話し合って決める。 （2）教科書の資料例や「インタビューをするとき」を参考に，調べて資料を集めたり，インタビューしてきたりして，調査する。 **組み立てよう** ２．発表計画表を作り，発表の組み立てを考える。 （1）教科書の話し合いの活動にならって，自分たちの集めた資料を比べ合い，どの資料をどのように使って報告するかを話し合い，選んだり加工したりする。 （2）p.76の例などをもとに，役割や資料提示の仕方を考えて発表台本を作る。 **話そう・聞こう（重点）** ３．資料を使って発表する。 （1）クラスで報告会を開き，資料を使ってわかりやすく話したり，大事なところに気をつけて聞き合ったりする。 **伝え合おう** ４．発表を聞いて，感想を伝え合う。 （1）各グループのよいところやもっと工夫できるところについて，感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	○自分たちの町や地域の行事についての関心を高めるポスターなどを事前に用意して関心を高め，教科書の活動に導入したい。 ○北原さんたちの地域と「空っ風たこあげ大会」の調査や報告の手順を知り，全体の見通しをもたせる。 ○児童の関心の範囲だけでは，行事等について把握しきれないものもある。家庭や地域センターなどで聞いてくるようにさせたり，教師がある程度情報を収集しておくとよい。 ○調査やインタビューの相手先には，教師が段取りをつけておくこと。児童だけで行ける範囲でも，安全の配慮を十分にする。写真撮影や録音については相手の許可を得るなど，取材のマナーなどについても指導する。 ○発表に使う資料を選び，どのように使うかを考えさせる。 ○資料の見せ方を工夫したり，録音を聞かせるタイミングを考えさせ，発表台本に生かすようにする。機器の操作や資料提示などの役割分担も台本に明記させるとよい。 ○地域のできごとや催しについて調べて，クラスのみんなに発表するという目的に応じて，図や写真を適切に選び，わかりやすく発表することができたかどうか確認する。 ○司会者や提案者などの役割をきちんと分担し，教科書をもとに学習したことが生きているか確かめる。 ○図や表などを使って効果的に発表することができたかどうか，振り返って話し合う。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。　（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫し，学習の見通しをもって，資料を使って発表しようとしている。	しりょうを使って発表する	資料／発表する／インタビュー／パンフレット／取材／質問する／メモ／組み立て／説明／聞き手／順序／言葉づかい／間
1	2	文の組み立て	△主語と述語や修飾語との関係を理解して，文の組み立てを捉える。 △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ	1 2	○冒頭の会話文をとおして，主語と述語だけでは文意が不明確な場合があることに気づく。 １．教科書を読み，主語と述語による四つの文型を確認する。 ２．修飾語のはたらきと形を理解する。 ３．文の言葉を主語・述語・修飾語に分類し，図で表す。 ○学習を振り返る。	○修飾語を明示することで文意が明確になることを意識させる。 ○既習の３文型の他に「なにがーある／ない」の文型があることを知らせる。 ○主語・述語の他に，内容を詳しくするはたらきの修飾語があることをおさえるとともに，「～を」「～に」にあたる言葉をつけ加えることで文の意味が明確になることを意識させる。 ○述語となる動詞によってさまざまな修飾語が必要になることをおさえる。 ○文をいくつかの部分に分け，主語・述語・修飾語に分類させていく。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】進んで主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係について理解し，学習の見通しをもって，文の組み立てを捉えようとしている。		修飾語／主語／述語／漢字／文

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	2	漢字の広場　⑤ 漢字の組み立て	△かんむり・あしなどの漢字の構成についての知識を得，漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 ２．p.81を概観し，「へん」と「つくり」のほかに，位置によって「かんむり」「あし」「たれ」「にょう」「かまえ」などと呼ぶものがあることを知る。	○漢字の組み立てについて知るという学習課題を確かめ，漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○漢字の構成要素は「偏旁冠脚垂繞構」の七つがあり，このうちp.30では「偏旁」を扱い，本教材で残りの五つを扱う。 ○組み合わせてできる漢字を確かめる。 「感」「草」「国」「進」「店」 ○漢字には，左と右（へんとつくり）だけではなく，上と下や，外側と内側など二つの部分に分けられるものがあることを確認する。 ○漢字には左右だけでなく，上下の部分に分けられるものがあることを確認し，それぞれ「かんむり」と「あし」と呼ぶことをおさえる。 ○「かんむり」には，「くさかんむり」「うかんむり」などと呼ばれるものがあり，「あし」には「こころ」と呼ばれるものがあることを確認する。 ○「たれ」「にょう」「かまえ」のように外側を囲むものは，それぞれどの部分に位置するかを図示をもとに確認する。	◎【知技】漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】進んで，漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し，学習の見通しをもって，漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。		漢字の組み立て／つくり／へん／話し合う／あし／かまえ／かんむり／たれ／にょう
				2	３．「くさかんむり」の漢字は，何に関係のある意味をもっているかを話し合う。 ４．「笛」を例に，「通・宮・原・図・雪・間」の組み立てを考え，話し合う。 ５．これまでに学んだ漢字から，二つの部分に分けられるものを選び出し，それがどのような組み立てとなっているかを話し合う。	○「草」「葉」「花」「茶」「落」「薬」「苦」など字例や語例を集めて，それらをもとに主に植物に関わる漢字を集めていると想起できるとよい。 ○組み立てを考え，漢字を上下の二つの部分に分けることができるようになることに重点を置きたい。 ○「部首」については，漢字辞典の引き方を学ぶ四年上巻で扱う。 ○巻末の『漢字を学ぼう』を参考に選ぶとよい。			
	2 （書く2）	漢字の広場　⑤ 二年生で学んだ漢字　⑤	△絵を見て想像したことをもとに，２年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	６．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ７．「まどの外は雪がふっています。母はあみものをしています。」を参考にして，絵の中の言葉を使って，絵に描かれている部屋の様子を説明する二文以上が続く文を書く。 ８．絵の中の言葉を三つ以上使って，二文以上が続く文章を書く。 ９．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○絵の中にある２年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる部屋の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように，伝えたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ○続きの文を書くために，「それで」「ただし」「なぜなら」などの接続語を提示してもよい。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○漢字の組み立てについて正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1～2	7 （書く2）	四　図や写真と文章を，むすびつけて読もう	□段落のつながりに気をつけながら写真と文章を結びつけて読み，考えたことをまとめる。						
		川をさかのぼる知恵	△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら，考えと理由，事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。　⇒思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア	1 2 3・4 5 6・7	○単元名とリード文を読み，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．書かれていることの大体を確かめる。 (1) 見沼通船堀が必要になった理由を話し合う。 (2) 芝川と見沼代用水の間を行き来するとき，どんな危険があったのかを確かめる。 **考えよう** ２．芝川と見沼代用水の間を行き来するための工夫について，６つの段階に分けた図を用いるなどして，整理する。 (1) 段階ごとに行うことにサイドラインを引く。 (2) サイドラインを引いた部分を短くまとめて，図に書く。 (3) 図にまとめたことを友達に説明する。 **深めよう** ３．見沼通船堀を考えた人たちの知恵について考えたことを話し合う。 (1) 考えたことをノートに書き出す。 (2) 友達どうしで，書いたことを交流する。 **広げよう** ４．「３」で話し合ったことをもとに，考えたことをノートにまとめ，友達と読み合って，感想を交流する。 (1) 考えたことを詳しくノートに書き，友達と読み合う。 (2) 友達や自分の考えのよいところを見つける。 ○学習を振り返る。	○p. 83の単元名とリード文から，写真と文章を結びつけて読み，感想を交流する単元の流れを確認する。 ○見沼通船堀のある場所，長さや特徴に着目させて，運河として用いられていたことを示す情報をおさえる。 ○p. 85「図１　東西二つの見沼代用水と芝川」とp. 89「パナマ運河をつうかする船」の写真とを対比させて，高低差のある場所を行き来していた共通点を理解させるとよいだろう。 ○⑧段落を読み，水位の調節で船を移動させたことを共通理解する。 ○⑨段落を読み，「一の関」を通る際に二十人の人手が必要だったこと等を図にまとめさせる。 ○⑩～⑬段落に水位が高くなってからのことが少しずつ手順を踏んで説明されているので，これまで学習してきた，要点をまとめる方法を想起させるとよいだろう。 ○「ここが大事」にある，「写真と文章を結びつけて読む」ことのよさを実感せたい。「もし，写真がなかったら文章からイメージできるか」などと問い，写真がある効果を感じさせるようにする。 ○文章に線を引き，一人一人が箇条書きしたものを二人組や全体で見合う。 ○p. 91の児童の反応例のように，何度かに手順を分けて行うことのよさについて考えさせる。パナマ運河が遠回りを防ぐことができた点にふれ，見沼通船堀があることで，仕事や生活をするうえで助かった人々が多くいることを具体的に想像できるとよいだろう。 ○今から三百年前に暮らしのために必要な知恵が考案され，船が川をさかのぼっていたことのすばらしさを改めて強調するとよいだろう。また，段階に分けて少しずつ物事を進めていくことの大切さに気づかせるとよいだろう。 ○図を使って説明したり，考えたことを図と結びつけたりすることが大事である。p. 87図２をp. 90の図に置きかえる活動を通じて，整理されたことを丁寧に全体で扱うとよいだろう。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって友達と感想を交流しようとしている。	図と文章をむすびつける	漢字／図／話し合う／筋道／感想／言葉／説明する／作／訳
2	1	十二支と月のよび名	△暮らしの中に今なお使われている昔からの言い方について知り，さまざまな言葉を探して感じたことを書く。 △長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。　⇒◎知技(3)イ	1	１．昔から使われている言い方について，自分たちが知っているものをあげる。 ２．教科書を読み，月や干支の昔の言い方やその由来について知る。 ３．月の言い方や，知っている昔の言葉の意味について辞典や本を使って調べ，新たに知ったことを共有したり比べたりする。	○昔の言葉が調べられる本や，昔の言葉が出てくる本を用意し，手に取れるようにしておく。 ○今年の干支や，自分たちの生まれた年の干支を想起させ，課題意識をもたせる。 ※干支の由来にまつわる民話などを語り聞かせてもよい。 ○教材文を読んで，暮らしに残る昔からの言葉やその由来について興味をもたせ，どのよう場面（カレンダー，古謡の歌詞など）で使われているか探すようにさせる。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】積極的に，長い間使われてきた十二支や月の呼び名を知り，学習の見通しをもって，今の暮らしの中に残る昔からの言い方を見つけようとしている。		十二支／月のよび名／漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	8 （書く8）	五　つたえたいことの中心を明らかにして書こう	■身近な生活の中から自分に合った題材を見つけ，段落相互の関係を考えながら，中心になる場面をはっきりさせて文章を書く。						
		強く心にのこっていることを	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1・2	○教材名や本文を読んで，一年間の生活の中で「強く心に残っていることを文章にする」という課題をもつ。そのうえで，「学習の進め方」を読んで学習のめあてをつかみ，見通しをもつ。	○教材全体を通読し，学習の見通しをもつ。 ○目的意識の設定例：学年文集やクラス文集にする。 ○相手意識の設定例：保護者に配付する，３年生の他クラスと交換する，図書室に置いて全校のみんなに読んでもらうなど。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，文章の中で使っているとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	様子や気持ちがつたわるようにくわしく書く	場面／伝える／漢字／気持ち／組み立て表／中心場面／始め／本文／様子／中／終わり／読み返す／題名／会話文／会話／直し方／文／意見
				3	**決めよう・集めよう** １．できごとを一つ選び，詳しく思い出す。	○中田さんのように，特に思い出に残っていることはないかと考えさせ，心配だったことのほかにも「うれしかったこと」「がんばったこと」「悲しかったこと」「悔しかったこと」など，思い出の中にもいろいろあることを話し，題材を広げさせていく。 ○四月に書き始めた「発見ノート」が活用できるように設定されている。自分の「発見ノート」を見返す楽しさを味わわせたい。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）		
					○イメージマップを作って，いちばん伝えたい場面について考える。	○イメージマップを作って，友達といちばん伝えたい場面について考えさせる。	◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ）		
				4	**組み立てよう** ２．中心場面を考えながら，組み立て表を作る。	○組み立て表の横軸は「始め・中・終わり」，縦軸は「できごと（時間の流れ）・その時の様子や気持ち」である。 ○中心にする場面を明確にするため，太線で囲ませる。 ○５Ｗ１Ｈを提示し，メモ作りのためのヒントにさせる。 ○必要に応じて家族や友達に取材させるなど，取材時間を十分に取りたい。 ○メモについて，適宜意見交換の場を設けることで，中心場面をより明確にする。 ○「その時の様子や気持ち」を箇条書きでよいので，できるだけあげさせる。特に中心場面をより具体的に	◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ）		
				5・6	**書こう・読み返そう（重点）** ３．組み立て表を生かして，読み返しながら書く。	○p.98・99を参考にさせる。 ○下段を参照して読ませる。 ○協働推敲として，お互いの下書きを読み合って付箋を貼り合う活動を盛り込むことで，「中」の部分をより詳しくさせる。	◎【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】粘り強く間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして文や文章を整え，学習の見通しをもって，思い出に残っているできごとについて文章を書く。		
				7	○推敲の観点をはっきりと認識して自分の文章を読み返し，書き直したり，書き加えたりする。	○推敲の観点としては，大きく二つのことで，「様子や気持ちがよく伝わってくるところ」と「さらに工夫できるところ」を提示するとよい。 ○「ここが大事」の観点に即して，適切に読み返させたい。 ○友達とお互いの下書きを読み合って，よいところやさらに工夫できるところを付箋で伝え合えるとよい。			
				8	**伝え合おう（重点）** ４．友達と読み合って，感想を伝え合う。	○互いの文章のよい点について伝え合わせる。 ○表現のよさだけでなく，「組み立て表から本文にどうつなげているか」などの学習過程についても評価させたい。 ○「実の場での活用」として，保護者に配付したり，３年生の他クラスと交換したりし，感想を書き合ってそれをもらえると，「書いてよかった」「また書きたい」という気持ちをもたせることができるだろう。			
					○伝えたいことの中心を決めて，様子や気持ちを詳しく書くための方法を理解したかを振り返る。また，ふだん日記などの生活作文を書くときにその方法を生かすようにする。	○特に，中心場面で工夫したことを交流させる。また，完成した文章だけでなく，メモや組み立て表もあわせて読むことで，学習過程自体についても振り返らせるようにする。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	2	漢字の広場　⑥ 二つの漢字の組み合わせ	△漢字二字の言葉の構成について，問題を解きながら確認し，二つの漢字のつながり方を考える。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「坂になっている→道」を例に，上と下の言葉のつながりをもとに，「漢字二字の言葉」を考える。 ２．「深海」を例に，「漢字二字の言葉」の読み方と意味を考え，それぞれのつながり方について話し合う。	○二つの漢字の組み合わせについて知るという学習課題を確かめ，漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○p.102に掲げる「漢字二字の言葉」の構成は，いずれも上の漢字が下の漢字に対して，様子や程度・状態などを説明する関係にあたる。語構成が「修飾の関係」となっている。 ○上から下に向かって訓で読み下すことが，意味の理解を助けることが体験をとおしてわかるようにする。 ○読み下した意味をもとに，国語辞典で確かめてみる。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，漢字二字の言葉の構成について考えようとしている。		二つの漢字の組み合わせ／言葉／漢字二字の言葉／二つの漢字が組み合わさってできた言葉／二つの漢字でできた言葉／話し合う／国語辞典／反対の意味になる言葉
				2	３．「田畑」を例に，関係のある漢字を組み合わせてできた言葉を考え，国語辞典で意味を確かめる。 ４．「軽重」を例に，反対の意味になる漢字を組み合わせてできた言葉を作る。 ５．「川岸」「白酒」のように連濁する言葉を集めてノートに書き，発表する。	○p.103に掲げる「漢字二字の言葉」の構成は，上段が類義の漢字を組み合わせたもの，下段が対義の漢字を組み合わせたものにあたる。どちらも語構成が「並列の関係」となっている。 ○関係のある漢字（意味が似通っている漢字）を選び出すには，これまでの類義語の学習経験を生かすようにする。 ○互いに対立，または対になる意味をもつ漢字を探すには，これまでの対義語の学習経験を生かすと効果的である。 ○二つの言葉が複合することによって，あとのほうの成分の初めの音が濁る「連濁」は，ふだんなにげなく使用していて気づきにくいが，ここではそれが意識化できるようにする。			
	2 （書く2）	漢字の広場　⑥ 二年生で学んだ漢字　⑥	△絵を見て想像したことをもとに，２年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	６．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ７．「赤い屋根の家の前を通って，学校へ歩いて行きます。」を参考にして，絵の中の言葉を使って，絵に描かれている町の様子を文に書く。 ８．絵の中の言葉や傍線の漢字を使い，「くわしくする言葉」（修飾語）を加えて町の様子を文に書く。 ９．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○絵の中にある２年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように，伝えたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ○続きの文を書くために，「それで」「ただし」「なぜなら」などの接続語を提示してもよい。 ○主語と述語の他に修飾語を使って書くようにする。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○初めに書いた文と推敲した後の文を比べ，書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。 ○友達が発表した文の組み立て（主語・述語・修飾語）を互いに確認し合うようにする。 ○二つの漢字の組み合わせについて正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
3	10 （書く2）	六　登場人物の気持ちのうつりかわりを読もう	□登場人物の心の動きを想像しながら，消えていったおにたに手紙を書く。						
		おにたのぼうし	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。 ⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。 ⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて，登場人物の性格や気持ちの変化，情景について具体的に思い描くこと。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■行事の案内やお礼の文章を書くなど，伝えたいことを手紙に書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)イ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合っ たりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，友達と互いに理解し，信頼し，助け合うことについての考え方を深める。	1 2～8 9・10	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．中心人物のおにたについて，感想をもつ。 （1）主な登場人物を確かめる。 （2)中心人物であるおにたについて，最後の場面を読み，感想を書いて紹介し合う。 **考えよう** ２．物語を読んで，おにたの気持ちの移り変わりを想像する。 （1）物語の始めの場面（まこと君の家）から想像できるおにたの性格について話し合う。 （2）まこと君の家にいる時のおにたと，女の子の家を見てからのおにたの様子を比べて考えをノートに書き，紹介し合う。 （3）まこと君の家を出ていく時のおにたと，女の子の前からいなくなる時のおにたの違いについて考え，話し合う。 **深めよう** ３.おにたは，なぜ「角かくしのぼうし」を残して女の子の前からいなくなってしまったのか，考えをノートに書いて話し合う。 **広げよう** ４．おにたの性格や気持ちの移り変わりをもとに，消えていったおにたについて考え，おにたへの手紙を書く。 (1)おにたが消えてしまったことについて，思ったことをノートにメモし，発表する。 (2)読んで思ったことを手紙にしておにたに書き，お互いに読み合う。 ○学習を振り返る。	○登場人物の気持ちの移り変わりを読み，思ったことをおにたへの手紙にして書くという単元の見通しをもたせる。 (1)登場人物やそれぞれの関係などを確認しておく。 (2)物語の結末について最初の感想をもつ。 ○おにたの性格について，わかるところに線を引くようにする。 (1)本文には，「気のいいおに」「はずかしがり屋のおにた」とある。ここで大事なことは，性格を抽象化することではなく，「気のいい」「はずかしがり屋」とはどういうことで，どのような事実（行動）からわかるのかということをおさえることである。 (2)女の子の家を見てからのおにたの行動や言葉に着目させる。 (3)まこと君の家から出ていく時と女の子の前からいなくなる時の様子の違い，せりふの違いなどについて，共通点と相違点に気をつけながら読むようにする。 ○おにたにとって，角かくしの帽子には，どのような意味があるのかを考えさせる。そのうえで，帽子を残していなくなってしまったおにたの思いを想像させるようにする。 ○p.122の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。 ○「どこかへ行ってしまった」と考えるか，「豆になった」と考えるかによって，手紙の内容が変わるかもしれない。いずれにせよ，消えていったおにたについてそれぞれの立場で感想をもち，その立場に基づいて手紙を書くようにする。 ○最初の場面からおにたが消えてしまった場面まで，もう一度おにたについて思いをめぐらせながら，手紙を書かせる。 ○手紙というと，「どうして，～なのですか。」のような質問形式が多くなりがちである。「どうして」の箇所は，自分なりに想像してうめさせるようにする。問うのではなく，自分で考えるようにさせる。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，登場人物に宛てて手紙を書こうとしている。	場面のうつりかわりと登場人物の変化	文／漢字／物語／登場人物／発表／終わりの場面／始めの場面／性格／話し合う／様子や気持ち／手紙／言葉／登場人物の変化／場面の移り変わり／最後の場面／場面／物語の内容／作

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
3	2 （話す聞く1,書く1）	国語の学習　これまで　これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒◎思判表Ａ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1 2	１．１年間の国語の学習を振り返り，自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 ２．四年生になったら，１で出し合ったことがどのように広がっていくのか想像したり希望を出し合ったりする。	○上・下巻の教科書，学習のノート，作成物，プリント類（ポートフォリオ）などから振り返ることができるようにする。挿絵やふきだし，「三年生で学ぶこと」を参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 ○心に残っている単元や教材，学習活動，また心に残っている言葉などを具体的にメモし，発表し合う。 ○友達の発表を共感して聞き，交流し，学んできたことを共有できるようにする。 ○四年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など，いろいろな観点で話し合うようにする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に伝え合うために必要な事柄を選び，今までの学習を生かして，１年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。		言葉

令和５年度版『ひろがる言葉 小学国語　四下』年間指導計画・評価計画（案）

教育出版　2020年5月

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第3学年及び第4学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるよう にする。
(3)言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	ー	四年生で学ぶこと							
10	8 （書く2）	一　場面のうつりかわりと結びつけ，登場人物の変化を読もう	□人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み，読書の世界を豊かにする。						
		ごんぎつね	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒思判表Ｂ(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，生命の尊さを感じ取り，生命あるものについての見方を深める。	1〜3	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．登場人物を確認し，作品の全体像をとらえる。 （1）登場人物を確認し，それがどのように紹介されているか確かめる。 （2）ごんの気持ちがわかる表現を場面ごとに見つけ出し，気持ちの変化について考えを話し合う。	○単元とびらにある「おれと同じ，ひとりぼっちの兵十か。」に着目させ，想像したことを発表させる。 ○作品との出会いは，教師の範読などでもよい。 ○初発の感想を簡単に書かせておくとよい。 ○物語では，冒頭場面で登場人物が紹介されていることが多い。それぞれどのような人物として紹介されているかを丁寧に読み取ることが，あとの深い読みにつながる。 ○中心人物の一人であるごんに着目し，その心情の変化を大きく捉えさせる。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ）	登場人物の変化に気をつける	文／お話／漢字／物語／気持ち／場面／始め／ポスター／題名／言葉／説明する／登場人物／中心人物
				4･5	**考えよう** ２．ごんと兵十の心の動きを読む。 （1）ごんに対する兵十の気持ちの変化を読む。 （2）ごんと兵十の関係の変化を読む。 **深めよう** ３．償いを始めるきっかけとなったごんの想像の理由を考える。 ＊兵十の人物紹介の場面の叙述が，実は，ごんの想像の理由にもなっていたことを読み取る。	○「たしかめよう」で，ごんの気持ちの移り変わりについてはおよその内容を捉えた。それに対して兵十はごんのことをどのように思っているか考えさせる。ごんは，穴の中で「あんないたずらしなけりゃよかった。」と考え，麦をといでいる兵十を見て「おれと同じ，ひとりぼっちの兵十か。」と思って償いを始める。しかし，兵十はそのことはわかっていない。兵十の，ごんに対する思いは，ごんを撃つまで変わっていないことに気づかせる。 ○ごんの気持ちは兵十に近づいている。だからこそ，お念仏の帰りに加助が兵十に「神様にお礼を言うがいいよ。」と話をした翌日にも，ごんは兵十に栗を届けに行っている。こうしたごんの行動に，兵十が気づいたのはいつかを考えさせる。	◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ）		
				6	４．ごんと兵十の心のつながりについて，思ったことをノートにまとめる。 ＊ごんと兵十の心のすれ違いやつながりについて考えを書く。 ＊書いたものを紹介し合い，場面の移り変わりと人物の心情の変化について考えを整理する。	○てびきの下段にある子どもの考えを参考にして，二人はわかり合えたのかどうか，自分の考えを書かせる。 ○「考えよう」で話し合った，「ごんと兵十の気持ちがいちばん近づいたところ」をもとに，自分の考えをまとめさせる。 ○それぞれの考えを交流させながら，作品全体を見直し，場面の移り変わりと，登場人物の心情の変化のつながりについて，そのおもしろさに気づけるようにする。単なる感想の交流ではなく，場面構成の工夫や，巧みな叙述のつながりに気づくことができるようにする。 ○教科書p.26にある例文を読み，景色や場面の様子が詳しく書かれている表現のよさについて考えさせる。 ○季節を表す言葉や複合語については，場面の移り変わりを捉えたり，内容を読み深めたりするなかで適宜取り上げて扱うようにすると効果的である。	【態度】積極的に，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。		
				7・8	**広げよう** ５．この物語のおもしろいところや工夫されているところをお薦めするポスターを書く。 （1）物語の内容をもとに，ポスターの題名を考える。 （2）できあがったポスターを読み合う。 ○場面の移り変わりと，登場人物の気持ちの変化を捉えることができたかを，ノートなどを見直しながら振り返る。 ○『ごんぎつね』をお薦めするポスターに，自分の考えた題名をつけ，それに対する説明を書くことができたか振り返る。	○作品全体を読み直して，ポスターの題名を考えさせる。その時に，ごんと兵十の心情の移り変わりや，お互いの心のつながりなど，本単元で学習してきた学習の記録を見直すようにするとよい。ポスターの題名が，作品に対する主題の捉えにつながっていく。 ○できあがったポスターを読み合うと，それぞれの人が，『ごんぎつね』という作品をどのように読み，どのように受け止めたのかがわかってくる。共通点や相違点を考えながらポスターを読み合うようにさせる。 ○今までの学習を振り返らせるには，まとめてきたノートやワークシートなどを見直すように促す。また，自分の作ったポスターをもとに，作品をどのように受け止めたのかを改めて考えさせるようにする。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10 ～ 11	5	「読書発表会」をしよう	△紹介したい本を何冊か選び，「読書発表会」をし，読書の幅を広げる。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表C(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して，読書の幅を広げ合う。	1～3 4・5	○「読書発表会」でテーマにそって本を紹介するという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 １．紹介したい本を選び，「読書発表会」の準備をする。 (1) 発表のテーマにそった本を集める。 (2) 紹介する本の順番を決め，組み立てメモをもとに，発表内容を考える。 (3) 発表の練習をする。 ２．「読書発表会」をする。	○本教材に入る前に，テーマを意識した読書をさせておくとよい。読んだ本とその本のテーマを記録させておく。 ○教師や学校司書，公共図書館の司書のブックトークを実際に聞く機会をつくると，テーマにそって本を紹介するというイメージをもたせやすい。 ○テーマに合わせ，３冊程度の本を紹介するようにさせる。 ○１冊の本からさまざまなテーマが考えられることの例を示す。 ○物語に限らず，いろいろなジャンルから本を選ばせる。 ○テーマ別ブックリストや自分の読書記録があれば， ○p. 29の「組み立てメモ」や，p. 30・31の発表例を参考に，聞いている人が読んでみたくなるような発表の仕方を工夫させる。 ○「組み立てメモ」のうち「始め」「本の内容」「終わり」に示したものついては，その全てを発表する必要はない。 ○発表のタイトルは，テーマの言葉をそのまま使うのではなく，工夫させる。 ○実物の本を聞いている人に見せながら，発表させる。 ○発表会後，友達の紹介を聞いて読みたくなった本を発表させる。本教材以外でも，時間を工夫して，読書に取り組みやすい環境を用意するようにしたい。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，学習の見通しをもって，「読書発表会」で本を紹介しようとしている。		組み立て／ブックトーク／漢字／始め／物語／記録／中／題名／あらすじ／場面／言葉／終わり／発表／お話
11	4 （話す聞く1）	言葉が表す感じ，言葉から受ける感じ	△言葉や音が表すイメージや，イメージに即した言葉を考えたりすることによって，言葉の特性について考える。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。 ⇒思判表Ａ(1)エ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	1 2・3 4	○「言葉」について学ぶという学習内容を理解して，学習の見通しをもつ。 １．犬や身近なものを表す名前などをもとに，言葉から受けるイメージについて考えて，話し合う。 ２．擬声（音）語や擬態語をもとに，音とイメージの関係について考える。 ３．「強そうな名前」「はじける感じ」など，言葉（音声）と感覚の結びつきについて考え，話し合う。 ４．自分でお菓子の名前を考えて，意味や気持ちなどが共有できるかどうか確かめる。 ５．意味や気持ちを伝えられる言葉とそうでないものについて考え，言葉の特性について理解する。 ○学習を振り返る。	○言葉や音が表すイメージについて考えたり，言葉を作ったりすることをとおして，言葉の特性について理解するという学習の見通しをもたせる。 ○「チロ」という言葉から受けるイメージについて考え，また，なぜそのようなイメージが生じるのかについて考える。 ○言葉から受けるイメージが，誰でも共通のことなのかどうかなどについて確かめる。 ○それぞれの擬声（音）語・擬態語によってどのような感じ方の違いが生じるかを確かめさせる。 ○清音と濁音・半濁音の感じ方の違いにも気づかせる。 ○形や大きさ・色・硬さなど，具体的に想定することが前提になる。自由に発想させたい。 ○想定したお菓子のどのような性質・特徴を表した名前なのかをきちんと認識させる。 ○自分で考えたイメージを表す名前が，他者に通じるものであるようにさせることが大事になる。 ○言葉の性質やおもしろさや，他者とイメージを共有させることによって意思を通じ合わせることができることなどについて，常に意識できるようにはたらきかける。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） 【態度】進んで，言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし，学習課題に沿って，言葉がもつイメージについて考えようとしている。		伝える

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	8 （話す聞く 8）	二　目的や進め方をたしかめて話し合おう	◇司会者や発言者などの役割を果たしながら，話し合いの進行に合わせ，互いの考えを伝え合って話し合う。						
		新スポーツを考えよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。 ⇒思判表Ａ(1)エ ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒◎思判表Ａ(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ ☆総合的な学習の時間・特別活動など：司会者や提案者・記録者などの役割を知り，分担して話し合いを進める。合意形成の仕方を学ぶことに生かせる。	1	○単元名やリード文を読み，役割を決めたり，進行に従って話したりする方法について話し合い，学習の見通しをもつ。 （1）これまでのクラスの話し合いを振り返る。 （2）これまでにどんなことを話し合ったか話し合う。 **決めよう・集めよう** １．誰と，どんな新スポーツをやりたいかを考える。 （1）クラスで話し合う新スポーツについて決める。 **組み立てよう** ２．役割を決め，進行について打ち合わせをする。 （1）話し合いの仕方や結果などのよかった点・問題点などを話し合う。	○司会者や提案者・発言者などの役割を把握して話し合いに参加したり，友達との意見や考えの共通点や違う点を理解したりして，進行に合わせて話し合いができるように意欲づけ，学習の展開がつかめるようにする。 ○話し合いの時・場所・人数など，さまざまな状況に合わせてどのような話し合いをしてきたかを想起させる。 ○どのような話し合い方でどのような結果になったか。 ○役割分担ができていたか，活発に意見交換ができていたか，自分の意見をきちんと伝えることができたか，他者の意見を正しく受け止めることができたか，みんなが参加することができたか，納得できる結論にいたったか，話し合いをしてよかったかなどの点を確認する。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａオ） 【態度】積極的に目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たし，学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。	役わりに気をつけて話し合う	漢字／役割／司会／記録係／質問／意見／課題／発言者／話し合い／メモ／賛成／共通点／反対／説明／理由
				2・3	**話そう・聞こう（重点）** ３．役割に気をつけて，クラスで話し合う。 （1）教科書を読み，夏川さんのクラスの例をもとに学習の流れをつかむ。	○これまでに行ってきた話し合いを想起させる。特に，「他者の意見をきちんと聞けていたか」「特定の人だけが発言していなかったか」「目的にそった話し合いができていたか」「役割をきちんと決めた話し合いができていたか」などについて，振り返る。 ○学級会の目的を確認する。			
				4	**伝え合おう** ４．話し合いを振り返る。 （1）夏川さんのクラスの話し合いをもう一度読み，どこがよいのか発表し，役割ごとの留意点を確認する。	○生活班で出し合い，その後全体で発表し合う。 ○自分たちと比べて上手な場面や言い方を具体的に出し合う。 ○振り返りの際は，脚注にある話し合いのポイントを生かす。 ○複数回行うことを知らせ，多くの児童が役割を経験できるようにする。 ○無理のない日程を計画する。			
				5〜7	（2）学級会（2回め）を行い，振り返りをして，次の準備を行う。 （3）学級会（3回め）を行い，振り返りをする。				
				8	（4）自分たちの話し合いについて気になる点に注意できたか，友達の意見と自分の意見をつないだり，比べたりして話し合えたか，ノートに書いて発表し合う。 ○今後のクラスでの話し合いについて考える。	○具体的に場面や言葉をあげるようにする。 〈振り返りの観点の例〉 ＊役割分担にそって話し合うことができたか。 ＊話し合いの目的に合った発言ができたか。 ＊話し合いの進行に合わせて発言ができたか。 ＊理由を明らかにしながら，自分の考えをきちんと表すことができたか。 ＊丁寧な言葉づかいで話すことができたか。 ＊他者の発言を正しく聞くことができたか。 ＊自分の考えと他者の考えの違い（または同じ点）に気をつけて話すことができたか。 ＊みんなの意見をまとめることができたか。 ＊話し合いの結論はどうなったか。 ○常に，役割や進行について考え，話し合いの目的にそった話し合いをしていくことができるよう意欲づける。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	2	漢字の広場　④ いろいろな意味を表す漢字	△一つの漢字には，複数の意味がある場合が多いことを理解する。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「手」という漢字がもつ複数の意味について考える。 ２．「手」の五つの意味別に，語句を集め，話し合う。	○いろいろな意味を表す漢字について理解し，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○一つの漢字に，いくつかの意味を表すことがあるということを「手」を例に考える。 ○「行く手」「手作り」など例示の語を使って短文を作り，具体的に考えさせる。 ○「手」の漢字を中心にして，構成される語句を意味ごとにつないでいくマップにまとめるとよい。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習課題に沿って，漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。		いろいろな意味を表す漢字／漢字／漢字辞典
				2	３．選択肢のそれぞれの言葉の意味を考え，「本」「親」「名」「原」という漢字がもつ複数の意味と比べる。 ４．漢字辞典を使って，「長」「家」「札」がもつ複数の意味を調べる。 ５．漢字辞典を使って，これまでに学習した漢字がもつ複数の意味を整理し，意味別に熟語を集め，ノートにまとめる。	○漢字を中心に，その漢字から構成される語句を意味ごとにつないでいくようなマップにまとめるとよい。 ○漢字の意味と，熟語や複合語などの語句の意味とを関連させて考える習慣を身につけられるようにしたい。 ○漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ，漢字の意味と語句の意味との関連に興味がもてるようにしたい。			
	2 （書く2）	漢字の広場　④ 三年生で学んだ漢字　④	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	６．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ７．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ８．作った文を互いに発表し合う。 ○学習を振り返る。	○p.44の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかるこの校庭の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○この校庭の様子がはっきりわかるよう，書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○条件をつけて文を書くように促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると，言葉を適切に使っているかどうかがわかりやすくなる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○互いのよいところを発表し合うとよい。 ○互いの書いた文章を読み合ったり音読し合ったりして，その内容や表現について，感想や意見を述べ合い，自分の文章のよいところを見つけるようはたらきかける。 ○いろいろな意味を表す漢字について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子／説明

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11 ～ 12	9 （書く2）	三　大事な言葉や文に気をつけて要約しよう	□ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列にそって読み，興味をもった点から整理して文章を要約する。						
		ウミガメの命をつなぐ	△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア	1～6

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	2	二つのことがらをつなぐ	△二つの事柄をつなぐとき，使う言葉によって内容が大きく変わることを理解し，接続語のはたらきを意識して，正しく使い分ける。 △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ	1 2	○冒頭の問いを通して，二つの事柄をつなぐ言葉について興味をもつ。 １．教科書を読み，二つの事柄をつなぐ言葉（接続詞や接続助詞）のはたらきを理解する。 ２．接続助詞と接続詞の対応を考えながら１文を２文に分ける。 ３．接続助詞の意味を考えながら，後に続く文を考える。 ４．つなぐ言葉に注意しながら２文を１文にする。 ○学習を振り返る。	○接続助詞が違うことでどのように文意が違ってくるか考えさせる。 ○接続助詞によるつなぎ方の違いで，文意がどのように違ってくるか理解させる。 ○接続助詞が表す意味を考えさせながら，対応する接続詞を選ばせる。 ○１文を２文に分ける際，接続詞が適切な位置にきているか，各文の文末が言い切りの形になっているか確認させる。 ○作成した文は発表させるなどして，不自然な点がないか確認するとともに，いくつか文が作れることに気づかせる。 ○接続助詞に対応する接続詞を考え，接続詞の位置，文末の形に気をつけながら文を作成させる。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】進んで接続する語句の役割について理解し，学習の見通しをもって，接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。		文／漢字／言葉

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	6 （書く6）	四　調べたことをわかりやすく書こう	■図や写真などの資料を活用し，紙面を工夫して図鑑を作る。						
		「不思議ずかん」を作ろう	△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒知技(1)ウ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1 2・3 4 5 6

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	2	詩を楽しもう いろいろな詩	□さまざまな形の作品を読みながら，詩の世界を楽しむ。 △文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。　⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，**読**書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1・2	1．『いろいろな詩』 （1）それぞれの詩を読み，感じたことを発表し合う。 （2）それぞれの詩の題名から，どのようなことを思い浮かべるかを考える。	○まずは，題名と詩とのイメージのつながりを話し合う。 ○そのうえで，題名から浮かぶ，自分なりのイメージを一行程度の言葉で表す。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】進んで，詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって発表し合おうとしている。		詩／訳／題名／言葉
		おおきな木			2．『おおきな木』 （1）詩を音読し，内容を把握する。 （2）詩に見られる工夫を考える。	○「おおきなって」や「ようけ」などの言葉に気をつけて内容を理解させる。 ○気がついたことや思ったことなど，自由に発表し合うように促す。 　＊視覚的な効果（作品全体が木の形になっている。） 　＊初行と終行との対応 　＊「おおき」の繰り返し 　＊「おおき」の意味の違い 　＊関西弁のおもしろさ			
		とびばこ　だんだん			3．『とびばこ　だんだん』 （1）言葉の重なりや繰り返しに気をつけて音読する。 （2）なぜ，とびばこが「かいぶつ」に見えたのかを考える。 4．気に入った詩の形式と同じような詩を考え，発表し合う。	○二連の視覚的な効果，高くなるにしたがって「～かな」「～よな」と変化していることに気づかせる。三連めは，失敗の連続のようである。 ○なぜ，「かいぶつ」に見えたのか，また，自分なら何に見えるだろうかということを考える。 ○『いろいろな詩』をまねる場合は，教科書にはない題を考える。 ○『おおきな木』『とびばこ　だんだん』をまねるときは，詩の内容に対応するような形を考える。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	2	漢字の広場　⑤ 熟語のでき方	△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について，問題を解きながら確認し，二つの漢字のつながり方を考える。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「高温」「寒冷」「苦楽」という言葉にある二つの漢字の意味のつながりを考える。 ２．「熟語」の定義を知り，漢字の意味を考え，熟語の構成について理解する。 ３．「良薬」を例に「上の漢字が下の漢字を修飾する熟語」について考える。 ４．「お祝いの日」「清らかな流れ」という意味を表す熟語を考え，話し合う。	○熟語のでき方を理解し，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○三下『漢字の広場⑥　二つの漢字の組み合わせ』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 ○「熟語」は今後も常用する用語なので，定義をしっかりおさえるようにする。 ○熟語をもとの単語に分解し，意味を類推できるようになることが重要である。 ○「良薬」から「良い薬」と読み下すとともに，「良い薬」から「良薬」を想起できるようにすることも大切である。 ○四上の『修飾語』での学習を生かすようにする。 ○考えた熟語をもとに短文を作り，もとの語句と比べるとよい。 （例）山おくの清らかな流れに魚が泳ぐ。 　　山おくの清流に魚が泳ぐ。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。		熟語／言葉／漢字／国語辞典／漢字辞典／比べる
				2	５．「思考」「前後」を例に，「意味のうえでつながりのある漢字がならぶ熟語」について考える。 ６．「にた意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり，集めてノートにまとめたりする。 ７．「反対の意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり，集めてノートにまとめたりする。 ８．国語辞典や漢字辞典を使い，集めた熟語の意味を調べる。	○「意味のうえでつながりのある漢字がならぶ熟語」は，現代日本語の二字熟語のうち約２割を占める。使用機会が多いことと，抽象的な概念を表す語に多いことから，この教材で意識的に取り組み，漢字の意味から語句の意味が想起できるようにしたい。 ○国語辞典や漢字辞典を活用して，漢字の意味と語句の意味との関連を調べるようにする。 ○漢字どうしが類義語の関係になっていることをおさえる。 （例）学習→まなぶ・ならう ○漢字どうしが対義語の関係になっていることをおさえる。 （例）多少→おおい・すくない ○辞典を活用して，一つ一つの漢字の意味を確認し，熟語の意味と対比できるようにしたい。			
	2 （書く2）	漢字の広場　⑤ 三年生で学んだ漢字　⑤	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	９．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 10．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 11．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。	○p.80の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように，伝えたいこと，知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ○条件をつけて文を書くように促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると，言葉を適切に使っているかどうかがわかりやすくなる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子／説明

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
					○学習を振り返る。	○熟語のでき方について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。			
1～ 2	15 （話す聞く9，書く1）	五　自分の経験と結びつけて考えよう	◇□身のまわりの道具や設備について，「便利」とはどういうことかを考えながら話し合ったり読んだりし，自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。						
1	1 （話す聞く1）	身のまわりの「便利」なものを考えよう	◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び，使いやすくなる工夫を考えて話し合う。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒◎思判表Ａ(1)ア ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒思判表Ａ(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	1	○便利なものについて考え，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** １．身のまわりにある便利なものについて考える。 （1）自分が便利と思うものをあげ，その理由を考える。 （2）便利と思うものとその理由について，友達と話し合う。 （3）「便利」とはどのようなものかを考える。 ○学習を振り返る。	○自分の生活体験から考えさせる。便利なものの名前だけを先に付箋紙に書いて出させてもよい。 ○クラス全体やグループで，便利だと思う理由を話し合わせる。いろいろな視点から多くの意見が出されるように支援する。 ○みんなの意見から，どのようなものが「便利」なのかを考えさせる。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） 【態度】進んで，目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし，学習の見通しをもって，クラス全体やグループで話し合おうとしている。		漢字
	6 （書く1）	「便利」ということ	□「便利」とはどういうことかを考えながら読み，自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ	2 3・4	○単元名とリード文を読み，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．全文の範読を聞き，興味をもったことを書く。 **考えよう** ２．文章に示されたさまざまな道具や設備から「便利」さについて考えるとともに，それらの例をもとに筆者が伝えようとしていることを話し合う。 （1）p.90に示された三つの道具や設備について，誰にとって「便利」であるか，文章から考え，ノートにまとめる。 （2）筆者が伝えようとしていることを考え，話し合う。	○さまざまな道具や設備から「便利」について考え，身のまわりの「便利」について考えたことをまとめるという単元の流れを確認する。 ○「チャイム」「はさみ」「歩道橋」という三つの道具や設備について考えさせる。⑤段落に書かれている「耳の不自由な人」にとっては「便利」だが，「目の不自由な人」にとっては「不便」であることに注目させる。 ○⑦段落の「便利」の定義は，「便利」について考える際の土台となるため，共通理解を図りたい。 ○⑨段落は「便利」と「不便」について述べられ，⑪段落にはさみが例としてあげられている。写真のはさみはどのような立場の人にとって「便利」なのか。包丁についてもノートにまとめさせる。 ○⑬段落の歩道橋の例は，「便利」と「不便」がわかりやすい。⑮段落をもとに「便利」と「不便」をノートにまとめたあと，「不便」を少なくする二つの改良例と，それによって「便利」に感じる人についてもまとめさせる。 ○どの段落を読めば，その道具や設備について考えられるかを全体で確認し，一人一人がまずノートにまとめ，それをグループや全体で交流させる。 ○筆者が伝えようとしていることがわかる言葉や文に線を引かせる。そのうえで，線を引いた箇所を二人組やグループで意見交流し，全体での話し合いをとおして，一人一人がノートに考えをまとめるようにする。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたこと	経験と結びつけて読む	文／漢字／立場／筆者／段落／説明／言葉／引用／「　」／経験

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
			□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ ☆道徳：本文の読みを通して「便利」について	5・6 7	**深めよう** ３．文章と，自分で感じた「便利」「不便」という経験を結びつけて，改めて「便利」について考える。 （1）「見たこと・聞いたこと・したこと」など，自分の経験から「便利」だと感じた道具や設備を思い浮かべる。 （2）自分が決めた題材について，文章中の言葉や文を引用しながら考える。 （3）「便利」について自分が考えたことを文章で書く。文章中からその題材の「便利」さを裏づける言葉や文を探す。 **広げよう** ４．グループで文章を読み合い，感想を話し合う。 ○学習を振り返る。	○文章に示された道具や設備をもとに，自分の身のまわりを見つめ直させる。 ○さまざまな設備や道具を事前に調べ，児童に提示できるようにしておきたい。p.85にある参考図書などを教室に用意しておくとよい。 ○p.83「ここが大事」を読み，経験と文章を結びつけることの大切さを知らせたい。 ○書こうとする題材が決まったら，その題材が「便利」であることを裏づける言葉や文を文章中から探させる。 ○自分の考えを裏づけるために引用を取り入れることを確かめるようにする。 ○誰にとって便利（不便）なのか，言葉や文を適切に引用できているか，便利について考えたことが伝わるか，などで感想を話し合わせる。	や考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，「便利」について考えたことを文章にまとめようとしている。		
1～2	8 （話す聞く8）	調べてわかったことを発表しよう	◇調べたことについて，写真や図，表やグラフなどを使って説明したり，話の中心に気をつけて聞いたりする。 △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。 ⇒思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ ☆社会科・理科・総合的な学習の時間など：調べたことや観察したことをポスターを使って効果的に発表する。	8 9・10 11・12 13・14 15	○単元名やリード文を読み，資料を効果的に活用して発表する方法について話し合い，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．調べることを決め，資料を集める。 （1）教科書を読んで全体の流れを確認する。 （2）学習計画を立て，テーマやグループを決める。 （3）調べる方法を考える。 （4）テーマにそって調べる。 **組み立てよう** ２．発表の組み立てを考えて，練習する。 ＊声の大きさ，間，強弱などの観点をはっきりさせて練習する。 ＊発表したら助言を行う。 ＊練習後には資料の効果について確認する。 **話そう・聞こう（重点）** ３．資料を使って発表会をする。 （1）発表するときと聞くときの大事なことを確認し，発表会を行う。 **伝え合おう** ４．質問や感想を伝える。 ○学習を振り返る。	○発表会を行い，調べたことについて写真やグラフなどの資料をもとに筋道を立てて説明したり，話の中心に気をつけて聞いたりすることを理解し，学習の流れをつかませる。 ○発表を行うと同時に，質問や意見交換の場が大切であることを確認する。 ○p.94の「学習の進め方」で，学習の流れを確認する。 ○p.95を参考にして「身のまわりの道具や設備を調べて便利だと感じること」という大きなテーマに対して，自分たちはどこに焦点化するのかを決めるために，写真などを持ち寄る。 ○p.96の「発表計画表」を読んで，話す内容，話す人，使う資料，工夫することを確認する。 ○「路面電車」のように具体的に調べることを決め，それに適した調査方法を考える。 ○資料を示しながら発表をするので，資料で見せることと口頭で説明すべきことを区別するよう工夫させる。 ○グループ内の分担を工夫する。 ○グループ内で，練習を聞き合うようにするとよい。 ○発表会は，発表するグループと聞くグループとが交替して，相互に聞き合えるようにする。 ○聞き手は，自分たちの調べたこととも考え合わせて聞く。 ○場の設定や時間配分を工夫し，なるべく多くの回数を行えるようにする。 ○振り返りでは，写真や図・表・グラフなどの資料の効果や，この発表形式のよさを評価することも大切である。 ○資料を効果的に活用して，発表する方法について，日常生活でも行っていけるよう意欲づける。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】積極的に，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫し，見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。	伝わるようにくふうして発表する	発表／図／資料／組み立て／理由／クイズ／インタビュー／間／点字／五十音／濁音／半濁音／清音／発表会／説明／引用／話／文章／出典／インターネット／伝える／聞き手
2	2	点(、)を打つところ	△読点のはたらきを理解して，正しく使い分ける。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ	1	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．「ここではきものを～」「姉がうれしそうに～」の二つの例文を読み，読点のはたらきや読点の必要性について話し合う。	○教材冒頭のふきだしによって，日常の言語生活との関連を意識づける。 ○例示された文を声に出して読むことで，なぜ，読点を打たなければならないのかの問題意識を明確にもたせる。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで句読点のはたらきを理解し，学習課題に沿っ		点（、）を打つところ／読点／文／主語／述語／漢字／「　」／会話文

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
			△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ		２．二つの例文に読点を打ち，意味がどう変わるのか確かめる。 ３．読点の打ち方の原則を理解する。 ４．「点を打つ場所」に気をつけて，p.102・103の設問に取り組む。 ○学習を振り返る。	○読点を入れて読むことで，読点が読みやすさに及ぼす影響を考えさせる。 ○どのように打つべきかの原則を，教科書にそって学習する。 ○適切にくぎって，読みやすい文章を作るようにする。適切にくぎれるかは，文の意味を理解しているかにつながる。 ○文を書くときにも，読む人の立場に立って読点を打つようにする意識をもたせたい。	て，文や文章の中で適切に使おうとしている。		
2	9 （書く9）	六　伝えたいことをはっきりさせて書こう	■様子がわかるように，よりよい表現を選んで書く。						
		自分の成長をふり返って	△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1 2 3・4 5～7 8 9	○「学習の進め方」を読んで学習の流れを知り，見通しをもつ。 ○教科書の作品例を読み，羽田さんが工夫していることを確認する。 ＊題名の工夫 ＊書き出しの工夫 ＊会話文の工夫 ＊構成の工夫「始め」「中」「終わり」 ＊いちばん書きたかったこと等 **決めよう・集めよう** １．自分の成長を感じたできごとを思い出し，書くことを決める。 **組み立てよう** ２．組み立て表を書き，友達と意見を交換する。 ○友達からもらった意見を参考にして，組み立て表を見直し，書く内容を考え直す。 **書こう（重点）** ３．文章を書く。 **読み返そう（重点）** ４．文章を読み返す。 **伝え合おう（重点）** ５．文章を読み合い，感想を伝え合う。 ○友達の作品のよかったところを確認する。 ・クラス全体で確認する。 ・出てきた点について，自分の作品を読み直す。	○教科書を読み，「学習の進め方」を確認し，単元のゴールを明確にする。 ○羽田さんの作品を読み，よいところを読み取る。（様子が詳しく書かれている，いちばん伝えたいことを「中」にもってきて詳しく書いているなど。） ○メモにどんどん書き出して，思い出させる。 ○一人で思いつかない児童には，友達にインタビューさせて書かせるなど，まず口頭で言わせるようにする。 ○組み立て表をもとに交流し，いちばん伝えたいことを一つにしぼるようにする。 ○いちばん伝えたいことが詳しくなるように，友達に質問してもらい，詳しく書けるようにする。 ○中心となる場面が「中」になるようにする。 ○友達の意見を参考に，組み立て表を見直し，もう一度書く内容を整理させる。 ○中心となる場面を「中」にし，詳しく書かせる。 ○会話文や心内語を多く入れるなどの工夫を促す。 ○段落意識をもたせ，場面ごとに段落を変えるようにする。 ○中心となる場面が詳しいか，文字のまちがいや主語・述語のねじれはないか，気持ちを表す言葉はその言葉で適切か，段落分けはできているか，などを確認する。 ○内容面で感想を伝えるだけでなく，書き方の工夫も伝えるようにする。 ○心の動いた場面が詳しく書けたかどうか振り返らせる。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） ◎【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に，書こうとしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い，学習の見通しをもって，よりよい表現を選んで文章	自分をふり返って書く	場面／様子／文章／漢字／組み立て表／始め／意見／中／終わり／気持ち／会話文／説明／読み返す／伝える／段落／主語／述語

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	1 （書く1）	雪	△「雪」を扱った言語表現を集める。 △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。　⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1	1．教科書の文章から「雪」を使った表現や歌を知り，声に出して読む。 2．「雪」に関する歌や言葉を辞典などを使って調べて，ノートに書く。	○「雪月花」の意味を知り，上巻で学習した「月」の言葉や表現を思い出し，「雪」や「花」について言葉や表現を集める意欲をもたせる。 ○「雪」を使用した言語表現の多様さに気づかせる。また，和歌や唱歌を音読して，文語のリズムに親しませる。 ○どのような種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。 ○発展として，「花」の表現研究を家庭学習などとして促すことも考えられる。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで，長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし，学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。		「雪」に関わる言葉／言葉／詩／漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	2	漢字の広場　⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け	△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって，漢字を読んだり書いたりする。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「はやい」「なく」「かわる」を例に，場面の様子や意味をもとに同じ訓の漢字の使い分けについて考える。 ２．「以外・意外」「機械・機会」を例に，同じ音の漢字の使い分けについて，熟語の意味をもとに考え，話し合う。 ３．同じ訓の言葉（異字同訓）や同じ音の熟語（同音異義語）のそれぞれの意味を国語辞典で調べて，短文を作り，漢字の使い分けについて話し合う。	○同じ読み方の漢字の使い分けについて理解し，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○三上『漢字の広場②　漢字の音と訓』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 ○例文を音読し，意味を考えるようにする。 ○同訓や同音の語の中には「着る」と「切る」，「意外」と「以外」のようにアクセントによって弁別できるものがある。同じ読み方の部分に注意しながら用例の文を声に出して読み，言葉の響きへの関心を高めるようにしたい。 ○組みごとのそれぞれの漢字のもつ意味と使い方を正しく理解できるようにすることが大切である。国語辞典を利用し，それぞれの漢字の意味や使い方（熟語など），用例（文など）を調べて比較し，整理できるようにしたい。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し，学習課題に沿って，文や文章の中で正しく使おうとしている。		同じ読み方の漢字／言葉／漢字／場面／音／訓／文／国語辞典／熟語／訓読み／意見／話題
				2	４．同じ読み方の漢字の使い分けについては，別の言葉に言いかえて考えるという方法を知る。 ５．別の言葉に言いかえる方法を使い，Ｐ113下段の設問を解き，それぞれの言葉の違いを国語辞典で確認する。 ６．異字同訓や同音異義語を使った短文を作り，それぞれの意味の違いを話し合う。	○「熟語をもとの単語に分解し，意味を類推する」という『漢字の広場⑤　熟語のでき方』での学習を生かすようにする。 ○あてはまらないほうの言葉を使った文を作り，意味の違いを比べるとよい。 （例）全員がいっしょに席に着く。 　　ほこりが，みんなの席につく。 ○同じ読み方であっても漢字や熟語の意味が全く異なることがあるおもしろさに気づかせることが大事である。言葉の使い方の感覚にいっそうの関心をもつことができるようにしたい。			
	2 （書く2）	漢字の広場　⑥ 三年生で学んだ漢字　⑥	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	７．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ８．３年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ９．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○漢字の使い方や表記などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○p.114の絵を拡大して黒板に貼っておくと，指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある３年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる事柄をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○発問例「絵の中の子は，それぞれ何の話が書かれてる図書を読んでいるのでしょう。」 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○絵に描かれている図書の中から，中心に述べたいお話を一つにしぼり，文章の構成を考えるようはたらきかける。 ○条件をつけて文や文章を書くように促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると，言葉を適切に使っているかどうかがわかりやすくなる。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ○同じ読み方の漢字の使い分けについて正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，お話の一場面を書こうとしている。		漢字／言葉／お話／場面／昔話

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
3	8 （書く2）	七　場面のうつり変わりと，登場人物の気持ちの変化を読もう	□登場人物の考え方の違いや，その移り変わりを考えながら読み，気に入った場面を物語のように書きかえる。						
		木竜うるし（人形げき）	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。 ⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，友達と互いに理解し，信頼し，助け合うことについての考え方を深める。	1 2 3・4 5・6 7・8	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．全文の範読を聞き，あらすじを確かめる。 ・登場人物，できごとを確認する。 ・登場人物について思ったことを書く。 (1)「一」の場面「深いふちのそば」を読み，権八と藤六の性格について話し合う。 (2) グループで役を決めて「一」の場面を音読す **考えよう** ２．『木竜うるし』を読んで，権八の気持ちの移り変わりを捉える。 ○権八の考えや気持ちは少しずつ変化していく。それがわかるせりふと，変わったわけを，ノートにまとめる。 **深めよう** ３．権八の気持ちが変わったのはなぜかを話し合い，考えをノートなどにまとめて書く。 **広げよう** ４．気に入った場面を選び，物語の文章に書きかえる。物語の文章と脚本との違いを話し合う。 ○学習を振り返る。	○初発の感想をもとに，登場人物の性格や考え方の違いを読むという学習の課題を自覚する。 ○「ここが大事」などをもとに，脚本はせりふと「ト書き」からできていることを知る。 ○「一」の場面のせりふを手がかりに，権八と藤六の性格の違いを読む。また，それが表れるように工夫して音読する。 ○作品全体を見渡して読み，おおまかなできごとの流れをつかむ。 ○権八は，起伏する感情や意思が大きく表れている箇所に線を引いていけば考えやすい。 ○権八は自分の欲の深さも多少は自覚している。そこから，気持ちが変わった訳を考えるようにする。また，藤六との関わりも重ねて考えるようにする。 ○権八は，冒頭と結末とで言動や気持ちに大きな変化が見られる。権八の気持ちが変化し始めたのはどこからなのか，どのように変わっていったのかを個々のせりふをとおして考えさせる。 ○「変わったわけ」については，前後の状況を踏まえながら，根拠をはっきりさせて想像を膨らませるようにする。 ○p.140の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。 ○この脚本では，詳しい説明，登場人物の気持ちの表現はない。散文化するときは，詳しい場面・状況や気持ちの変化などは，地の文として描かれる。したがって，せりふを基本にしつつ，ト書きを参考に想像を膨らませながら地の文を書いていく。 ○各人物の動き（手・足）や周囲の明暗などにも目を向けさせたい。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ） 【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，脚本を物語のように書きかえようとしている。	きゃくほんのつくり	文／気持ち／せりふ／場面／性格／音読／見出し／あらすじ／訳／発表／脚本／ト書き／物語／文章／地の文／会話文／言葉／登場人物／説明する／理由

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
3	2 （話す聞く1，書く1）	国語の学習　これまで　これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア ■記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1

令和５年度版『ひろがる言葉 小学国語　五下』年間指導計画・評価計画（案）

教育出版　2020年5月

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第５学年及び第６学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。
(3) 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	－	五年生で学ぶこと							
10 ～ 11	10 （書く5）	一　多様な情報を読み，根拠となる資料にもとづいて，考えを深めよう	■□多様な文章や資料を比べながら読み，自分の考えを深め，その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書く。						
10 ～ 11		世界遺産　白神山地からの提言―意見文を書こう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒B思判表(1)エ □目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。　⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表C(1)オ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。　⇒思判表C(2)ア	1 2・3 4～6 7・8 9・10	○単元名とリード文を読み，自然保護に対する自分の意見を意見文にまとめることについて話し合い，学習の見通しをもつ。 **白神山地について知る。** １．「ブナの森が支える豊かな自然」を読み，白神山地が世界遺産に登録された経緯や，白神山地がつくり出す計り知れない恵みについて知る。 **資料を読み，白神山地の課題を知る。** ２．白神山地の課題を知り，自分の考えをまとめる。 (1) 資料１～７を読み，自然保護にはさまざまな考え方があることを理解する。 (2) 斎藤さんの文章や資料１～７をもとに，それぞれの資料からわかることをノートに書き出す。 (3) 資料からわかったことについて，自分の考えとその根拠（もとになる資料）を書く。 **グループで考えを交流し，自分の考えを深める。** ３．考えを出し合い，グループで意見を交流することで，自分の考えを深める。 **自分の考えをまとめ，意見文を書く。** ４．メモをもとに意見文を書く。	○いろいろな資料を読み比べて自分の考えを深め，根拠を明確にして意見文を書くための学習の流れを確認する。 ○どのように意見文を書くのかをイメージし，学習の見通しをもつ。 ○意見文を読んでもらう相手を明確にする。 ○本単元は，読む活動と書く活動が融合している。p.5のリード文や学習の進め方をもとに，どのように活動を進めるのか児童が理解できるようにする。 ○白神山地以外のテーマで学習する場合は，５月に扱った「情報ノート」が続いているようであれば，学習資料として見返させる。自分の「情報ノート」を活用する機会をもたせたい。 ○「ブナの森が支える豊かな自然」を読み，白神山地の自然や保護の仕方をおおまかに理解させる。 ○「白神山地の自然保護」を読み，核心地域と緩衝地域のそれぞれの役割や考え方をおさえる。また，入山届出書や新聞記事，インタビューなど，多様な資料からさまざまな考え方にふれさせたい。 ○それぞれの資料からわかることをノートに箇条書きにする程度でよい。 ○白神山地や貴重な世界遺産を守っていくために，自分にどんなことができるかという視点に立って考え，それを支える根拠を資料から見つけ出す。 ○前時でノートにまとめた自分の考えをメモに書いて出し合い，読み合う。 ○それぞれの考えや取り上げている根拠について，質問し合ったり，考えを述べ合ったりする。 ○友達の考えで参考にしたいところや，自分の考えが変化したところ，新たに考えたことなどを，メモに書き足す。 ○重要なことは，自然保護に対する自分の立場をどちらかに決めることではなく，多様な考え方があることを知り，そのうえで自分が今後どう行動していきたいかを考えることである。目的を授業の中で再確認することもよいだろう。 ○交流後，改めて自分の考えを見直す時間をとる。 ○自分の考えのもととなった文や言葉に線を引かせておくと，意見文を書くときに引用しやすくなる。 ○考えと根拠を記すことに不慣れな児童がいると思われるので，p.18・19の例を参考にさせる。 ○p.18・19の文例やp.19「必要な情報を引用する」で，引用の仕方を確かめる。	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に多様な文章や資料を比べながら読み，学習課題に沿って自分の考えを深め，その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書こうとしている。	意見文を書く	意見文／漢字／課題／資料／文章／根拠／新聞／インタビュー／お話／メモ／質問／役割／気持ち／引用する／始め／中／理由／言葉／意見／主張／繰り返し／終わり／事例／「　」／出典／比べる

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	4 （書く 1）	「古典」を楽しむ	△昔から読み継がれている物語を読み，感想を書く。 △親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章を音読するなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。　⇒知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。　⇒◎知技(3)イ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒知技(3)ウ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：昔の人の思いや考え方にふれ，今と昔の違いや共通点について調べたり，関心を高めたりする。	1 2 3 4	○単元とびらを読み，学習の見通しをもつ。 １．『竹取物語』『平家物語』『伊曽保物語』にふれて，その文章の一部を音読する。 ２．日本の伝統芸能にふれ，演劇や絵本，マンガや映画など，多様な表現に生きている古典を集めたり読んだりして人々との関わりについて知る。 3「古典」にふれた感想を文章にまとめる。	○昔から読みつがれている物語を「古典」ということ，今なお読まれている作品を読んで感想を書くことをつかませる。 ○それぞれの物語の概略と引用された原文の内容の大体を知り，古文を音読してみる。教師の範読にしたがって，学習者に復読させるとよい。 ○物語に寄せる，それぞれの時代の人々のものの見方や感じ方などを考えながら読むようにする。 ○ここで取り上げられている物語について，知っていることがあれば発表させてもよい。 ○ p.26・27を読み，能や狂言，人形浄瑠璃，歌舞伎などによって，物語を劇化し，人々が楽しんでいたことをおさえたい。さらに，現代でも古典に材を取った多様な作品があることに気付かせ，情報を集めたり，紹介し合ったりさせたい。 ○巻末付録の『附子』を読み合ってもよい。 ○「日本昔話」や子ども向けに現代語で書かれた古典，マンガや映画などでも古典をもとにした作品があることを知り，簡単な感想文を書かせる。「おもしろいと」と感じたところや，登場人物の気持ちにおいて共感できる所，情景の描写の仕方などに着目して，感想を書くことを押さえる。	◎【知技】古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して，昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） ◎【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで昔から読み継がれている物語を読み，学習の見通しをもって「古典」を読んだ感想をまとめようとしている。		古典／物語／お話／漢字／作者／伝える／昔話／登場人物／気持ち
11	2	かなづかいで気をつけること	△仮名遣いのきまりを理解して，文を正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒◎知技(1)ウ	1 2	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．p.28・29 の例文を読み，どちらの文字を入れたらよいか話し合う。 ２．仮名遣いのきまりを理解する。 ３．仮名遣いのきまりに気をつけて，問題を解く。 ４．日常の言語生活における仮名遣いを振り返る。 ○学習したことを振り返る。	○教材冒頭のフキダシによって，日常の言語生活との関連を意識づける。 ○例文から，仮名遣いは，全て発音どおりに書けばよいということではないことに気づかせ，仮名遣いのきまりを学ぶことの必要性を感じさせる。 ○教材にそって，仮名遣いのきまりを確認していくようにさせる。 ○仮名遣いの原則の例外の用例を知り，習熟させるようにする。 ○仮名遣いのきまりの分類を思いうかべながら，どういう理由でその仮名遣いになるのか，発表しながら答えさせると理解がより深まる。 ○日頃，書きまちがいなどをしている語句などについて話し合い，正しい書き方を意識づける。	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けているとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に仮名遣いのきまりを理解し，学習課題に沿って文を正しく書こうとしている。		仮名遣い／言葉／仮名／日本語／漢字／平仮名

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	1	漢字の広場　④ 漢字の成り立ち	△漢字の成り立ちについて関心を深める。 △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．漢字の四つの成り立ちの種類について概観する。 ２．象形文字について理解し，設問に答えたりして，ノートにまとめる。 ３．指事文字について理解し，設問に答えたりして，ノートにまとめる。 ４．会意文字について理解し，設問に答えたりして，ノートにまとめる。 ５．形声文字について理解し，ノートにまとめる。 ６．漢字辞典を利用して，形声文字の意味を表す部分(部首)と，音を表す部分を確認する。	○漢字の成り立ちについて理解するという学習課題を確かめ，漢字の使い方などを理解させて，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「字形」のみに目が向きがちとなるが，取り上げられた文字について，熟語を集め，それらを参考にしながら，「意味」や「字音」にも着目できるようにしたい。 ○単体の漢字である象形文字と指事文字については，漢字のでき方がどのように発想されているかについてふれることを通して考える程度でよい。 ○辞典によっては，成り立ちの解説で，象形・指事などの用語を使っていない場合がある。また，辞典によっては，成り立ちの解説が異なる場合があるので注意する。研究の進展によって学説が分かれるようになったためである。 ○象形文字とは何かについて具体的に解説している。「手」を例に，どのような発想で作られてきたのかを考えるようにしたい。 ○象形文字には，その文字がそのまま部首になっているものが多い。 ○指事文字とは何かについて具体的に解説している。「本」を例に，どのような発想で作られてきたのかを考えるようにしたい。 ○「人＋立→位」という造字の方法を理解するとともに，「位→人＋立」と漢字を分解して，意味を考える解字の習慣が身につくようにしたい。 ○形声文字の数は，漢字の80％を占めるほど多い。造字の方法の理解とともに，解字の習慣を身につけることによって，未習の漢字の意味や読み方を推測できる可能性が広がることが理解できるようになるとよい。 ○4上p.70で学んだことを想起できるようにする。 ○一つ一つの漢字の字源を明らかにし，覚えることをねらいとしていない。複数の構成要素を組み合わせることによって新しい漢字をつくってきた漢字の特性に興味・関心が向くようにしたい。 ○「音を表す部分」が共通する漢字を，関連づけて整理できるとよい。 [例]「反」(ハン)→「板」「坂」「飯」	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習の見通しをもって漢字の成り立ちについて関心を深め，漢字事典で調べようとしている。		漢字の成り立ち／指事文字／象形文字／漢字／会意文字／形声文字／組み合わせた漢字／漢字辞典
11	1 （書く1）	漢字の広場　④ 四年生で学んだ漢字　④	△絵を見て想像したことをもとに，４年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。　⇒◎思判表B(1)オ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(2)ア	2	７．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ８．４年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ９．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵に描かれたことと，言葉からわかるこの地域の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○条件をつけて文を書くよう促すと，記述の仕方に工夫が見られるようになる。 （例）この地域の様子を紹介する文を書く。 絵の中の言葉を二つ以上使って書く。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○初めに書いた文と推敲した後の文を比べ，書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。 ○漢字の成り立ちを正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において，文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11 ～ 12	6 （書く1）	二　表現の効果を考えながら，登場人物の関わりをとらえて読もう	□表現の工夫や登場人物の関わりをとおして，『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。						
		雪わたり	△思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。　⇒知技(1)ケ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)カ □登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。　⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。　⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。　⇒◎思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，自分と異なる意見や立場を大切にするとともに，自然の偉大さを知り，自然環境についての考え方を深める。	1 2 3 4 5 6	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．物語の設定や出来事，変容について読む。 （1）　四郎とかん子がきつねに会えるのはどんな時なのか確かめる。 （2）　森の中で何が起きたのか確かめる。 （3）　物語の最初と最後の場面で変化したことを確かめる。 **考えよう** ２．やま場を探す。表現の工夫やその効果について紹介し合う。 （1）　四郎とかん子のきつねに対する考え方が変わった「やま場」の場面をさがす。 （2）　表現のくふうについて，思ったことや，どのような効果があるか考えたことを，紹介し合う。 ＊リズムのある表現 ＊たとえを使った情景描写 **深めよう** ３．物語を読んで，人間ときつねの関係について考えたことをノートにメモし，話し合う。 広げよう ４．『雪わたり』の魅力を発表し合う。 （1）「雪わたり」の魅力を紹介する文章を書く。 （2）他の人の紹介文を読んで，着目点や表現のよさを見つける。 ○学習を振り返る。	○表現の工夫や登場人物の関わりを考えながら読み，物語の魅力を紹介するという単元の見通しをもたせる。 ○四郎とかん子がきつねに会えた回数や場面を確認し，会えた場面の共通点をとらえられるようにする。 ○きつねとの出会いや，きつねに言われたこと，四郎やかん子の行動から出来事を確認できるようにする。 ○四郎とかん子から見たきつね，きつねから見た四郎とかん子について考え，変化したことを確かめられるようにする。 ○５上「大造じいさんとがん」で学習した「やま場」（物語の中で，中心人物の心情や行動が大きく変わるところ）を確認するとよい。教科書下段の例にあるように，四郎とかん子のきつねへの見方がどのように変わっていったのか考えられるようにする。 ○「ここが大事」にあるように，「表現のくふう」がこの物語の大きな特徴である。 ○「リズムのある表現」……教科書に取り上げてあるものの他にも，歌であったり，呼びかけであったり多くの箇所がある。「五・七調」が基本となっており，この物語全体のリズムを形づくっている。声に出して読み，リズムを感じさせたい。 ○「たとえを使った情景びょうしゃ」……教科書で取り上げた例にもあるように，野原や林の中など，直喩（「たとえば……のよう」「あたかも……みたい」など）と暗喩（「……みたい」を使わずに，「あい色の木のかげが一面あみになって」のように例える）をふんだんに使って情景を描写している。それらが，「冬」を象徴するような冷たく鋭い透明感の中に，「あたたかさ」を感じさせているようである。 ○ここでいう「魅力」とは，印象に残ったなどのような意味である。 ○三つの視点から考えることができる。 「表現の特徴」や「対象への見方・考え方の変容」，「人物の行動，あるいは，人物の相互交流」などの視点から考えることができる。 教科書の例は，前半は，「表現の特徴」視点で考えている。後半は，「対象（きつね）への見方・考え方の変容」について書かれている。 ○発表にあたっては，「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など，長所を中心に聞き合うようにする。 ○ p.62の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。	◎【知技】比喩などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において，人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで物語の表現の工夫や登場人物の関わりを読み，学習の見通しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書こうとしている。	表現のくふうを読む	文／漢字／物語／詩／場面／登場人物／会話／やま場／たとえ／情景描写／メモ／文章／たとえを用いた表現／言葉／主張

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	5 （書く 2）	「図書すいせん会」をしよう	□印象に残った作品を取り上げ、推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合う。 △日常的に読書に親しみ，読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。　⇒◎知技 (3)オ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ ■引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)カ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。　⇒◎思判表C(1)カ ■事実や経験を基に，感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。　⇒思判表B(2)ウ □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し，複数の本や新聞などを活用して，調べたり考えたりしたことを報告する活動。　⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して，読書の幅を広げ合う。	1

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	3 （話す聞く1）	言葉で伝える，心を伝える	△相手の立場を意識しながら，自分の気持ちを言葉で伝える。 △言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ◇話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えること。　⇒思判表A(1)イ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。　⇒◎思判表A(1)オ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。　⇒思判表A(2)ウ	1 2 3	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．p.68・69の会話文を読み，二人のやりとりの背景を理解する。 ２．二人のやりとりの問題点を話し合って考える。 ３．二人の仲直りの仕方を考えて発表する。 ４．p.70の仲直りの会話文を読み，どういうところを大切にして仲直りしたのか，「相手の立場に立つ」「くわしく伝える」「きちんと確認する」というポイントを確認する。 ５．その他にも問題点があれば話し合う。 ６．p.71を読み，二人のやりとりの状況を整理し，理解する。 ７．二人のやりとりに対し，第三者の立場から客観的にみて，助言を考える。 ８．どのように伝え合えばよかったのかを考えて二人への助言を発表し，よりよいものを考える。 ○学習したことを振り返る。	○二人の状況を「昨日の会話」から読みとらせるようにする。 ○二人の会話から，待ち合わせをしたときの事実を整理させる。 ○事実をもとに，どのようなずれが生じたのかを確認させ，問題点を導き出させるようにする。 ○問題点となった「相手の立場に立って」会話していたか，「くわしく伝えようとしていたか」「確かめよう」としていたかがどこの箇所なのか，p.69の会話に戻っておさえさせると理解がより深まる。 ○二人の状況は，初めにある状況確認の文に注目させることが必要であることを感じさせる。 ○二人の立場の違いを理解したうえで，会話文の内容を読み取らせるようにする。 ○前の活動を受け，どちらかの立場で改善点を導くのではなく，第三者の立場で客観的に物事を見て，助言を考えさせるようにする。	◎【知技】言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａオ） 【態度】積極的に相手の立場を意識し，今までの学習を生かして相手の立場を意識しながら，自分の気持ちを言葉で伝えようとしている。		会話／話し合う／立場／伝える
1	1	詩を味わおう はたはたのうた 雪	□さまざまな昔の作品を読みながら，詩の世界を味わう。 △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。　⇒知技(1)ケ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。　⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。　⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。　⇒思判表C(1)カ □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ	1	１．『はたはたのうた』 （1）全編を音読して「はたはた」という魚のイメージを話し合う。 （2）題名の「うた」に着目し，「はたはた」の繰り返しからどんな思いの「うた」であるかを想像し合う。 （3）「歌」の思いが表れるよう，工夫して音読する。 ２．『雪』 （1）㈡行詩「雪」を読み，描かれた情景について話し合う。 （2）話し合いで出てきた着眼点について想像を広げ，作品の世界を味わう。 （3）場景が伝わるように声量や間，声の調子を工夫して音読する。	○「はたはた」がどんな魚かを，「すがた」「とれる日のしるし」「ごちそう」「母」などの言葉からイメージさせる。 ○「はたはた」への思いを「うた」と題して表した作者の思いを想像させる。 ○「はたはた」をさまざまな面から照らして歌い上げた思いが繰り返しに表れるように読ませたい。 ○作品を繰り返し味わって読み，浮かんでくる情景について話し合わせ，「描かれている場所の様子」「今の時間帯」「雪の降り方」「太郎や次郎の年齢や関係」など，より想像したい着眼点を絞り込みたい。 ○都会か村か，夕方か深夜かなど，着眼点にそって想像を深め，情景から広がる世界を味わわせるようにする。 ○詩の味わいが人に伝わるように工夫して音読する。	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） ◎【思判表】「読むこと」において，人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで昔の作品を読み，学習の見通しをもって詩の世界を味わおうとしている。		詩／繰り返し 黙読／情景

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	6 （書く6）	三　事実と意見を結びつけて書こう	■身のまわりの生活から課題を見つけ，事実と意見を結びつけて提案文を書く。						
		提案文を書こう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒◎知技(1)カ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。　⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。　⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア	1 2 3 4・5 6	○「学習の進め方」を読んで，活動のイメージを具体的につかみ，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．取材して，提案する事柄を決める。 **組み立てよう** ２．提案文の構成を考える。 **書こう・読み返そう（重点）** ３・４．読む人に提案したいことが伝わるように書き，推敲する。 **伝え合おう（重点）** ５．提案文を読んだ感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	○提案文を読んでもらう相手や，書く目的を明確にし，児童の書くことへの意欲を高める。 ○p.74「身のまわりの生活から，課題を見つけるには」やp.79「提案することがらの案」を参考に，児童に課題意識をもたせる。誰に，もしくはどんなことを伝えたいかを明確にすることで，題材とする場（学校生活・日常生活など）も絞られてくるだろう。 ○「課題」と「改善」の視点に分けて，書きたいことを整理してもよい。付箋を使って整理させる際には，p.75上段を参考にしたい。 ○p.75下段の構成表を参考に，提案文の内容や段落構成を考える。「始め・中・終わり」とあわせて段落構成も考えることで，伝わりやすい文章になることをおさえる。 ○身近な体験や経験を入れて書くと，自分の考えが伝わりやすくなることをおさえる。 ○実際にインタビューなどをして事実に基づいて書かせたり，資料を引用したりするなど，今まで学習してきたことを活用してもよい。 ○前時で作った構成表を見ながら，文章全体の構成を考えて書く。p.76・77の文例と注意点を見て，「話題提示」や「提案理由」などを入れることで，読み手にどんな印象を与えるかを確認させてもよい。 ○クラス内で交流するだけでなく，他クラスや全校生徒に読んでもらうなど，書いてよかったという実感を児童がもてるようにする。 ○自分の意見とその根拠となる事実を関連させながら提案文が書けているかを，よく振り返らせる。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，文章の構成や展開，文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） ◎【思判表】「書くこと」において，文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂカ） 【態度】積極的に身のまわりの生活から課題を見つけ，学習課題に沿って事実と意見を結びつけて提案文を書こうとしている。	提案文を書く	提案文／事実／意見／文章／取材／課題／インタビュー／漢字／構成／始め／理由／中／終わり／話題提示／推敲／司書／かぎかっこ／詩／伝わる／裏づけ
1	2	和語・漢語・外来語	△和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し，それぞれから受ける印象のちがいについて考えることができる。 △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	1 2	○日本語には和語・漢語・外来語があることを知り，学習活動に対する見通しをもつ。 １．和語・漢語の由来と特質について理解する。 ２．外来語の由来の基本について理解する。 ３．外来語が，諸外国の文化の影響を受けて成り立っていることを理解する。 ４．和語・漢語・外来語から受ける印象のちがいや使い方の違いなどについて話し合う。 ○学習したことを振り返る。	○教材冒頭部を読み，二つの文の違いを指摘させ，和語と漢語から受ける印象が異なることに気づき，なぜそのようなことになっているのかを考えようという意欲をもたせる。 ○p.80・81を読み，和語と漢語の由来と特徴をそれぞれノートにまとめさせる。 ○p.81を読み，外来語の由来をノートにまとめさせる。 ○p.81下段の設問に取り組ませ，国語辞典を用いて外来語の出自を調べさせる。 ○p.82を読み，外来語の由来と特徴をノートにまとめさせる。 ○p.82下段の設問に取り組ませ，語感や使い方の違いについてグループで話し合わせる。 ○日常生活の中で気づいた外来語によく似た意味で使われる和語や漢語をあげ，それぞれの感じ方や使い方の違いを話し合い，その表記を使うよさについても意識させる。 ○和語・漢語・外来語はそれぞれ由来や特徴が異なっているので，適切に使い分けることが大切であることを理解させる。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】積極的に和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し，今までの学習を生かしてそれぞれから受ける印象のちがいについて考えようとしている。		外来語／漢語／大和言葉／和語／文／言葉／訓読み／漢字／音読み／日本語／片仮名／平仮名

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	1	漢字の広場　⑤ 同じ音の漢字	△同音の漢字，同音異義語について理解する。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「強力」と「協力」が，それぞれどんな意味を表しているか，考える。 ２．同じ音の言葉である「関心・感心」などの意味を国語辞典で調べ，文脈にふさわしい熟語をあてはめたらよいか，話し合う。 ３．意味や使い方を漢字辞典で確かめて，「氏名」や「指名」などの言葉を使って文を作る。 ４．p.85の下段の設問をノートに書き，上の欄内の漢字の意味や使い方を漢字辞典で調べ，それぞれふさわしい漢字をあてはめる。	○同じ音の漢字について理解するという学習課題を確かめ，漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○二つの文を声に出して読み，文の意味を考える。 ○二つの語の意味を推測する。 [例]「強力」（強い→力，力強い） 「協力」（合わせる←力を） ○「強力」と「協力」のそれぞれの意味と，「強」「協」の意味の違いが見てわかる構造的な板書に努める。 ○どちらの熟語を使うことがふさわしいかについて，判断のよりどころとなるものを話し合う。 ○同音異義語の使い分けには，「文脈に合った熟語を選ぶこと」「熟語の意味を考えて選ぶこと」が必要であることをおさえたい。そのうえで国語辞典で意味を調べるようにする。 ○同じ読み方の漢字について，それぞれの意味が似ているか，大きく変わっているかを確認する。 ○作った文が，それぞれの言葉の意味に合った使い方をしているかを互いに指摘し合うようにする。 ○同じ音の漢字の使い分けは，文脈から，それにふさわしい漢字を選ぶようにすることを意識できるようにしたい。 ○漢字辞典で一つ一つの漢字の本来の意味を確認することが必要となる。 ○p.85の下段の設問で，上の欄内に掲げる漢字は，すべて形声文字である。「音を表す部分」が共通するので，同音となったり，字形も意味も似かよったりして，互いにまぎらわしい。そこで，それぞれの部分に着目し，区別することができるようにしたい。 ○三つの例題を一度に解くのではなく，一組みずつ，漢字一字一字の意味を確かめながら進める。その際，共通する部分の意味だけでなく，異なる部分（部首）の意味の違いと熟語のつながりに着目できるようにする。	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けているとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に同音の漢字，同音異義語について理解し，学習課題に沿って同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。		同じ音の漢字／言葉／国語辞典／漢字／漢字辞典／文／文章
1	1 （書く1）	漢字の広場　⑤ 四年生で学んだ漢字　⑤	△絵を見て想像したことをもとに，４年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。　⇒◎思判表B(1)イ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア	2	５．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ６．４年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ７．作った文を互いに発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵の中にある４年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる病院の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように伝えたいこと，知らせたいことを明確にして書くよう働きかける。 ○互いのよいところを発表し合うとよい。 ○同じ音の漢字を正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において，筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	10 （話す聞く5，書く1）	四　「まんがの方法」とその効果について，自分の考えをもとう	□◇事例と解説を合わせて文章を読むことで理解を深め、自分の考えを資料の示し方を工夫して効果的に発表する。						
2	5 （書く1）	まんがの方法	□文章を読んでまんがの表現方法やおもしろさを理解し，まんがに対する自らの考えの変化を文章に表す。 △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒◎知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ □事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。　⇒思判表C(1)ア □目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。　⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。　⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。　⇒思判表C(2)ア	1 2・3 4 5	○単元名とリード文を読み，「まんがの方法」について話し合い，資料を有効に活用した発表を行うという学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．文章で紹介されたさまざまな「まんがの方法」と、その効果を読み取る。 （1）まんがのおもしろさのひみつについて，考える。 （2）まんが，絵本，物語を比べて，まんがの特徴が何かを話し合う。 **考えよう** ２．文章で紹介されているさまざまな「まんがの方法」，書かれている段落や効果などをノートにまとめる。 **深めよう** ３．「まんがの方法」を紹介する，筆者の手順や表現の特徴について話し合う。 **広げよう** ４．まんがに対する考えを，『まんがの方法』を読む前と比べ，その変化を文章に表す。 （1）p.99 に示された三つの構成で文章を書く。 （2）書いた文章を友達と読み合い，『まんがの方法』を読む前と読んだ後の考えの変化や，まんがについて気づいたことなどを交流する。 ○学習を振り返る。	○教材文を読み，さまざまな「まんがの方法」を理解することで，まんがに対する考えがどのように変化したかを文章に表すという流れを確認する。 ○「まんがの方法」がわかりやすいまんがを用意しておき，「まんがの方法」を確かめたり，新たに見つけたりする目的で読む機会を与えることも考えられる。 ○第3段落の「まんがに特有の，共通した表現方法」を「まんがの方法」と呼ぶと書かれている定義をおさえる。具体的には，以下のものである。 　コマ・フキダシ・手書きの文字・人物のえがき方（表情）・物語の進行の仕方・背景・ナレーターの言葉 ○「まんがの方法」の「効果」と判断しにくい表現もある。その「まんがの方法」の「よさ」「特長」などと置き換えてもよい。 ○まず，どんな「まんがの方法」が紹介されているのかをノートにまとめる。それを確認し，効果が書かれている文に線を引かせ，一人一人が箇条書きにしたうえで，全体で確認する。 ○ p.100 の「言葉」の設問には，文章中で多く使われている符号（「　」）のはたらきが示されている。それぞれの「まんがの方法」を確かめる際，出てきた符号については適宜，はたらきを考えさせる。 ○「みなさんも」という読者に語りかける技法はこの文章の特徴のひとつなので，p.99 の下段をもとに，児童に探させたい。 ○ p.99 の下段をもとに，まずは一人一人の児童が手順や表現の特徴を見つける時間をとり，その後，グループや全体で話し合うようにする。 ○ p.99 の下段の文例は，それぞれ設問の①～③に対応している。「読む前→気づいたこと→新たな考え」と順を追って書かせるとよい。 ○②では，文章を引用するなどして気づいたことを書かせる。紹介された「まんがの方法」について気づいたことを書くだけでなく，日本のまんがが世界で親しまれていることや，「まんがの方法」の広がりについて自分の考えを記すよう助言したい。 ○考えがどのように変化したか，そのきっかけとなった気づきはどのようなことかなど，視点を明確にして読み合い，交流するようにする。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し，文章の中で使っているとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにしている。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】粘り強くまんがの表現方法やおもしろさを理解し，学習の見通しをもってまんがに対する自らの考えの変化を文章に表そうとしている。	絵で文をおぎなって読む	まんが／文／漢字／物語／場面／登場人物／せりふ／言葉／ナレーター／筆者／段落／話題／事実／説明的文章／役割／情報

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	5 （話す聞く5）	ひみつを調べて発表しよう	◇資料を生かした構成を考えて，効果的に発表する。 △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒知技(1)カ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。　⇒知技(1)キ △情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ	6 7・8	○不思議だと思うことからテーマを選び，調べて発表するという学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** ５．テーマを決め，伝えたいことの中心を考える。 (1)テーマと発表方法を決める。 (2)　発表の中心になる柱を決める。 (3)　内容にそった資料を集める。 (4) 柱をもとに発表の構成を考える。	○自分たちが調べたことを資料や見せ方などを工夫することによって，効果的に発表することを理解させ，その発表方法を意識づけ，自分たちもその方法で発表していくように意欲づける。 ○伝えたいことを「～のひみつ」とすることで，それを解明するように聞き手に根拠を示していくことになる。 ○テーマを決める際に，４月に学習した「情報ノート」を活用できるなら，参考資料として持ち寄らせる。自分の「情報ノート」を活用する機会を作りたい。 ○「柱」という言い方で発表の中心をはっきりさせ，それを受けて構成表ができていき，提示資料が決まる。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） 【態度】進んで資料を生かした構成を考えて，今までの学習を生かして効果的に発表しようとしている。	効果的な発表をする	伝える／発表／まんが／情報ノート／漢字／アンケート／賛成／流行語／話し言葉／構成／資料／インターネット／順序／事実／具体例／図／要点／出典／始め／間／聞き手／中／終わり／質問／話し合い／様子／司会／意見／場面／スピーチ／話し方／言葉づかい
			◇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。　⇒A(1)ア ◇話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えること。　⇒◎A(1)イ ◇資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。　⇒◎A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。　⇒A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒A(2)イ ☆社会科・総合的な学習の時間・特別活動：根拠や理由をはっきりさせて，自分の考えを述べる。	9 10	**組み立てよう（重点）** ６．発表の準備をする。 (1)　発表の仕方の工夫について考える。 (2) 発表練習を行い，発表の内容と方法を見直す。 **話そう・聞こう（重点）** ７．発表する。 **ふりかえる・いかす** ８．自分たちの発表を振り返る。	○資料作りとその提示の仕方の検討に，時間を確保するようにしたい。 ○発表するときと聞くときの大事なことを，開始前によく確認する。 ○話し合いでは，自分たちの資料作りや内容を踏まえた意見や感想も出されるとよい。 ○グループごとの振り返りを十分に行い，それぞれ発表して交流するようにする。 ○資料を使った効果的な発表の仕方を日常生活の中でも考えて，活用していくように意識づけ，意欲づけを行う。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	1	漢字の広場　⑥ 送りがなのきまり	△送り仮名について理解を深め，正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．二つの文にあるそれぞれの「集」の適切な送り仮名について話し合う。 ２．動詞や様子を表す言葉など，活用のある言葉の送り仮名について知る。 ３．名詞のように活用のない言葉の送り仮名について知る。 ４．p.109下段の設問を解き，送り仮名のきまりについての関心を深める。	○送り仮名のきまりについて理解するという学習課題を確かめ,漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「集まる」の送り仮名が「集る」でも「集つまる」でもない。また「集める」の送り仮名も「集る」でも「集つめる」でもない。そのわけを考えられるようにしたい。 ○格助詞に着目し，「～が集まる」「～を集める」と経験的に理解できるようにするとよい。 ○「読み方を区別する」「意味をはっきりさせる」という送り仮名のはたらきを押さえておく。 ○原則として，形の変わる部分から送り仮名をつけることにしている。 〔例〕あるかない，あるきます，あるいた，あるく，あるけば，あるこう→歩く ○変わる部分の前から送り仮名をつけるものがあることも確認しておく。 〔例〕あたらしかった，あたらしくなる，あたらしい，あたらしければ→新しい ○辞典などを活用して調べる活動を取り入れ，自ら送り仮名の法則性に気づくようにするとともに，正しく使うことの必要性を感じることができるようにしたい。また，迷ったときには，その場で辞典などで確かめる態度も養っておきたい。 ○名詞を表す漢字には，原則として，送り仮名をつけないことにしている。 ○名詞でも送り仮名をつけるものがあることも確認しておく。 ○読みまちがうおそれのある言葉は，最後を送る。 〔例〕「後ろ」「辺り」など ○動詞や様子を表す言葉からできた名詞は，もとの語の送りがなの付け方によって送る。 〔例〕「晴れ」「厚さ」など ○中には習慣に従って，送らないものがあることも理解できるようにする。 〔例〕「番組」「日付」など ○送り仮名のつけ方に迷ったときには，活用を意識したり，派生・対応関係にある仲間の言葉を想起したりして，仲間の言葉の送り仮名に合わせるとよい。これを日常的にできるようこの機会に経験しておきたい。 （例）「つもる」→「つむ」→「つみ木」→「つ・もる（積もる）」	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けているとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習の見通しをもって送り仮名について理解を深め，正しく書こうとしている。		送り仮名／漢字／訓／意味／日付
2	1 （書く1）	漢字の広場　⑥ 四年生で学んだ漢字　⑥	△絵を見て想像したことをもとに，４年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。　⇒◎思判表B(1)オ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたこ	2	５．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ６．４年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ７．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。	○絵に描かれたことと，言葉からわかる学校生活の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○学校生活の様子がはっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○初めに書いた文と推敲した後の文を比べ，書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において，文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
			■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(2)ア		○学習したことを振り返る。	○送り仮名のきまりを正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
3	5 （書く1）	五　みすゞをさがし求めた筆者について，考えをまとめよう	□筆者の心情や考えを読み，自分の考えをまとめる。						
		みすゞさがしの旅――みんなちがって，みんないい	△思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句の関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △文の中での語句や係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒◎知技(1)カ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)カ □事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。　⇒思判表C(1)ア □登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。　⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。　⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒◎C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。　⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ	1 2 3 4 5	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．みすゞをさがし求める筆者の行動から，その時の筆者の心情を考える。 （1）「いつ」「どのようなこと」があったのかに気をつけて，筆者の「みすゞさがしの旅」を表にまとめる。 （2）（1）で作った表に，そのときの筆者の心情を書き加える。 **考えよう** ２．１で作った表をもとに，筆者の心情について，考えたことを話し合う。 **深めよう** ３．筆者は，みすゞの作品の，どのようなところに心をひかれたのか，文章中に取り上げられている作品をもとに話し合う。 **広げよう** ４．みすゞを探し求める筆者について，考えをノートにまとめ，友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○筆者の行動から心情を考えて読み，筆者についての考えをまとめるという単元の見通しをもたせる。 ○「筆者の心情」については，本文でふれていない箇所もあるので，読み手が補足する必要がある。 ○「どのようなこと」については，できごとによっては全文引用ではなく，要約するようにまとめる。教科書の例の「昭和43（1968）年」の項で，「……いくつかのことを聞くことができた。」とあるが，この「いくつか」を具体的にまとめて引用することがあってもよい。 ○経過年がわかるように「いつ」については，必ず西暦を入れるようにする。 ○「ここが大事」にあるように，この作品では，筆者の個人的な経験をもとに，金子みすゞへの筆者の心情や考え方を捉えることができる。 ○取り上げられているみすゞ作品は，全部で３点ある。『露』は手帳の写真ではあるが，内容が読めるので参考にする。 ○『大漁』については，筆者の感想が具体的に語られている。教科書の三人の話し合い例は，それを踏まえてのものである。ただ，この例にとらわれる必要はない。また，p.126 には，みすゞ作品について総括的に筆者の考えが書かれている。ここから，『露』や『わたしと小鳥とすずと』について話し合うこともできる。 ○「みすゞをさがし求める筆者」と限定されていることに注意する必要がある。 ○教科書の例では，女の子は「筆者の情熱」に，右の男の子は「筆者の見方」に，左の男の子は「筆者の行動力」に視点を置いている。構成は，女の子と右の男の子は，まず結論らしきことを述べてから，その理由を述べようとしている。左の男の子は，自分に引きつけながら書こうとしている。 ○「読み合う」ときには，「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など，長所を中心に感想を伝え合うようにする。 ○ p.130 の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，文章の構成や展開，文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的にノンフィクション作品の筆者の心情や考えについて理解し，学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。	ノンフィクション	文／漢字／手紙／文章／情報／気持ち／尋ねる／言葉／推薦／物語／本文／要約／心情／根拠／理由／様子／筆者／詩／ノンフィクション／事実／作者／伝記

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
3	2 （話す聞く1･書く1）	国語の学習　これまで　これから	◇一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，計画的に学習できるようにする。 △文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。　⇒◎思判表A(1)ア ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。　⇒思判表A(2)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア	1 2	1．一年間の国語の学習を振り返り自分が学んできたことを，「五年生で学ぶこと」を見ながら書き出したり話し合ったりする。 2．六年生になったら1．で出し合ったことがどのように広がっていくのか，想像したり希望を出し合ったりする。	○上・下巻の教科書，学習のノート，作成物，プリント類（ポートフォリオ）などから振り返ることができるようにする。「五年生で学ぶこと」や挿し絵や吹き出しを参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 ○心に残っている単元や教材，学習活動，また心に残っている言葉などを具体的にメモし，発表し合う。 ○友達の発表を共感して聞き交流し，学んできたことを共有できるようにする。 ○五年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など，いろいろな観点で話し合うようにする。	【知技】話の構成や展開，話の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） 【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。		言葉／ポスター／資料／推薦／作者

令和５年度版『ひろがる言葉 小学国語　六下』年間指導計画・評価計画（案）

教育出版　2020年5月

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第５学年及び第６学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。
(3) 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	－	六年生で学ぶこと							
10	12 （話す聞く3，書く2）	一　「心の世界」について考え，自分の考えを伝え合おう							
10	1	あなたはどう感じる？	□友達と自分の感じ方の違いについて考える。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表C(1)オ □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。　⇒◎思判表C(2)イ	1	○単元名やリード文を読んで，学習の見通しをもつ。		◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cオ） 【態度】進んで文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，学習課題に沿って友達と自分の感じ方の違いについて考えようとしている。		気持ち／漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	7 (書く1)	ぼくの世界，君の世界	□筆者の考えに気をつけながら，文章の要旨を捉え，「心の世界」について考える。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	2・3	○単元名やリード文を読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．筆者が取り上げた「心の世界」についてのさまざまな例を捉える。 （1）「昔から大真面目に議論されてきた問題」とはどのような問題か。文章中の言葉を使って説明する。「例えば」という書き出しで，前の部分の具体的な説明がされていることを確認する。 （2）筆者が「ぼくの世界，君の世界」についての考えを伝えるために，いくつの例を出しているのか確認し，電球，「あまみ」「痛み」，友達と好きなアニメについて話し合っている部分の四つがあげられていることを捉える。 電球，「あまみ」「痛み」の例と，友達と好きなアニメについて話し合っている例をとおして，筆者はどのようなことを言いたいのか，自分の経験も合わせて話し合う。	○ p.38 のリード文やp.46 の前文をもとに，筆者の考えに気をつけながら文章の要旨を捉え，「心の世界」について感想を書く，という単元の流れを確認する。 ○「見え方や感じ方などの感覚が全ての人に共通しているといえるか」「自分が感じていることと，他の人の感じていることが同じであるといえるか」などとまとめることができる。また，p.39・42 の文には二度「保証」という言葉が出てくることから，「感覚は，全ての人に共通しているという保証があるか」などのまとめもできる。 ○アニメの例は，第13・14 段落がポイントとなる。電球などの例から，「結局，私たちは，一人一人……つまり，人と人は，永遠に理解し合えないのだろうか。そうではない，とぼくは思う。」と述べ，「永遠に理解し合えないのではない」ということを述べる例としてアニメが出されているので，この例から筆者が述べたいことは，第17 ～ 19 段落となる。「おたがいのちがいがわかった」「私たちは，それなりに心を伝えたり受け取ったりしている」などの表現が重要となる。	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ）	要旨を読み取る	文／漢字／言葉／気持ち／登場人物／伝える／事実／要旨／段落／筆者／事例／文章／説明文／比べる／国語辞典／述語／図／本文
			■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。　⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ ■引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)エ □事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。　⇒思判表C(1)ア □目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。　⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。　⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。　⇒思判表C(2)ア ☆道徳：自分と他の人には，その人なりの「心の世界」があることを知り，相手の立場に立ち，自分と異なる意見や立場を大切にする心情を育む。	4・5 6・7 8	考えよう ２．筆者の主張に対しての自分の考えをまとめる。 筆者の主張である「心を伝え合うための努力が必要」という部分に対して，筆者があげている例で共感できる部分や共感できない部分はあるかを整理し，自分の考えをまとめる。 深めよう ３．共通理解をする体験から考えを深める。 （1）一枚の写真を見て，感じたことを一言で表現し，発表し合う。 （2）同じような感じを受けた者同士でグループになって質問し合い，互いの共通点と相違点を出し合う。 （3）全体で発表し合い，言葉で伝えることで感じ方の違いを理解し合えることについて考えをまとめる。 **広げよう** ４．『ぼくの世界，君の世界』を読んで考えたことをもとに，「自分の世界」について考えて書く。 （1）学習を振り返り，「心を伝え合うための努力」とはどのようなことか考える。 （2）「自分の世界」を140文字程度で書き表す。 ○学習をふり返る。	○児童の実態に応じて，文章を読んで感じたことや考えたこと，文章の要旨，本文にあげられた例と自分のこれまでの経験などの視点を与える。p.48の例文のように，文章から言葉や文を引用し，それに対して考えたことや感じたことを書かせる。 ○「笑って見える犬の写真」を例として，「かわいい・こわい・たのしい・ふしぎ・気持ち悪い」等の素朴に感じたことを出し合うことで，同じものを見ても感じ方が違うことを実感できるようにする。 ○同じように感じたグループごとに，互いに質問し合いながら共通点と相違点を整理させ，発表し合うようにする。言葉で伝えることでわかり合うことができる体験を通して，「ぼくの世界・君の世界」を通して筆者が伝えたいことについて気づいたことをまとめるようにする。 ○ 同じ文章を読んでも感じたことや考えたこと，着目した言葉や文が違うことを交流することも「心の世界」を理解することである。これまでの学習での体験と結びつけるようにする。 ○次時から話し合い「うれしさ」について，ここであらかじめ体験を想起して書いておいてもよい。	◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】進んで筆者の考えに気をつけながら，文章の要旨を捉え，自分の経験をふりかえりながら「心の世界」について考えようとしている。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	4 (話す聞く3・書く1)	「うれしさ」って何？――哲学対話をしよう	◇お互いの考えや意見を関連づけて述べ合い，共通点や相違点をもとに分類する。 △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ ◇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。　⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えること。　⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。　⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。　⇒◎思判表A(1)オ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。　⇒思判表A(2)ウ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(2)ウ	9

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10 ～ 11	5 (書く2)	言葉は時代とともに	△言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを知り，自分の考えをまとめる。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。　⇒◎知技(3)イ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒知技(3)ウ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：時代とともに変化していく言葉について興味をもって調べたり，わが国の伝統や文化への関心を高めたりする。	1・2 3 4・5	1．『言葉は時代とともに』を読み，言葉の変化について考える。 2．『万葉集』や近代の代表的な文学者の作品にふれて，その言語表現を味わう。 3．身のまわりの事物から，言葉の変化を考えてみる。 4．時代とともに変化していく言葉について調べて，考えたことを交流する。	○「言葉は時代とともに」変化しているという，教材の概略を捉えさせる。 ○『万葉集』や正岡子規，夏目漱石，芥川龍之介の作品を音読して，それぞれの文章の違いに気づかせる。 ○身のまわりの事物や語彙の変化を調べる。その際，書物からだけではなく，お年寄りにきいてみることも大事な取材活動になる。 ○言葉の変化は，発音や文章の文体，文法など，さまざまな観点から考える必要があるが，ここでは語彙の変化が中心になるだろう。 ○「言葉の変化」について，自分の取材をもとに意見を書かせ，友達と交流させる。	◎【知技】古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して，昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【思判表】「書くこと」において，文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bカ） 【態度】積極的に言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを理解し，学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。		言葉／漢字／短歌／俳句／文章／言葉づかい／日本語／歴史的仮名遣い／インターネット／理由／伝える

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	6 (書く6)	二　説得力のある文章を書こう	■理由や根拠を示して，説得力のある意見文を書く。						
11		自分の考えを発信しよう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。　⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。　⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：文章を書く活動でも活用できる。	1 2 3 4 5 6	○「学習の進め方」を読み，どのように意見文を書くのかイメージし，学習の見通しをもつ。 ○小学生が書いた投書を読み，意見文や投書がどのようなものなのかつかませてもよい。 **決めよう・集めよう** １．課題を決めて，取材する。 **組み立てよう** ２．自分の主張を効果的に伝える構成を考える。 **書こう（重点）** ３．意見文を書く。 **読み返そう（重点）** ４．意見文を読み返す。 伝え合おう（重点） ５．友達と読み合って，交流する。 ○学習を振り返る。	○活動の流れを意識させ，児童の意欲を高める。 ○小学生が書いた投書を読み，意見文や投書がどのようなものなのかつかませてもよい。 ○日頃感じている問題や改善したいこと，困っていることを話し合わせ，意見文に書くテーマを考えさせる。 ○自分が経験したこと，きっかけだけではなく，引用することを前提として資料を探させる。そうやって取材することで根拠が明確になりより，説得力のある意見文になることを確認する。引用の際は，正確に引用できるように，書誌情報を明記させる。 ○教科書の「構成表」をもとに，序論・本論・結論の構成を理解する。 ○一方的に自分の意見を言うのではなく，反対意見を予想して書いたり，その反対意見に反論したりすることを大切にさせる。 ○反対意見とその反論を書くときには，「確かに，……。しかし，……。」という書き方があることを確認する。 ○読んでもらって，書いてよかったと思わせることが大切である。また書きたいという気持ちにさせる。 ○書き手の目的や意図に応じた内容になっているかを考えながら，よいところについて感想を述べ合う。また，よりよくするという観点から，お互いに助言し合う。 ○書いた意見文を，新聞に投稿させてもよい。学校外や社会に向けて自分の意見を発信させることの意義に気づける良い機会となるだろう。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，文章の構成や展開，文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「書くこと」において，引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bエ） ◎【思判表】「書くこと」において，文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bオ） ◎【思判表】「書くこと」において，文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bカ） 【態度】積極的に情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し，学習課題に沿って理由や根拠を示して，説得力のある意見文を書こうとしている。	説得力をもたせて書く	意見文／課題／取材／新聞／メディア／インターネット／伝える／漢字／アンケート／情報／インタビュー／意見／立場／課題提起／結論／構成／序論／始め／本論／中／終わり／理由／コミュニケーション／根拠／事実／反論／読み返す／引用／投書

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11	1	漢字の広場　④ 音を表す部分	△形声文字について，音と意味，成り立ちも含めて理解する。 △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．p.38「１」の設問にある文例を読み「清」「晴」「精」の共通点について考える。 ２．p.39「２」の設問に取り組み，音を表す部分が，へん・つくり・かんむり・あし等のどの位置にあるか話し合う。 ３．文字によって音が違うものもあることを知る。 ４．p.39「３」の設問をもとに，未習の漢字の読みを推測する。 ５．p.39「４」の設問に取り組み，音を表す部分への関心を深める。 ６．p.39「５」の設問を解き，同音の漢字を正しく使い分けるようにする。 ７．p.39「６」の設問に取り組み，音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し，ノートにまとめ，それぞれの漢字を使った熟語を集め発表し合う。	○形声文字の音を表す部分について理解するという学習課題を確かめ,漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○４年生で学んだ「漢字の部首」と「漢字の音を表す部分」，５年生で学んだ「漢字の成り立ち」を想起させ，形声文字の特質を再確認できるようにする。 ○「清・晴・精」がどれも「セイ」という読みかたをする，どれも「青」という字が含まれていることをおさえる。 ○どれも意味を表す部分と，音を表す部分とを組み合わせた漢字（形声文字）であることを確認する。 ○「青」という音を表す部分にもつ漢字を例に，形声文字の音を表す部分について理解を深めるようにする。 ○音を表す部分の字形と読み方を確認する。 ○高学年で学習する漢字のほとんどは，形声文字である。音を表す部分に着目することで，未習の漢字の意味や読み方を推測できるようになるなど，漢字学習の効果を図りたい。 ○「各－客－路」については，最初から「読み方が違うものもある」と提示するのではなく，一度，児童に考えさせるようはたらきかけたい。 ○同様の例には次のようなものがある。 「反－返」「丁－打」 ○「批・詞・創」は，新出漢字である。既習の「比・司・倉」から読み方を推測できるということを体験させておきたい。 ○すべて形声文字なので，それぞれの言葉を声に出して読ませ，音を表す部分を取り出してその読み方を確認できるようにする。 ○熟語の意味をもとに，適切な漢字を選ぶようにする。 ○学習に際しては，漢字辞典や国語辞典の活用がより効果的である。漢字に対する興味・関心を高めつつ，積極的に文字を調べる態度を養うようにする。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習の見通しをもって形声文字について，音と意味，成り立ちも含めて理解しようとしている。		漢字／共通点／様子／熟語／発表
	1 （書く1）	漢字の広場　④ 五年生で学んだ漢字　④	△絵を見て想像したことをもとに，５年生で学んだ漢字などを使って文を作り，書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に，感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。　⇒思判表B(2)ウ	2	８．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ９．４年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 10．互いの作った文を読み合い，感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	○p.40の絵を拡大して黒板に貼っておくと,指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある５年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる学校生活の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○条件をつけて文を書くよう促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして，それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 ○音を表す部分について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，　意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
11 ～ 12	8 （書く 2）	三　登場人物の変化を読み，自分の考えをまとめよう	□登場人物の心情の変化を考えながら読み，想像したことを書く。						
11 ～ 12		きつねの窓	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒◎知技(1)オ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。　⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。　⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。　⇒思判表C(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表B(2)イ □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，生命がかけがえのないものであることを知り，自他の生命を尊重することについての考えを深める。	1 2・3 4・5 6 7・8	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．子ぎつねに対する「ぼく」の心情の変化をまとめる。 考えよう ２．「窓」に移ったものや，「ぼく」と子ぎつねの「窓」に映ったものを比べて気づいたことをノートにまとめる。 深めよう ３．不思議な世界に行ったことによって，「ぼく」にはどのような変化があったのか話し合う。 広げよう ４．「窓」でどのようなものを見たいのか，理由と合わせて想像したことを書き，友達と読み合う。 ○学習をふり返る。	○登場人物の心情の変化を考えて読み，登場人物になって想像したことを書くという単元の見通しをもたせる。 ○子ぎつねとの出会いから別れるまでの，「ぼく」の心情の変化を考える。ここでの「場面」とは，子ぎつねが「したこと」によって分けていく。子ぎつねは，「ぼく」にいろいろな誘いをかける。それぞれを一つの場面として考えたい。 ○「『ぼく』の心情」を読み手として想像する場合は，登場人物の言動や状況を根拠として想像をふくらませる。 ○両者に共通している事柄を抽出することによって，「窓」の意味やはたらきがはっきりしてくる。 ○「ここが大事」にある「ファンタジーの特徴の一つ」である「不思議な世界に入り，また戻って来る」物語である。一般に，戻って来た登場人物には変化（成長）がみられることが多い。この物語の場合はどうか。そこが話し合いの中心になる。 ○「変わらない」，「変わった」，「変わった」とすれば，どのように変わったのか。クラスで一つにまとめる必要はなく，意見，考えを交流することに，話し合いの主眼を置く。「なぜならば……」と，根拠をはっきりさせて発言するようにする。○「ここが大事」にあるように，不思議の世界が，「ぼく」にとってどのような意味をもっているのかを考えることも必要である。 ○「きつねの窓」における「窓」はどのようなものなのかを確認し，見たいものを理由とともに想像できるようにする。 ○ p.62 の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し，話の中で使っているとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにしている。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】進んで登場人物の心情の変化を考え，学習の見通しをもって想像したことを書こうとしている。	ファンタジーを読む	文／漢字／物語／心情／場面／人物／根拠／伝える／気持ち／言葉／訓読み／慣用句／ファンタジー／登場人物／構成

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	6 (話す聞く2・書く2)	書評を書いて話し合おう	△これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き，紹介し合う。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒◎知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒知技(1)カ △日常的に読書に親しみ，読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。　⇒◎知技(3)オ ◇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。　⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えること。　⇒◎思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。　⇒◎思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。　⇒思判表A(1)エ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。　⇒思判表C(1)カ ◇意見や提案など自分の考えを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表A(2)ア ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ ☆図書館指導：友達に紹介された本を探して読む。	1・2

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
12	2	敬意を表す言い方	△話す相手や場面に応じて，敬意を表す言い方を適切に使い分ける。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。　⇒◎知技(1)キ	1 2	○冒頭の会話文を通して，敬意を表す際にさまざまな言い方があることを知る。 １．教科書を読み，敬意を表す言い方としてどのような言い方が適切か理解する。 ２．場面や相手に応じて，敬意を表す言い方として適切な言い方を選ぶ。 ○学習したことを振り返る。	○敬語を使っていても必ずしも丁寧な言い方にならないことに気付かせる。 ○実際の場面を想定し，自分ならどのように言うかを考えさせながら学習を進めたい。 ○文末の形によって丁寧さや受ける印象が違ってくることに気付かせる。 ○場面によって，どの表現が適切か話し合わせ，発表させる。 ○敬意は敬語だけでなく漢語を使用することでも示せることに気付かせる。また，身内のことを言い表す際は尊敬語を用いないことに気付かせる。 ○敬語を使うこと以外にも，話す時の声の調子や表情，しぐさなども敬意を表すことにつながることを理解させ，よりふさわしい表現ができるように，ロールプレーなどをとおし練習させるとよい。	◎【知技】日常よく使われる敬語を理解し，使い慣れている。（〔知識及び技能〕(1)キ） 【態度】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し，学習課題に沿って敬意を表す言い方を適切に使い分けようとしている。		敬意／アンケート／尋ねる／漢字／謙譲語／言葉／電話／尊敬語／伝える／メモ／敬語／気持ち
1	2 （話す聞く1・書く１）	言葉と私たち	言葉に対する自分の考えを書き，言葉への関心をもつ。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒◎知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ ◇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。　⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えること。　⇒思判表A(1)イ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ □目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。　⇒◎思判表C(1)ウ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表A(2)ア ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。　⇒思判表C(2)ア	1

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1	1	漢字の広場　⑤ 同じ訓をもつ漢字	△異字同訓について理解を深め，関心をもつとともに正しく使い分ける。 △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．p.74上段の設問にある文例を読み「あける」の意味や使い方について考える。 ２．p.74下段の設問に取り組み，言葉の意味や漢字の使い方を考えて話し合う。 ３．p.75上段の「つとめる」「はかる」について，辞書を使い，適切な漢字を選ぶ。 ４．p.75下段の言葉を使って文を作り，ノートにまとめ，発表し合う。	○同じ訓をもつ漢字について理解するという学習課題を確かめ,漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○同訓で意味の近い語が漢字で書かれる場合，その使い分けは慣用によっているので，ゆれが生じやすい。国語辞典や漢字辞典を利用し，漢字の適切な使い分けを確認する習慣を身につけさせるようにしたい。 ○「～が明ける」（期間が終わる），「～を開ける」（ひらく），「～を空ける」（からにする）を含む文の「が」「を」の助詞の違いにも着目させるとよい。 ○文脈から判断したり，知っている熟語に置きかえたりして考えてみるなどの習慣を身につけさせたい。 　例：おさめる…治安・納税・収容・修学 ○類義の語に置きかえて考えてもよい。 　例：治める（静める），納める（相手に渡す），収める（中に入れる），修める（身につける） ○『漢字の広場３　熟語の意味』で扱った意味のよく似た熟語どうしと同様に，どちらを用いてもよい場合があることも踏まえておきたい。 ○「勤務」という語は，給料をもらって仕事をするという「勤める」と同義であり，役目や任務を果たす「務める」という意味は薄い。 ○「（会社など）に勤める」「（役目など）を務める」と，助詞が異なることに着目できるとよい。 ○「計る」は時間・数などを数える，「測る」は長さ・高さ・深さ・広さ・程度を調べる，「量る」は重さ・容積を調べる際に使うことが多い。 ○同訓の漢字の使い分けを調べるには，国語辞典が便利だということに気づかせる。	◎【知技】・思考に関わる語句の量を増し，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習の見通しをもって異字同訓について理解を深め，関心をもつとともに正しく使い分けようとしている。		同じ訓をもつ漢字／文／漢字／言葉／国語辞典／漢字辞典
	1 （書く1）	漢字の広場　⑤ 五年生で学んだ漢字⑤	△絵を見て想像したことをもとに，５年生で学んだ漢字などを使って文を作り，書く △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に，感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。　⇒思判表B(2)ウ	2	５．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ６．４年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 ７．互いの作った文を読み合い，感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	○p.76の絵を拡大して黒板に貼っておくと,指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある５年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる場面の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○条件をつけて文を書くよう促すと，記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして，それらを自分の表現に生かすよう働きかける。 ○同じ訓をもつ漢字について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，　意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／場面

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
1〜2	11 (書く3)	四　伝記を読んで，人物の生き方について自分の考えをまとめよう	□伊能忠敬の生き方を考えたあと，興味のある人物の伝記を読んで，その人物を紹介する。						
1〜2		伊能忠敬	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒知技(1)カ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。　⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。　⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。　⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること　⇒◎思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。　⇒思判表C(2)イ ☆道徳：伝記の読みをとおして，より高い目標を立て，希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする気持ちをもつ。	1 2・3 4・5 6・7 8〜11	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 確かめよう １．時を表す言葉や年齢を手がかりに，伊能忠敬の人生を年表に整理する。 **考えよう** ２．伊能忠敬がどのような人物なのか（性格・ものの見方・考え方など）がわかる文を選んで，伊能忠敬の人物像を話し合う。 **深めよう** ３．伊能忠敬の生き方で深く考えさせられたことをまとめ，それについての自分の考えを，ノートに書く。 広げよう ４．伊能忠敬について，どのような人物なのかの紹介と，その生き方についての自分の考えをポスターにまとめて，友達と読み合う。 ○学習をふり返る。	○伊能忠敬の生き方について自分の考えをまとめ，興味のある人物の伝記を読んで紹介するという単元の見通しをもたせる。 ○年表化することによって，「忠敬の行動」を視覚的に捉えやすくなる。異なるできごとがある年は，同じ年の中に，複数の柱を立てる。 ○「ここが大事」の，「どのような考えで，どのようなことをしたのか」を考えたり，「自分との共通点や相違点を見つけ，比べながら読」んだりすることがあってもよい。 ○教科書の発表例にもあるように，根拠をはっきりさせて「どのような人物なのか」を捉えるようにする。 ○交流し合いながら，収束できることはまとめていくが，異なる場合は，その違いを大切にする。一人の人物が，さまざまな側面をもっていることを大事にしたい。 ○「深く考えさせられた」とは，いちばん印象に残った事柄（生き方・考え方・行動など）と捉えることができる。「伊能忠敬の生き方」は本文からの（要約）引用となる。それに対して「自分の考え」を述べるが，具体的な根拠や事由をはっきりさせることが大事である。自分の経験と照らし合わせて具体的に書けるとよい。 ○教科書の例文では，忠敬の行動を，自分なりの言葉で解釈し，そのうえで思ったことを述べている。 ○伝記の人物のものの見方や考え方が伝わるように，見出しの言葉や取り上げたい内容を決めるようにする。児童の実態によっては，別の伝記を読み，生き方についての自分の考えをポスターにまとめてもよい。 ○ p.100 の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。	【知技】文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，文章の構成や展開，文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し，学習課題に沿って伊能忠敬の生き方を考えたあと，興味のある人物の伝記を読んで，その人物を紹介しようとしている。	伝記を読む	文／気持ち／漢字／記録／説明／手紙／物語／人物像／根拠／伝記／共通点／相違点／ポスター／見出し／言葉／事実／比べる／様子／訳／図

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	2	日本語の文字	△日本語の文字の由来や特徴に関心をもち，適切に使い分けることができる。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いにも注意して書くこと。　⇒知技(1)ウ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ ◇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。　⇒思判表A(1)ア ◇意見や提案など自分の考えを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表A(2)ア	1 2	○日本語は，さまざまな文字を使って書き分けられていることを知り，学習活動に対する見通しをもつ。 １．漢字の由来・特徴について理解する。 ２．平仮名と片仮名の由来・特徴について理解する。 ３．ローマ字の由来・特質について理解する。 ４．日本語の文字と外国語の文字との違いについて理解する。 ５．日常生活の中で，日本語の文字がどのように使われているかを話し合う。 ○学習したことをふり返る。	○教材文冒頭のイラストに付された説明書きから，日本語には多様な表記があることを知り，日本語の文字の由来・特質を学習することに対する意欲を高める。 ○教材文を読み進めながら，漢字の由来や音訓の別，漢字の造語性などについて理解させる。 ○教材文にある平仮名と片仮名に関する説明を読み，それらが漢字をもとに作られたことを理解させる。 ○p.105・106の五十音図を見ながら，平仮名と片仮名がどのようにして作られたのかを確かめさせる。 ○教材文にあるローマ字に関する説明を読み，ローマ字が現在でもいろいろなところで用いられていることを理解させる。 ○日本語は，漢字や平仮名と片仮名・数字・ローマ字などを組み合わせることによって，分かち書きをしないでも読みやすく表記することができることに気づかせる。 ○p.107下段の設問に取り組ませ，漢字・平仮名・片仮名・ローマ字がそれぞれどのようなことを表すのに用いられているのかについてグループで話し合わせ，全体で共有を図る。 ○日本語の文字の由来や特徴を理解することで，日本語にさらに興味をもち，積極的に意識して使用できるようにしていくことを示唆しておく。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） 【態度】積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し，今までの学習を生かして適切に使い分けようとしている。		会意文字／片仮名／漢字／指事文字／象形文字／日本語の文字／平仮名／文字／音／形声文字／日本語／資料／訓／言葉／訳／万葉仮名／仮名／ローマ字／外来語

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2	1	漢字の広場　⑥ さまざまな読み方	△同形異語や熟字訓，同字異訓についての理解を深め，言葉の使い方に関心をもつ。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。　⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「上手」を例に，意味によって読み方が変わる言葉（同形異語）について知り，それぞれの意味や感じ方の違いを比べる。 ２．p.108下段の設問に取り組み，話し合う。 ３．「特別な読み方の言葉」（熟字訓など）について知り，p.110の一覧表を使って，どのような言葉があるのか確かめる。 ４．「降」「背」「夜」「尊」など，複数の訓がある漢字（同字異訓）の読み分け方について関心をもつ。 ５．p.155からの「小学校で学んだ漢字」をもとに複数の訓がある漢字を探し，送り仮名に注意し，表現の効果などについて確かめたり，工夫したりして文を書き，友達どうしで読み合う。 ○学習したことをふり返る。	○さまざまな読み方について知るという学習課題を確かめ，漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「うわて」「かみて」「じょうず」のそれぞれの意味を推測し，語感を考えてから辞典で意味や用例を調べ，比べるようにさせるとよい。 ○対義語となる「下手」（したて・うもて・へた）についても，それぞれに対応する読み方・意味・用例を調べるようにするとよい。 ○読み方の違いから，意味や感じ方が違ってくることに気づくようにし，その漢字が日常生活にどう根づいているかについて興味・関心を高めるようにしたい。 ○「いろがみ・しきし」「ふうしゃ・かざぐるま」などの意味がわかるよう実物・写真・イラストなどを提示するとよい。 ○読み方が変わると意味が変わるのか，意味は似かよっているが語感が異なるのか，具体的に考えさせるようにしたい。 ○「今」「朝」の音訓をp.155「漢字を学ぼう　小学校で学んだ漢字」の表から探し，それぞれに「け」「さ」という読み方がないことを確認させる。 ○熟字訓や当て字など特別な読み方をする言葉は，小学校の終わりのこの時期に再整理し，確認できるようにしておきたい。p.110の一覧表をもとに，仲間の言葉をまとめたり，関連する言葉どうしを集めたりして，日常生活と結びつけて扱うようにするとよい。 ○複数の訓がある漢字のうち，両用に読むことができる漢字については，声に出して読み，文脈や前後の言葉から，その言葉の感じ方をどう生かして読むのかを考えるようにさせる。それをもとにお互いに意見交換をすることが大切である。 ○読み手の感覚で読み分けることもあるように，読み方の正解が一つでない場合があることに気づかせたい。 ○文作りの学習をとおして，改めて，活用語尾を送るという送り仮名の原則的なつけ方について確認し，活用についての意識をしっかりもてるようにする。 ○さまざまな読み方をする漢字について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し，話の中で使っているとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにしている。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習の見通しをもって同形異語や熟字訓，同字異訓についての理解を深め，言葉の使い方に関心をもとうとしている。		漢字／言葉／話題／音／訓／送り仮名／お話

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
2〜3	8 (話す聞く4・書く4)	五　出会った言葉を振り返ろう	◇■□卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り成長を自覚するとともに，中学校での新しい言葉との出会いの希望をもつ。						
2〜3		ひろがる言葉	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。　⇒◎知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。　⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。　⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。　⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。　⇒◎思判表A(1)ア ◇資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。　⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。　⇒思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。　⇒◎思判表A(1)オ ■目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。　⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。　⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表B(1)カ ◇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。　⇒思判表A(2)ア ■事実や経験を基に，感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。　⇒思判表B(2)ウ	1〜3 4 5・6 7・8	1．六年間の言葉の学びを振り返りながら，「卒業式で自分におくりたい言葉」を選ぶ。 2．自分で選んだ言葉をグループ内で交流する。 3．選んだ言葉を工夫して表現する。 4．さまざまな表現方法で選んだ言葉を交流し，みんなの思いを共有する。	○六年間の言葉の学びにかかわるさまざまな思い出の品を持ち寄る。あるいは，それぞれの学年での代表的な単元や教材を教師が提示したり，思い出を自由に出し合ったりする。○国語の授業に限定することなく，読書体験やその他の学校生活の中で出会った言葉を思い出させてもよい。○「糸」の曲を聴くのもよい。「言葉」は単語とは限らないことを確認する。 ○挿し絵なども参考にしながら自由に思い出を語り合うようにする。理由やエピソードを必ず付け加えて話すようにする。　○互いに言葉を紹介するなかで，選んだ言葉が変更になってもよい。○簡単なメモをとらせたい。 ○どのような表現方法があるのか教科書を参考にして確認する。教科書例示外の方法があってもよい。学級の卒業に向けた取り組みとからめて考えることもできる。 ○できるだけ自由に個々の創意工夫を生かして楽しく交流し合いたい。○卒業を意識させるとともに，中学校での学びについてどこかで触れるようにする。	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Aア） ◇「話すこと・聞くこと」において，互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Aオ） ◎【思判表】「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，　意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「書くこと」において，文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bカ） 【態度】積極的に卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り，成長を自覚するとともに，中学校での新しい言葉との出会いの希望を持とうとしている。		言葉／新聞／伝える／発表／気持ち